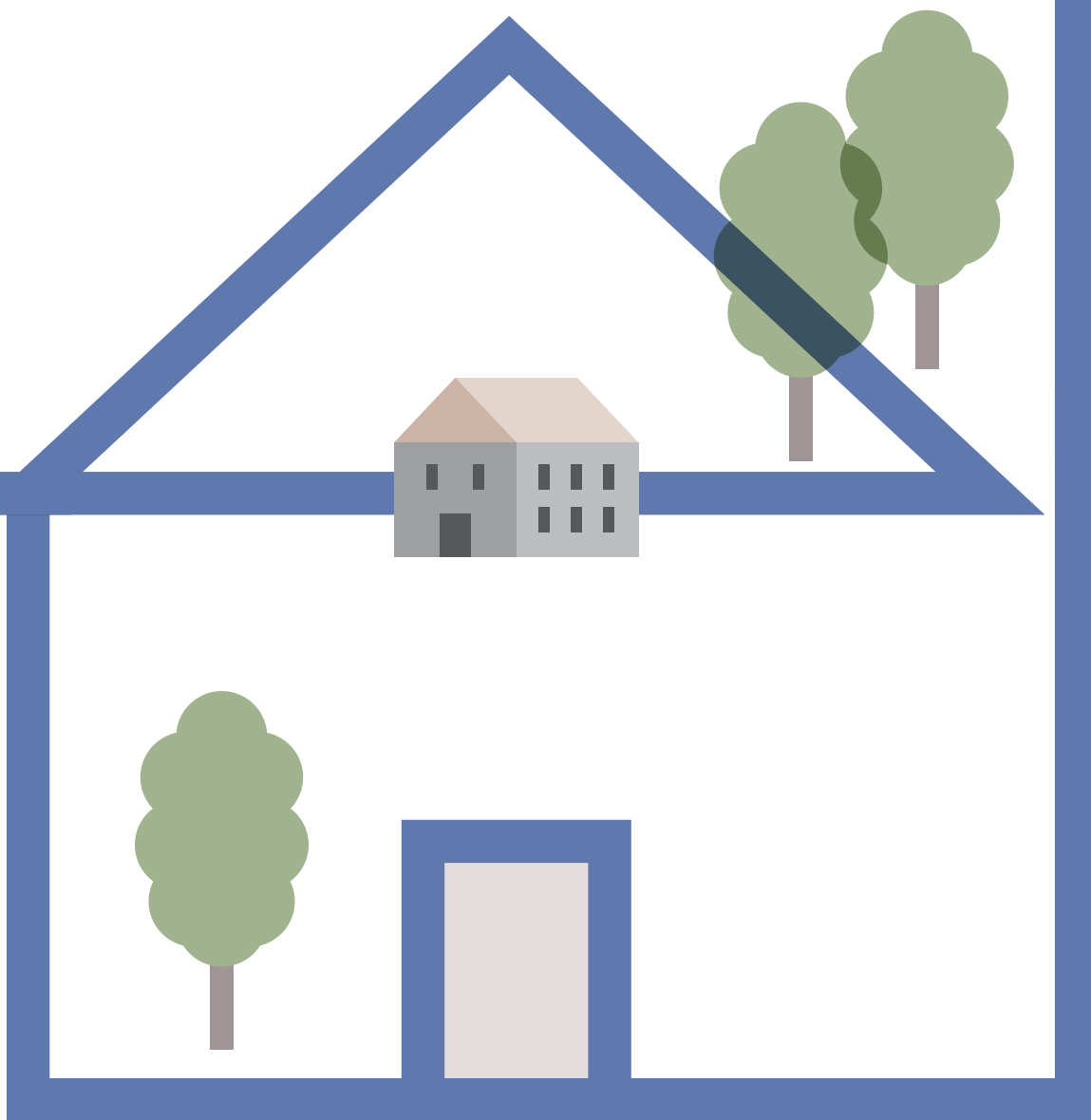


地域協議会による 地域木造住宅生産体制推進に 向けた取り組み



平成25年 3月

全国木造住宅生産体制推進協議会

本報告書について

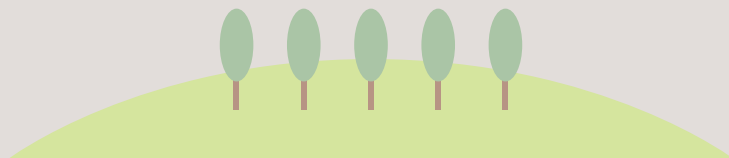


平成24年、国土交通省は、地域における木造住宅生産体制を強化・推進するために、地域の木造住宅生産にかかわる木材・流通・設計・大工・工務店等の各団体により構成される木造住宅生産体制推進協議会（地域協議会）を公募し、都道府県ごとに採択された。

この地域協議会の最初の活動は、木造住宅生産体制強化の1つである新築住宅の省エネルギー基準適合率を、平成32年までに100%とすることを目指した住宅省エネルギー技術施工技術者講習会の開催で、全国10,000人の目標を立て、11,143人の修了者を達成した。

そして、もう1つの活動が、平成24年度にスタートした地域型住宅ブランド化事業の支援である。地域協議会は各地でブランド化事業に取り組むグループと連携体制をつくり、各グループの活動を支援し、この事業の適正化ならびに普及・推進を図るという大切な役割を担っている。

本報告書は、平成24年度に採択された地域協議会および地域型住宅ブランド化グループのうち、平成24年度に先進的、先導的な活動を行った地域協議会とブランド化グループを取り上げ、地域協議会が各グループとどのように連携し、支援しているのか、また、各グループがブランド化事業へどのように取り組んでいるのか、他の協議会やグループへの参考とするため、その活動実績をまとめたものである。



目次

本報告書について	1
地域型住宅ブランド化事業の概要	4
地域型住宅ブランド化事業平成24年度第1回・第2回総評	6
評価のポイント(第1回・第2回共通)	8
ブランド化グループの連携体制のイメージ	10

地域型住宅ブランド化事業・第1回採択グループ事例

北海道	・ 地域協議会／北海道住宅・建築物生産体制強化推進協議会	14
	・ 道産材活用住宅 【道産材で造る家の会】	15
	・ 北の民家モデル 【特定非営利活動法人 北の民家の会】	17
	・ 北海道の震災対応スマートハウス・防災型長期優良住宅の拠点づくり 【北海道の地域工務店グループ・e-housing 函館】	19
	・ 北方型木造長期優良住宅 【北方型住宅ECO推進協議会】	21
	宮城県	・ 地域協議会／宮城県地域型復興住宅推進協議会
	・ 快適省エネ住宅 【宮城県 未来へ繋げる地域住宅生産者グループ】	25
	・ 宮城の伊達な杉の家 【宮城の伊達な杉の家を創る会】	27
東京都	・ 地域協議会／東京都木造住宅生産体制強化推進協議会	29
	・ 武蔵野の家 【「水と緑の循環型住宅」を考える会】	30
	・ 多摩の檜でつくる東京の家 【一般社団法人TOKYO WOOD 普及協会】	32
	・ 「いえ・まち」東京2012 【全木協東京都協会】	34



愛知県

- 地域協議会／愛知県木造住宅生産体制強化地域協議会 …………… 36
- 優良住宅「中京の家」…………… 37
【中京優良住宅ねっと】
- 東海道あんしんの家…………… 39
【東海道こだわりの家づくりの会】

広島県

- 地域協議会／広島県木造住宅生産体制強化推進協議会 …………… 41
- もみじの家 …………… 42
【ひろしま地域住宅の会】
- 風・光・安芸のいえ…………… 45
【広島県工務店協会】

長崎県

- 地域協議会／長崎県ゆとりある住まいづくり推進協議会 …………… 47
- 「うちんがたん木の家」～水を操り、風と調和する長崎型長期優良住宅～ …………… 48
【西九州優良木造住宅を創る会】
- 長崎のすて木な家…………… 51
【長崎すて木な家づくりの会】

地域型住宅ブランド化事業（平成24年度）採択グループ一覧 …………… 54

平成24年度 地域型住宅ブランド化事業の概要

事業の目的

本事業は、地域の木造住宅生産・維持管理体制の強化を図ることを目的としている。

具体的な形としては、中小住宅生産者、すなわち地域の大工・工務店等とそれを取り巻く地域材等資材供給から設計・施工までの事業者が、緊密な連携体制（グループ）をつくり、地域資源を活用して、良質で地域の気候・風土に適した特徴的な「地域型住宅」の供給に取り組むことを支援するものである。

これにより、地域の大工・工務店等が供給する住宅に対する消費者の信頼性の

の向上、地域経済の活性化と持続的発展、地域の住文化の継承および街並みの維持・保全、木材自給率の向上による森林・林業の再生等に寄与することを目指している。

そのため、国土交通省は、各地域で構築されたグループを公募し、グループごとに定められた共通ルール等の取り組み内容が良好なものを採択し、採択されたグループに属する中小住宅生産者等が、自分たちで定めた共通ルールに基づいて木造長期優良住宅の建設を行う場合、その費用の一部を補助するものである。

グループの要件

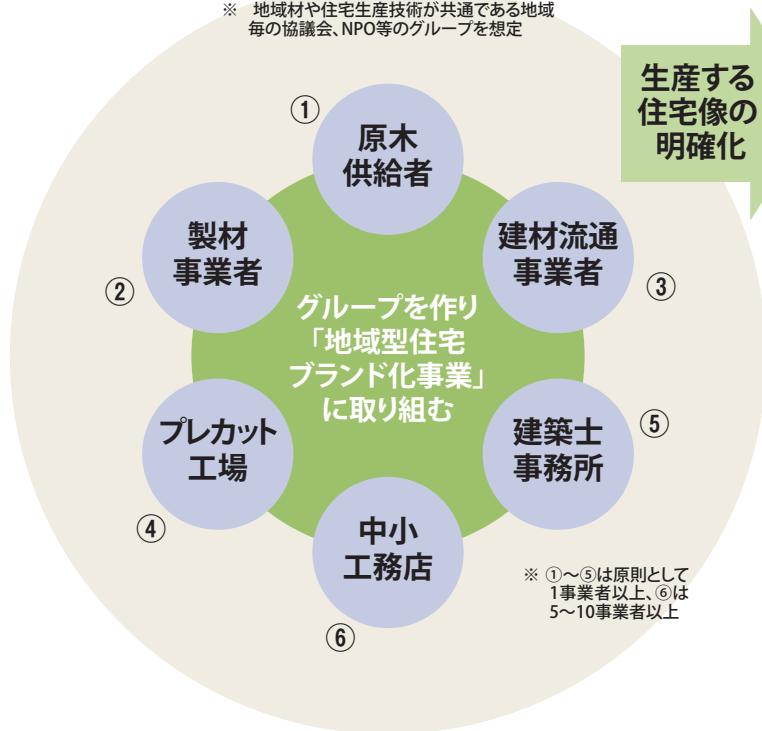
原則として地域材を活用した木造長期優良住宅の供給に取り組むこと、また、①原木供給、②製材・集成材製造・合板製造、③建材流通（木材を扱わない事業者を除く）、④プレカット加工、⑤設計、⑥施工、⑦木材を扱わない流通、⑧その他のうち、①から⑥は原則としてそれぞれ1事業者以上で構成されていること、ただし、⑥の施工は5～10事業者以上で構成され、かつ個々の事業者は、原則として元請の年間新築住宅供給戸数が50戸程度未満の住宅生産者（中小住宅生産者）であることが応募グループの要件となる。

平成24年度 地域型住宅ブランド化事業

前提条件

関連地域産業の連携による 住宅生産体制[※]

[※] 地域材や住宅生産技術が共通である地域毎の協議会、NPO等のグループを想定



生産する
住宅像の
明確化

具体像と共通ルール

地域材を活用し、地域の気候・風土にあった「地域型住宅」の具体像、共通ルールを作る

具体像 地域の気候・風土、街なみ景観等の特徴
地域材の特徴、地域材供給の現状
「地域型住宅」の具体像

上記に基づき共通ルールを作る

共通ルール 地域型住宅の規格・仕様に関する共通ルール
地域材の供給・加工・利用に関する共通ルール
積算、資材調達、施工に関する共通ルール
地域型住宅の維持管理に関する共通ルール

地域型住宅の
ブランド化に
向けて

具体的取組と役割分担

信頼性確保

維持管理

普及促進

技術継承

新技術導入

資源循環利用

災害時の応急仮設住宅供給体制

[※] ①～⑤は原則として1事業者以上、⑥は5～10事業者以上

補助対象となる住宅

補助対象となる住宅は、グループごとの地域型住宅の共通ルール（グループ採択時に指定する内容）に即して、グループ構成員である中小住宅生産者等によって供給されるものであること、かつ、長期優良住宅の普及の促進に関する法律（平成20年12月5日法律第7号）に基づき所管行政庁による長期優良住宅建築等計画の認定を受け、グループに対する採択通知発出後に着工するものであること、この二つの要件を満たす地域材を活用する木造住宅である。

補助金について

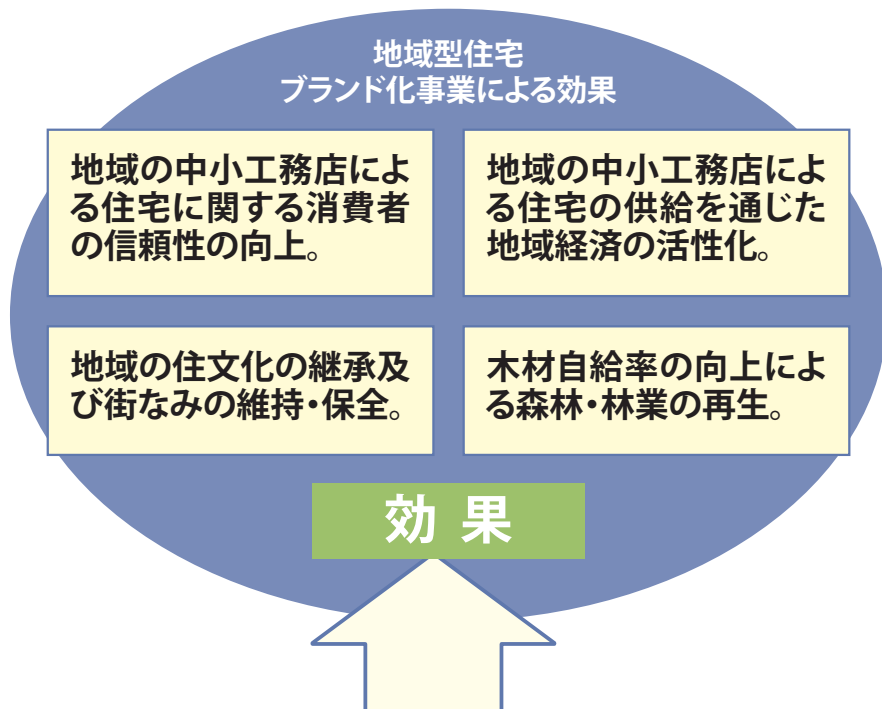
本事業の補助金の額は、地域材を活用した上記の補助対象となる住宅1戸当たり建設工事費の1割以内かつ100万円が上限である。

また、平成24年度の場合、柱・梁・桁・

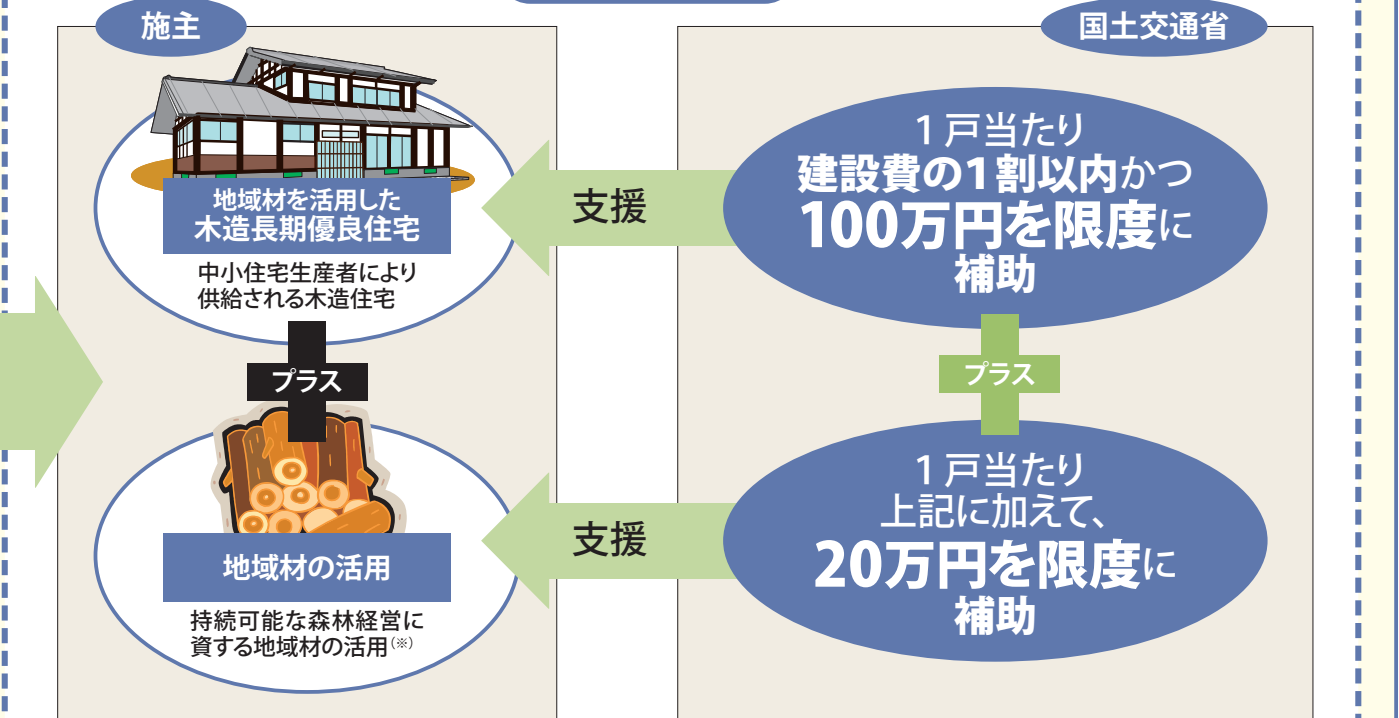
土台の過半を、都道府県の認定制度等によって産地証明等がなされている木材、つまり、地域の持続可能な森林経営に資する地域材を使用すると、1戸当

たり20万円を限度に加算補助される。

条件を満たせば、対象住宅の建設工事費の1割以内で、1戸当たり最大120万円が補助される。



補助内容



(※) 柱・梁・桁・土台の過半において、都道府県の認定制度などにより産地証明等がなされている木材を使用

当該事業に取り組もうとするグループから、『地域型住宅』生産の共通ルール等に関する提案を募集し、学識経験者からなる評価委員会による評価結果を踏まえ、優れた提案について、これら提案内容に基づく活動を行うことを要件として国土交通省が採択を行う。

採択されたグループ内の中小工務店が、上記の地域毎の住宅生産システムの共通ルールに基づいて木造の長期優良住宅の建設を行う場合に、当該建設にかかる費用の一部について補助を行う。

地域型住宅ブランド化事業 平成24年度第1回・第2回総評

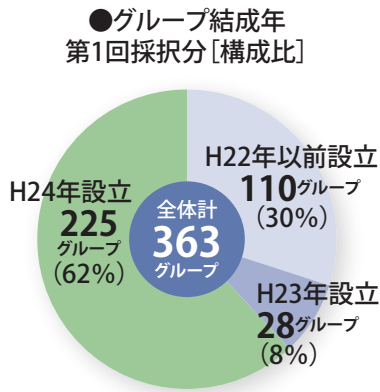
◆第1回応募状況

592グループが応募・
363グループが採択

第1回の公募期間は平成24年4月25日から6月8日。この間、592グループからの応募があり、この中から363グループが採択された。

応募した中小住宅
事業者は11,276社

各グループのメンバー構成を見ると、1グループあたりの平均メンバー数（1事業者が複数の応募グループに所属する場合を含めた重複集計）は56.9社。最も多いグループでは795



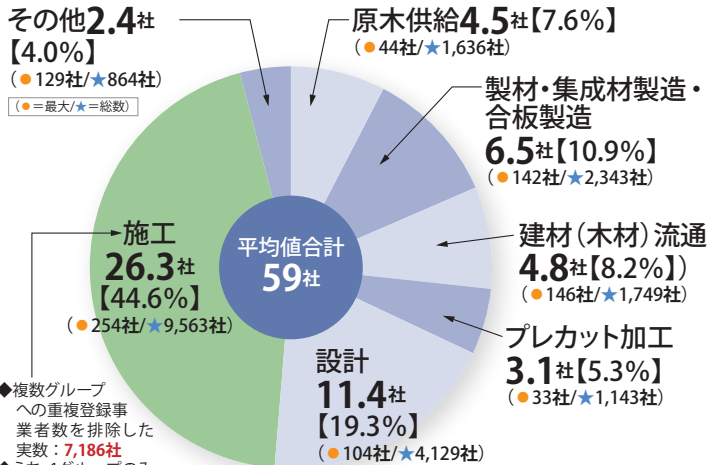
社であった。業種別では、原木供給が4.2社（最大42社）、製材・集成材製造・合板製造5.9社（同135社）、建材（木材）流通5.3社（同132社）、プレカット加工3.3社（同30社）、設計11.9社（同104社）、施工24.5社（同254社）、その他1.9社（同126社）であった。

施工事業者が全グループ構成員の4分の1近くを占めており、延べ14,496社。1事業者が複数の応募グループに所属するケースもあり、それを含めた数字である。この事業者の重複分を除くと11,276社となる。このうち1応募グループにのみ所属している事業者は8,864社、複数の応募グループに所属している事業者は2,412社となった。

グループ代表となる業者は施工事業者が最も多く約7割。グループ事務局を務める業種は建材（木材）流通事業者が最も多く約4割であった。グループを結成した年では平成24年が約7割。平成22年以前に結成したグループが2割程度あった。

第1回採択状況

●グループの平均値等／第1回採択分【構成比】

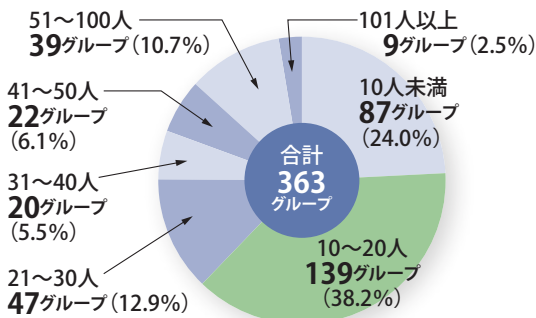


●グループ代表者・事務局業種分布
第1回採択分【割合】

業種	グループ代表者		グループ事務局	
	グループ数	%	グループ数	%
I 原木供給	14	3.9	7	1.9
II 製材・集成材製造・合板製造	31	8.5	29	8.0
III 建材（木材）流通	45	12.4	138	38.0
IV プレカット加工	20	5.5	50	13.8
V 設計	142	39.1	113	31.1
VI 施工	246	67.8	121	33.3
VII その他	25	6.9	51	14.0

※ 割合は採択グループ数（363及び115）に対する割合。
※ グループの代表者及びグループの事務局の事業者が複数業種兼ねる場合はそれぞれの業種においてカウント。

●「施工」事業者の参加状況／第1回採択分【構成員数別】



●地域材の使用状況／第1回採択分

	グループ数	国産材もしくは外材のみを使用することとしているグループ	
		国産材として国産材を使用することとしているグループ	国産材と外材の両方を使用することとしているグループ
地域材として国産材を使用することとしているグループ	360*	326	34
地域材として外材を使用することとしているグループ	28*	3	

※ 地域材として国産材と外材の両方を使用することとしているグループについては、両方に計上。

採択日（平成24年8月6日）現在

国産材使用グループは583グループ

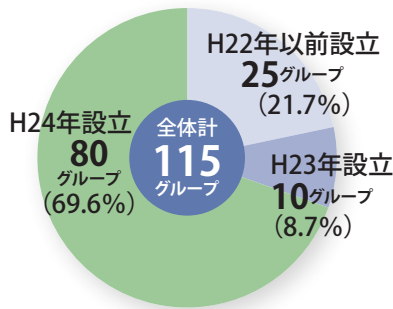
応募グループの中で地域材として国産材を活用しているグループは583グループ。外材の利用グループは43グループであった(ただし、地域材として国産材、外材の両方を使うグループは両数字に計上)。

◆第2回応募状況

148グループが応募・115グループが採択

第2回の公募期間は平成24年10月16日から11月12日。この間、148グループからの応募があり、この中から115グループが採択された。

●グループ結成年
第2回採択分[構成比]



応募した中小住宅事業者は1,953社

各グループのメンバー構成を見ると、1グループあたりの平均メンバー数(1事業者が複数の応募グループに所属する場合

合を含めた重複集計)は37.9社。最も多いグループでは117社であった。業種別では、原木供給が3.4社(最大15社)、製材・集成材製造・合板製造4.8社(同21社)、建材(木材)流通3.5社(同18社)、プレカット加工2.5社(同12社)、設計8.0社(同55社)、施工14.0社(同50社)、木材を扱わない流通0.7社(同4社)、その他0.7社(同11社)であった。

施工事業者が最も多く、1事業者が複数の応募グループに所属するケースもあり、それを含めた数字は延べ2,067社。重複分を除くと1,953社となり、このうち1応募グループにのみ所属している事業者は1,848社、複数の応募グループに所属している事業者は105社であった。

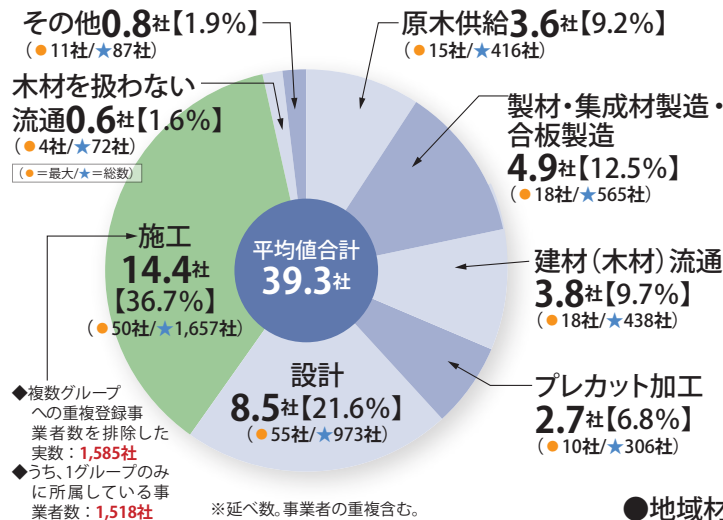
グループ代表となる業者は施工事業者が最も多く約7割。グループ事務局を務める業種は建材(木材)流通事業者が最も多く約4割で、ともに第1回目と同じであった。グループを結成した年では平成24年が約7割。平成22年以前に結成したグループも2割程度あった。

国産材使用グループは146グループ

応募グループの中で地域材として国産材を活用しているグループは146グループ。外材の活用グループは24グループであった(ただし、地域材として国産材、外材の両方を使うグループは両数字に計上)。

第2回採択状況

●グループの平均像等/第2回採択分[構成比]



●グループ代表者・事務局業種分布
第2回採択分[割合]

業種	グループ代表者		グループ事務局	
	グループ数	%	グループ数	%
I 原木供給	2	1.7	2	1.7
II 製材・集成材製造・合板製造	5	4.3	6	5.2
III 建材(木材)流通	23	20	54	47.0
IV プレカット加工	4	3.5	12	10.4
V 設計	25	21.7	18	15.7
VI 施工	79	68.7	41	35.7
VII 木材を扱わない流通	4	3.5	8	7.0
VIII その他	4	3.5	7	6.1

※割合は採択グループ数(363及び115)に対する割合。
※グループの代表者及びグループの事務局の事業者が複数業種兼ねる場合はそれぞれの業種においてカウント。

●地域材の使用状況/第2回採択分

	グループ数	国産材もしくは外材のみを使用することとしているグループ	国産材と外材の両方を使用することとしているグループ
地域材として国産材を使用することとしているグループ	115*	88	27
地域材として外材を使用することとしているグループ	19*	0	

※ 地域材として国産材と外材の両方を使用することとしているグループについては、両方に計上。

採択日(平成25年1月11日)現在

評価のポイント (第1回・第2回共通)

応募グループを評価するにあたり、以下の点をポイントとした。

グループ構成員の連携体制等

評価のポイント

- ・グループとして連携体制および役割分担、合意形成プロセスが明確・適切であること。
- ・グループとして事業への取り組みの継続性が期待できること。

重要な視点

グループの連携体制としては、通常の商取引上の関係に留まらず、新たな付加価値がある地域型住宅の仕様や、合理化された供給体制等について、グループとして具体的に検討し、取り組んでいくことが求められる。

地域型住宅の特徴・具体像

評価のポイント

- ・地域に根ざした住宅づくりを目指していること。
- ・地域型住宅の性能やデザインに地域性を活かした特徴が見られること。

重要な視点

地域型住宅が地域に受け入れられるためには、地域の実情や住まい手のニーズ等に対する適切な理解、住宅市場の変化の読み取り、それらの分析に基づく住宅市場での狙いやターゲットの明確な設定が重要となる。

地域材の生産・加工・流通

評価のポイント

- ・地域材の選定にあたっての考え方や供給の流れ、加工方法等が明確かつ適切であること。
- ・地域材を積極的に使用する取り組みであること。

重要な視点

地域材の積極的活用が求められるが、その選定理由が十分でなく地元産材の活用とだけするグループが多い。地域材活用の際のグループとしての基本的考え方、その実現のための具体的な取り組みの明示が求められる。

地域型住宅の生産および維持管理等に関する共通ルール

評価のポイント

- ・地域特性やグループの特徴をふまえた、規格・仕様、積算、施工方法、維持管理等に関する共通ルールが設定されていること。

重要な視点

仕様や規格等の共通ルールだけでなく見積・積算のルール化によるコストの見える化、資材等の共通仕入れによるコスト低減、共通の施工基準や検査方法による品質確保、倒産時のサポート体制、瑕疵発生時の対応等、総合的に取り組み、ブランド力を強化することが求められる。

地域型住宅の生産体制に基づく取り組み内容

評価のポイント

- ・グループやグループ構成員に対する信頼性の向上、グループ構成員の技術力の向上や技術の継承、人材育成、地域型住宅の普及促進、資源の循環利用に積極的に取り組んでいること。

重要な視点

評価のポイントにある事柄や長期優良住宅の実績のある構成員が不慣れな構成員をサポートする等、グループで行うことで可能な取り組みを実践し施主からの信頼確保、地域の住宅生産・維持管理体制強化に寄与すること。

その他

評価のポイント

- ・国や地方公共団体が推進する施策に適応した取り組みであること。
- ・地域貢献に配慮した取り組みであること。
- ・本事業を通して波及効果が期待できる取り組みであること。

重要な視点

グループとしての取り組みが、地域の住まいづくりへの貢献だけでなく、林業活性化や雇用機会の創出、災害時など緊急時の対応など地域社会への貢献に取り組むグループを積極的に評価。

第2回の追加評価

第2回には上記のほかにも2つの評価ポイントが追加された。

評価のポイント

- ・東日本大震災の復興に資すると認められる取り組み（被災者の生活再建に特に配慮したプランや仕組みによる住宅供給、被災地において産出された木材の活用等）。
- ・グループの取り組みの継続性が確実であり、中長期的な取り組みとして原木供給から設計施工に至るまでの幅広い業種における総合的な需給計画の策定やこれに基づく業種毎等の合理化に向けた取り組みを行うなど、特に重要な政策課題の実現に資するもの。



採択に至らなかったグループ等について

第1回、第2回を通して、申請内容の不備のため、あるいは本事業の本来の趣旨にそぐわないために採択に至らなかったグループについて、その主な理由は以下の通りとなった。

- ・応募要件を満たさないグループ。
- ・適用申請書の内容が乏しく、グループとして供給する地域型住宅やグループの活動の特徴が判然としないグループ。
- ・本事業では補助事業終了後も各グループが取り組みを継続し、地域の住まいづくりにおけるブランドを確立することが期待されており、一過性でない取り組みが望まれるため、グループの継続性に疑義のあるグループ。
- ・個々のグループは独立性を有していることが求められているため、それが保持できない、特定の1社あるいはそのグループ企業が事務局や構成員となっているグループ、全国展開等を行う大手事業者の影響力が強く示されているグループ。
- ・特定の企業等が主導する、あるいはそのような者のサポートに過度に依存しないと成立しないような取り組みとなっているグループ。

第2回応募グループと取り組み内容の特徴

第1回と比べ、第2回の応募グループはどのような変化があったのか。

グループ体制の構築について

- ・第2回の応募グループでは、新たに地域型住宅のブランド化を志向して体制づくりをしたグループ、従来からある組織・体制を発展・改組して本事業に組み込むグループが多くを

占めた。

- ・新たな取り組みを行うグループは、公開された採択グループの応募申請書を反映し、グループとして掲げる地域型住宅のイメージや共通ルールの設定などの内容が整理されているものが比較的多かった。

特に、第1回で不採択となり、今回再チャレンジしたグループにこの傾向が強く見られた。

- ・地域型住宅のブランド化を図るための体制として体をなしていないものや申請書からグループとして取り組む内容がまったくイメージできないものが少なかった。
- ・特定の1社が主導し、適用申請書の内容の大部分が同一のグループ、応募要件を満たすために構成員が集められたと思われるグループも減った。

グループ内での連携体制について

- ・グループ事務局や業種毎の構成員が担う役割を明示し、取り組む内容にまで具体的に言及するグループが増えた。特に共通ルールの実施状況等を事務局が確認するというように、チェック機能を事務局に付帯させるなど、グループ事務局の機能を強化する取り組みが多く見られた。
- ・構成員同士のバックアップ体制を構築し、構成員が倒産した場合の施工・維持管理対応に取り組むグループが多く見られた。

新たな評価ポイントについて

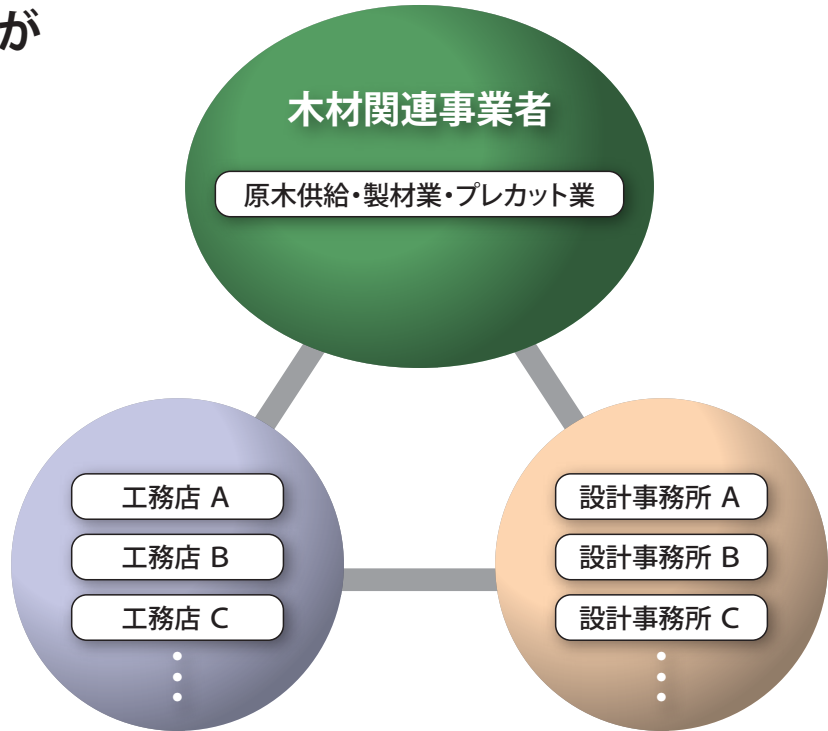
- ・「東日本大震災の復興に資すると認められる取り組み」については、その取り組みを行うグループに対しては積極的な加点評価を行ったが、復興の取組と合わせた地域型住宅のブランド力強化に向けた取り組みは少なかった。
- ・今後は、地域のニーズや実情を踏まえて、地域住宅の生産や地域材の調達・加工に関する中長期的な需給計画や具体的な人材育成目標を定めるなど、地域型住宅の安定供給や関連産業の持続等に向けた取り組みが期待される。

ブランド化グループの連携体制のイメージ

地域型住宅ブランド化事業に取り組むグループづくりには4つのパターンが考えられ、実際、このパターンでグループづくりが行われている。

1 木材関連事業者がリードするケース

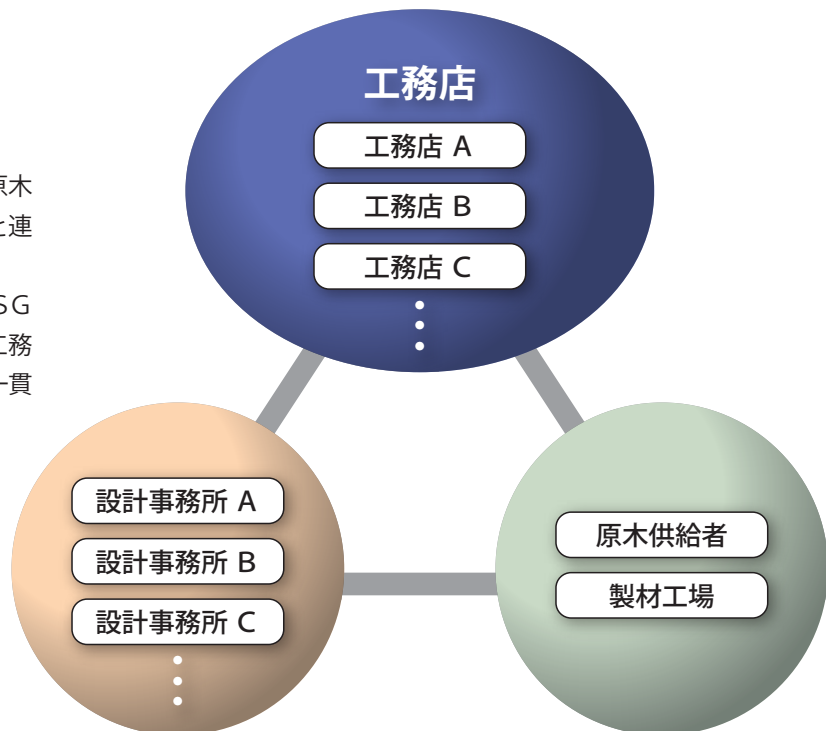
- 原木供給、製材業、プレカット業等の地域林産業者を中心とし、取引先工務店と連携体制を構築。



◆ 品質・性能を明らかにした地域材の安定的な供給による住宅生産体制の構築

2 工務店がリードするケース

- 工務店が数社集まって中心となり、原木供給者、製材工場、設計事務所等と連携し、産直住宅生産体制を構築。
- 木材利用に、天然乾燥、規格化、SG EC 認証100%等、こだわりを持つ工務店主導による、川上から川下まで一貫した住宅生産システムを実現。

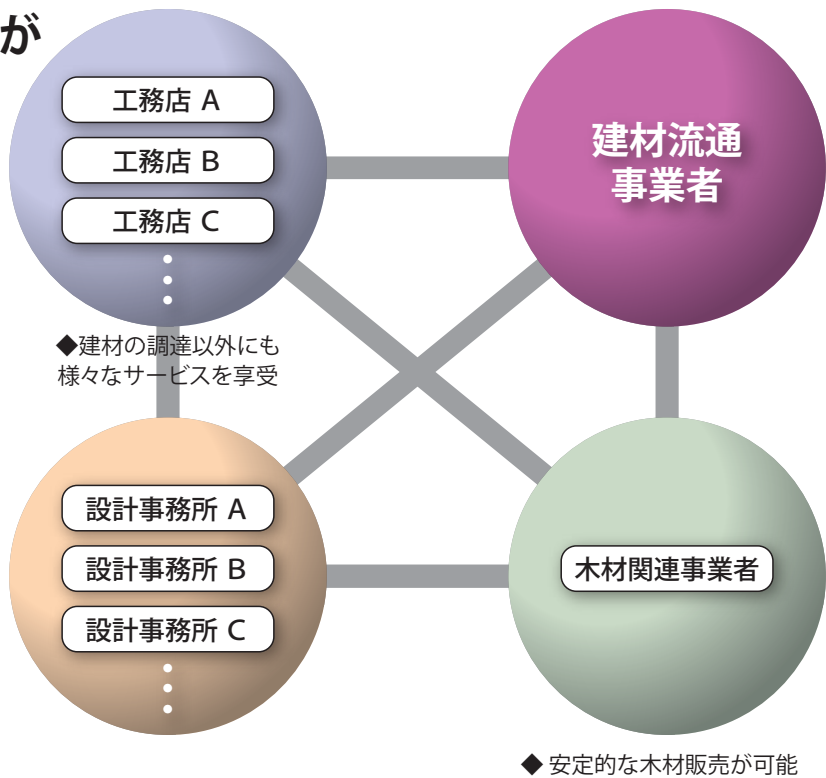


◆ スパン表を活用した、耐震性と可変性を確保した設計

◆ 地域材の需要のまとまりを担保とした、安定的な木材の供給

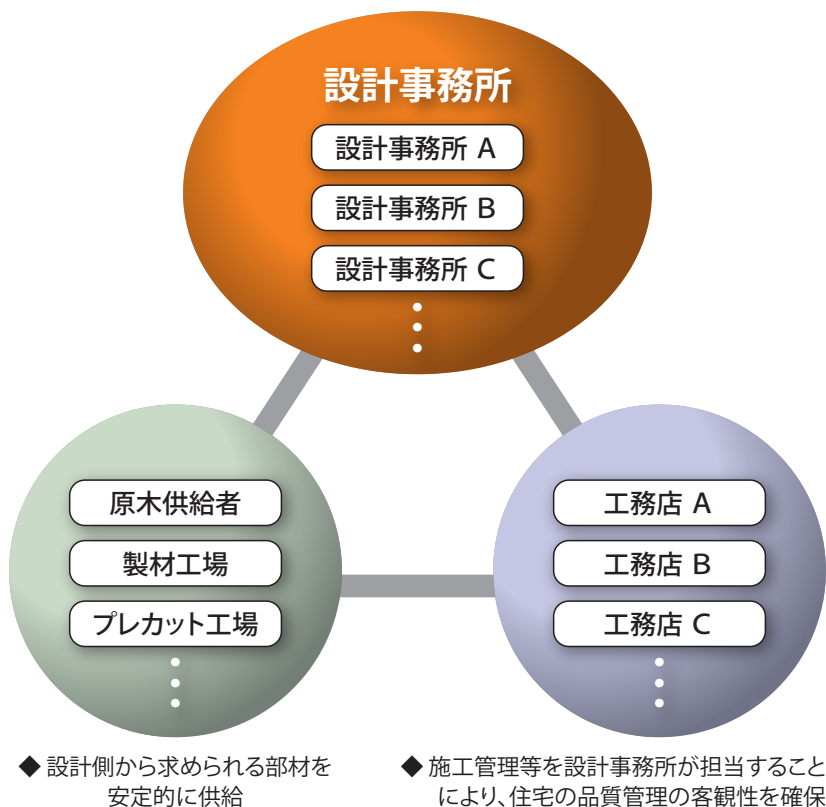
3 建材流通事業者がリードするケース

- 木材をはじめとした各種住宅建材を取り扱う建材流通事業者が、住宅建材の供給や住宅施工に関する各種サービスを取引先の工務店等に提供することにより、連携体制を構築し、工務店等の技術力向上を図る。



4 設計事務所がリードするケース

- 設計事務所数社が中心となり、供給先の工務店、木材産地の木材供給業者等と連携し、可変性をもつスケルトン・インフィル等、住宅の設計を重視した取り組み。
- 設計事務所が第三者として施工管理を行うことにより、住宅の品質の客観性を確保する等。



地域型住宅ブランド化事業 第1回採択グループ事例

平成24年度に採択されたグループは全国で478グループで、それぞれが地域に根ざした特徴的な内容で現在ブランド化事業を進めている。

ここでは、第1回に採択された363グループの中から、地域協議会より推薦を受けた北海道、宮城、東京、愛知、広島、長崎の15グループを取り上げ、その取り組みを紹介する。

グループ事務局所在地別

●第1回採択グループ数
●第2回採択グループ数

新潟県 ●11 ●1

長野県 ●8 ●1

富山県 ●5 ●3

岐阜県 ●15 ●2

石川県 ●9 ●1

福井県 ●4 ●0

滋賀県 ●4 ●2

京都府 ●8 ●2

兵庫県 ●8 ●4

鳥取県 ●6 ●0

岡山県 ●6 ●3

島根県 ●2 ●3

山口県 ●4 ●1

大分県 ●4 ●0

福岡県 ●12 ●4

佐賀県 ●2 ●2

長崎県 ●6 ●5

鹿児島県 ●4 ●5

熊本県 ●6 ●1

宮崎県 ●6 ●1

愛媛県 ●4 ●1

高知県 ●3 ●0

香川県 ●3 ●1

徳島県 ●4 ●1

沖縄県 ●2 ●0

広島県

●地域協議会

広島県木造住宅生産体制強化推進協議会

もみじの家

【ひろしま地域住宅の会】

広島的气候・風土に配慮した、風を活かし、涼を生む家づくり。

住宅履歴管理システムに注力。キッチン、設備品等の品番をすべて登録しておく。

風・光・安芸のいえ

【広島県工務店協会】

30年以上の歴史を持つグループがブランド化事業に取り組む。

長期優良住宅の実例を載せた住宅雑誌を発行し、会員がカタログとしてPRに活用。

長崎県

●地域協議会

長崎県ゆとりある住まいづくり推進協議会

「うちんがたん木の家」

～水を操り、風と調和する長崎型長期優良住宅～

【西九州優良木造住宅を創る会】

短期的視点、長期的視点両面で実現すべきことを明確にし、着実に実行に移す。

共通ルールは、台風対策、濁水対策にポイントを置いた点が特徴。

長崎のすて木な家

【長崎すて木な家づくりの会】

土台には対馬ヒノキを使うことを共通ルールに。国産材・地域材の展示場を活用し、「長崎のすて木な家」を各メンバーが一般ユーザーにアピールして、成果を上げる。

- 北海道地方
- 東北地方
- 関東地方
- 中部地方
- 近畿地方
- 中国地方
- 四国地方
- 九州地方
- 沖縄地方

北海道 ●15 ●5

北海道

●地域協議会

北海道住宅・建築物生産体制強化推進協議会

道産材活用住宅

【道産材で造る家の会】

道産材の積極的な活用を目的につくられたグループ。植樹会や工場見学会などで道産材への理解を深める努力を続ける。

北の民家モデル

【特定非営利活動法人 北の民家の会】

北海道の気候・風土に合った古民家の良い点を活かし、大工の手刻みでつくる、現代的な温熱環境の家。

北海道の震災対応スマートハウス 防災型長期優良住宅の拠点づくり

【北海道の地域工務店グループ・e-housing 函館】

「防災型」をキーワードとした長期優良住宅に取り組む、地域に根ざして成長してきたグループ。

北方型木造長期優良住宅

【北方型住宅ECO推進協議会】

北海道独自の「北方型住宅」で豊富な実績を持つ、道内全域をカバーするグループ。

木材使用のルールは中小工務店に配慮したものに。

宮城県 ●15 ●6

宮城県

●地域協議会

宮城県地域型復興住宅推進協議会

快適省エネ住宅

【宮城県 未来へ繋げる地域住宅生産者グループ】

復興に貢献するため被災三県（宮城・福島・岩手）の県産材を主要構造材積の50%以上に使用。被災経験を活かし、「避難所コアシェルターのある家」をつくる。

宮城の伊達な杉の家

【宮城の伊達な杉の家を創る会】

「宮城の伊達な杉」というブランドの県産材を構造材・羽柄材で60%以上活用。

柱や土台は赤身の芯材の部分を使う。

東京都 ●17 ●7

東京都

●地域協議会

東京都木造住宅生産体制強化推進協議会

武蔵野の家

【「水と緑の循環型住宅」を考える会】

地域密着に徹し、工務店や設備業者が車で30分以内で駆け付けられることが条件。

水資源を守るため、雨水浸透枳を設置することも基本条件に。

多摩の檜でつくる東京の家

【一般社団法人TOKYO WOOD普及協会】

東京の家を建てるなら東京の木を使おうと、多摩産材にこだわった家づくりに専念するグループ。

「いえ・まち」東京2012

【全木協東京都協会】

災害時の応急仮設住宅供給のためにつくられたグループが、自然災害時の被害を最小限にし、災害拠点として稼働できる家、ヒートアイランド現象の対策を施した家づくりを。

青森県 ●8 ●0

秋田県 ●4 ●1

岩手県 ●10 ●8

山形県 ●8 ●2

福島県 ●26 ●6

群馬県 ●9 ●1

栃木県 ●6 ●0

茨城県 ●6 ●2

埼玉県 ●14 ●2

千葉県 ●5 ●3

神奈川県 ●11 ●3

山梨県 ●4 ●2

静岡県 ●17 ●5

三重県 ●3 ●1

奈良県 ●3 ●1

大阪府 ●15 ●9

和歌山県 ●1 ●0

愛知県 ●15 ●4

愛知県

●地域協議会

愛知県木造住宅生産体制強化地域協議会

優良住宅「中京の家」

【中京優良住宅ねっと】

中京地区の流通業者3社が核となってグループを形成。4つの性能ジャンルを設け、各ジャンルから1つ以上選んでつくる共通ルール。

東海道あんしんの家

【東海道こだわりの家づくりの会】

コストを抑え、未施工業者も取り組めるシンプルな設計プラン。ブランド化事業が終了しても永続する会にしていく。

北海道地区

北海道

●地域協議会名称

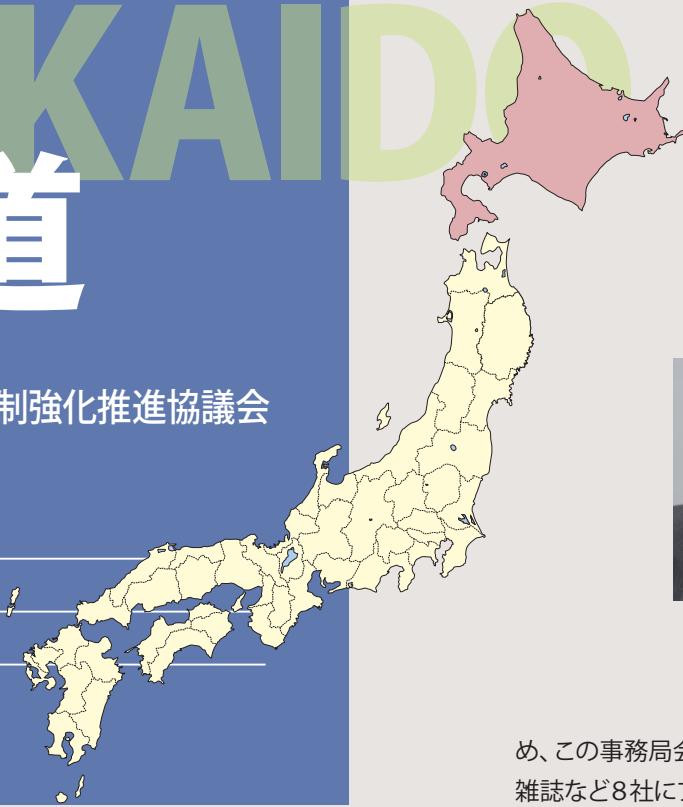
北海道住宅・建築物生産体制強化推進協議会

●協議会事務局

北方型住宅ECO推進協議会

第1回採択グループ数 15

第2回採択グループ数 5



協議会事務局
野島宏利氏

め、この事務局会議を催すたびに、新聞、雑誌など8社にプレス発表を行った。

北海道連絡会議を

平成25年度の課題として同協議会が考えているのは、北海道の採択グループ全体で何かできないか、ということ。その一つとして、一般ユーザー向けの普及イベントなどを目下考えているところだが、平成25年3月には、採択グループに声をかけ、地域型住宅ブランド化事業北海道連絡会議を立ち上げ、ここを中心に普及活動に取り組む予定だ。

このほか、将来的な木造住宅の維持管理にかかわる新たな地域住宅産業の地盤づくりも検討中とのことである（そのため、平成25年に入り、木造住宅の維持管理などをテーマとしたセミナーを開いている）。

メールでの連絡体制をいち早く確立

北海道の平成24年度の採択グループ数は第1回が15、第2回が5である。

地域協議会を務める北海道住宅・建築物生産体制強化推進協議会は、北海道庁をはじめとして、木造生産にかかわる17団体により構成され、その一つである北方型住宅ECO推進協議会が事務局を務めている。北方型住宅ECO推進協議会はブランド化事業採択グループの一つでもあり、地域協議会事務局と採択グループの両者を兼ねているケースは珍しいといえる。

北海道住宅・建築物生産体制強化推進協議会では、採択グループのバックアップに早い段階から積極的に取り組んでいる。まず情報の共有化のため、相互に連絡や情報のやり取りがきちんとできるようにと、各グループの事務局とメールでの意思疎通ができる体制を確立した。

採択グループ事務局会議の実施

北海道住宅・建築物生産体制強化推進協議会は、採択された各グループが

ブランド化事業を円滑に実施できるように、同協議会の構成団体の1つで、長期優良住宅の技術的審査業務を担う財団法人北海道建築指導センターを会議の場とし、採択グループ事務局を集め、平成24年秋に第1回ブランド化事務局会議を催した。そこでは、長期優良住宅の経験の浅いグループメンバーなど、採択グループのメンバーがスムーズに事業に取り組めるようにするため、事業実施にかかわる共通ルールの取り扱いや手続き等について、その後も含め3回、話し合われた。

また、協議会の活動やグループの取り組みをマスコミに積極的に告知するた

北海道住宅・建築物生産体制強化推進協議会

北海道	(社)日本ツーバイフォー建築協会北海道支部	(社)全日本不動産協会北海道支部
(財)北海道建築指導センター	(社)プレハブ建築協会北海道支部	(社)北海道住宅都市開発協会
(社)北海道建築士会	(一社)北海道建築工業組合連合会	アース21
(社)北海道建築士事務所協会	(公社)北海道宅地建物取引業協会	全建総連北海道建設労働組合連合会
(一社)北海道建築技術協会	北方型住宅ECO推進協議会	北海道木材産業協同組合連合会
(社)日本建築家協会北海道支部		北海道森林組合連合会

協議会事務局



総会



現場見学会



製材工場見学



家の会 植樹会

植樹会



グループ事務局
近岡大志氏



プレカット工場見学

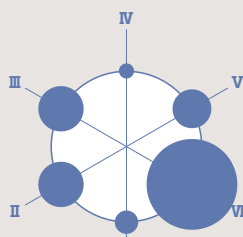
材よりは間柱等の下地材向きの丸太が多いという特徴がある。

ブランド化事業に参加するにあたって、グループ内で製作されるこの道産材による間柱等の下地材の活用にスポットをあて、同会の家づくりのポイントの1つとした。この下地材には「道産材・合法木材認定工場番号」を印字し、建築現場で道産材であることと同時に合法木材であることをアピールしている。

DATA

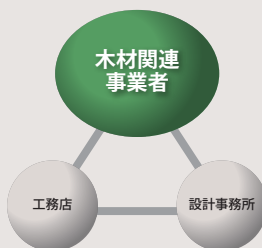
道産材で造る家の会

- ・グループ代表者／三津橋中央（三津橋産業株式会社）
- ・グループ事務局／三津橋産業株式会社札幌支店
- ・結成／平成21年4月
- ・対象地域／北海道全域
- ・地域材／道産材（産地・北海道全域）



グループ構成比

- I: 原木供給 ●II: 製材・集成材製造・合板製造
- III: 建材(木材)流通 ●IV: プレカット加工
- V: 設計 ●VI: 施工



連携イメージ

下地材にスポットをあてる

「道産材で造る家の会」は、道産材の普及を目指して道内の製材、プレカット加工の木材業3社が中心となり平成21年に設立した組織である。以来、同会では、トドマツやカラマツを活用したオール道産材の家の供給やトドマツを内外装材に加工し、普及させるための取り組みを進めてきた。

木材利用では、そのほとんどが構造材中心の話となるが、北海道の木材資源はトドマツやカラマツが中心で、構造

施工ルールは 長期優良住宅の基準を基本に

施工に関する共通ルールは、長期優良住宅の技術的基準を基本にし、気密測定を行い、C値1.0以下にすることをあげている。

地域材に関しては、土台、管柱、大引等の主要部材の過半に道産材を使用（長期優良住宅のみ）することとし、地域型住宅の管柱はグループメンバーの

道産材の活用を目的にできた グループの取り組み

道産材活用住宅

道産材で造る家の会

エム・エイチグループ協同組合等の道産集成柱を指定、土台はグループメンバーの下川町森林組合のカラマツ集成土台を推奨、屋根、外壁材、内装材など、主要部材以外は、ツーバイ屋根を使用する場合を除いて、原則全量道産材とする（野地・床合板も含む）等、いくつかのルールを設けた。

平成25年3月に道産材を原料とする断熱材「木の繊維」の工場を見学し、割高感の現状にも、低質丸太活用先としての意義や石油製品価格の先行き不透明を訴え、メンバーに使用を推奨していくとのことである。

植樹会での成果

トドマツやカラマツの間伐材を積極的に使用することに加え、さらに、人工林

を育成していく目的で植樹行事に参加または協賛するというグループのルールも定めた。

植樹行事は、道産材をアピールする側の立場として、実際に植樹し、伐採の現場を見たい・知りたいという声がブランド化事業に参加する前からあり、ブランド化事業を契機に、平成24年9月、実現したものである。植樹会には15社25人が参加し、トドマツとミズナラを150本ずつ植えた。自ら汗を流したことで、木への思いが深まったという参加者もいた。

また、以前から製材工場やプレカット工場などの見学会を行っていたが、工務店にとって工場見学は、どのようにして製材が行われているか等、木への理解が深まるとともに、施主に木材・木造住宅のことを説明する際の自信につながっ

ている。さらに、道産材生産者が中心になってつくったグループとして、生産現場をオープンにするということは、植樹会の実施等とともに、他のグループとの差別化にもつながる。

同会では、これからは施主となる一般ユーザーを対象とした植樹会などにも取り組んでいく予定で、こうした取り組みを繰り返すことで、一般ユーザーの道産材に対する理解、関心も深まると考えている。

工務店等の中には、道産材に関心のある事業者が道内にまだまだあり、そのようなところに、今後グループの参加を呼びかけることで、住宅生産者の道産材へのさらなる理解と普及に努めていくこと、これが今後の課題と、同会では受け止めている。

道産材で造る家の会

道産材の活用を目的に設立

道産材の様々なメリットを最大限に引き出し、
道産材で造る家のブランド化促進の先導的モデルとなる住宅

暖かい住宅

- 確かな気密施工を気密測定で確認。C値は1.0以下
- 乾燥のしっかりとした集成材で躯体のゆがみや隙間を抑える

地材地消の家

- 道産材を野地・床合板を含め全部材の過半以上使う。15m³/棟の目安
- 道産材の内・外装材の情報提供で手で触って道産材を普及

環境に配慮した家

- 使った木材の一部を植樹で戻し循環型社会のお手伝い
- 余剰木材もきっちり回収し無駄なく活用
- 石油を使わずバイオマスボイラーでの木材乾燥を奨励

丈夫な家

- 主要構造材は柱・梁・土台も集成材、大事な所はE120の集成梁を使用
- 最新の建築金物を適切に取り付けたか、金物アドバイザーが現地で確認

信頼の家

- 使う木材すべてが合法木材、違法伐採を許さない信頼の家
- 建設から維持管理まで顧客にわかりやすく伝える。現場進捗も現場写真を送付
- グループの活動の現場見学会

道産材
活用住宅

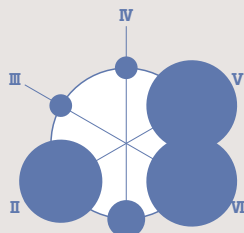


「北の民家モデル」のパンフレット

DATA

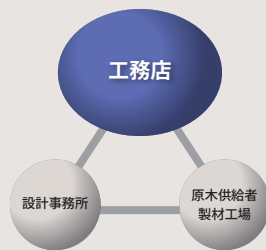
特定非営利活動法人 北の民家の会

- ・グループ代表者／
羽深久夫（札幌市立大学）
- ・グループ事務局／キタチカラ木材店
- ・結成／平成18年3月
- ・対象地域／北海道道央地域
- ・地域材／トドマツ、エゾマツ、カラマツ（産地・北海道）



グループ構成比

- I: 原木供給 ●II: 製材・集成材製造・合板製造
- III: 建材(木材)流通 ●IV: プレカット加工
- V: 設計 ●VI: 施工



連携イメージ

コンセプトを具現化する 最高のチャンス

地域型住宅ブランド化事業のスタートは、「NPO 法人北の民家の会」にとって、絶好のタイミングだった。同会は、平成18年に誕生した北海道の古い民家の保存・再生を目的につくられた組織で、講演会や古民家の見学会、植林・枝打ちワークショップなどを開催していた。平成21年に国交省が地域木造住宅市場活性化推進事業を始めた時に、古民家のノウハウを新築住宅に取り入れる「北の民家モデル」を構築するいい機会と考え、会としてこの事業に参加した。

同会は、初年度にモデル構築、2年目に具体的な仕様づくり、3年目に実物を建てる計画で進めていた。しかし、1年目

で国交省の事業が終了したため、2年目は林野庁の地域材供給倍増事業の補助を利用して設計マニュアルを作成し、いよいよ3年目に実際の建物を手がけるという段階に至った時、ブランド化事業が打ち出された。

これは自分たちの今の取り組みと一致し、自分たちが3年間取り組んできたことを具現化する最高のチャンスと捉え、応募するに至った。会のメンバーは100人ほどで、大学の教員や一般の人もいたが、ブランド化事業に参加する際に、工務店等の事業者が中心となってグループを再編成した。

大工の手刻みでつくる家

「北の民家モデル」のコンセプトの一つは、「地元の木を使って大工の力を発揮できる住宅」（大工はもちろん地元の大工）。基本的な考えは、北海道の古い民家の良い部分を取り入れて、大工が地元の木を使い、手刻みでつくるというものだが、その上で現代的な温熱環境の建物にするというのが目標となる。したがって、長期優良住宅の仕様や北海道が推奨する最新の寒地建築技術（北方型住宅ECOモデル）を取り込んだものとした。

木材の使用に関しては、道内のトドマツ、エゾマツ、カラマツと定め、木の温もりが感じられるように、構造材を現しにし、内装材・フローリング等にも積極的に無垢の木材を活用することとした。

また、大工工事による造作棚など木工事の比率を高めることで、職人の手仕事による味わいのある空間づくりにも配慮している。



大工および技術者対象の研修会（伝統構法の模型で強度試験を）



グループメンバー
武部豊樹氏

木組みの美しさを見せるため、手加工を重視しているため、建物によってはプレカット加工されたものを使わないケースも想定している。

共通ルールでは、ほかに、居間に薪ストーブを設置した間取りの提案、家全体の温度環境を保つための吹き抜けの配置の提案（以上二つは施主の意向による）、太陽光を取り込むために大きな開口部を家の南側に設ける、太陽光パネルの設置も可能な耐久性のある大きくて丈夫な屋根にする、などがある。屋根は、落雪タイプを基本として、梁・強度の限られる道産無垢材の梁を使っ

た構造を可能にするために、屋根の積雪加重を柱でストレートに基礎に伝えるなど、架構の工夫がなされている。

シンポジウムなどを開催

営業活動に関しては、まだ竣工物件がない段階だったので、ユーザーに口頭でいろいろ説明しても理解してもらいにくいという苦労があった。そこで「北の民家モデル」の特徴をわかりやすく解説したパンフレットを作成し普及を図った。

また、「北の民家モデル」に関心のある一般ユーザーに、今回のブランド化

事業の紹介を行うと、そもそもユーザーがある程度「北の民家モデル」のコンセプトに理解があるため、それに加えて補助金が出るということで、比較的容易に受注につながっている。

「北の民家の会」にとって、コンセプトを具現化した念願の建物がブランド化事業によってできた。今後も、道産の木材を使い、伝統構法の古民家の技を現代に生かす取り組みを続けていく。

さらに、完成見学会や専門家を招いた民家型住宅や森林に関するシンポジウム、セミナーを行い、「北の民家のモデル」の浸透に力を注いでいく。

北の民家モデル

寒冷・多雪地域で道産材で建てられる、新しく懐かしい民家型住宅

大黒柱のある骨太な構造

道産木材を使い、仕口・継手といった大工の技と、骨太の木組みで家を支える長寿命構造。大黒柱がその象徴。

薪ストーブのある居間を中心に

家の、そして家族のかなめとなる居間。北の民家モデルでは、薪ストーブを設置した居間を中心に、家族が集いやすい間取りを提案。

吹き抜けのある家

家の中心に吹き抜けを配置。吹き抜けにより空気が循環して家全体の温度環境を保つとともに、上下階のつながりが家族の一体感を高める。

家の南面には大きな開口部

南面に設ける大きな開口部と床の木質化により、冬季も室内の奥まで日光を取り込む。

「北方型住宅ECOモデル」相当の高気密・高断熱

北海道庁が推奨する、安心で高性能な家が「北方型住宅ECOモデル」。北の民家モデルも同モデル相当の国内最高水準の断熱・気密性能を確保。

大きく丈夫な屋根

シンプルで大きな屋根も北の民家モデルの特徴。耐久性の向上をはかり、太陽光パネルの設置なども可能に。

世代を超えて住み継いでいける「長期優良住宅」仕様

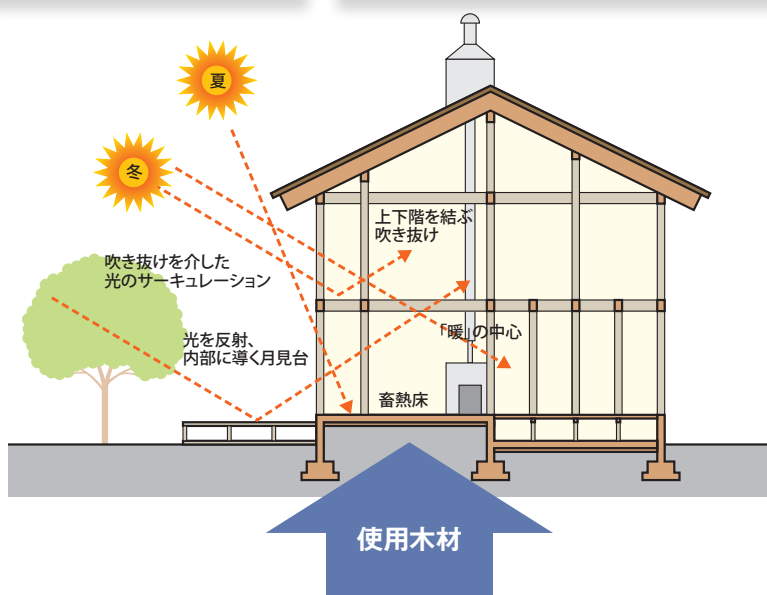
ながく住み継いでいくために国が定めた「長期優良住宅」の仕様を踏まえるとともに、北海道の材料と技術にこだわる。

除雪を少なくする工夫

住宅とカーポート、屋外倉庫、堆雪スペースなどを一体として考えることで、除雪が必要な面積を少なくしていく。

「まち並みと調和」する住宅デザイン

私たちの家、そして街が北海道の自然と調和していくように、一棟の建物のみを考慮するのではなく、街並みや敷地を考えたデザインとする。



地域材は、道内の森林から産出されたトドマツ、エゾマツ、カラマツを道内の工場加工したものとする。木の温もりを感じられるよう、構造材を現しにし、内装材・フローリング等にも積極的に無垢の木材を活用する。

実績を残してきたグループ

「e-housing 函館」は、平成15年に函館市、北斗市などの工務店等10社が集ってつくられたグループで、設立の趣旨は「消費者に安心して住める高性能な住宅を適正な価格で供給することを目的に、個々の工務店の力だけではできないことをグループ化することで実現可能なものとする」というものであった。

実際、グループをつくることのスケールメリットは多い。基本的に地域の工務店は地元では互いにライバル関係にあるが、たとえば、イベントなどの広告を共同で打つことで、1社にとってローコストかつ一定の数の一般ユーザーの集客が可能となる。また、グループ内の工務店が建てる住宅は、一定の水準の性能を担保しているため、広告で集まったユーザーも安心して工務店を選ぶことができる。そのあとは工務店同士の競争となるが、それでも、それぞれの工務店にとって、集客力やコスト面からメリットのほうが大きい。

また、資材なども共同購入することで安く仕入れができる。さらに、職人等も相互に融通することが可能となるなど、グループ化することで、情報量が飛躍的に増え、困ったことがあればだれかに相談できるといった環境も整った。

グループメンバーは、このようなメリットを享受しつつ、視察会や見学ツアーの



グループメンバー
川村伸之氏

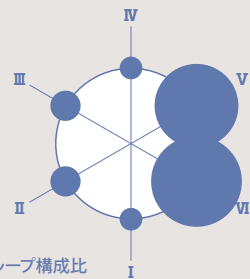


補助金活用アドバイスセミナーのチラシ

DATA

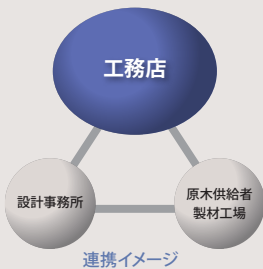
北海道の地域工務店グループ・e-housing 函館

- ・グループ代表者／
渋谷旭（渋谷建設株式会社）
- ・グループ事務局／
有限会社しんぼ建築設計室
- ・結成／平成15年8月
- ・対象地域／北海道道南地域
- ・地域材／トドマツ、カラマツ、道南杉およびSPF・WW（産地・北海道全域および北米・北欧）



グループ構成比

- I: 原木供給 ●II: 製材・集成材製造・合板製造
- III: 建材(木材)流通 ●IV: プレカット加工
- V: 設計 ●VI: 施工



連携イメージ



ブランド化事業市民向けセミナー1



ブランド化事業市民向けセミナー2

開催、セミナーへの参加、宅地の分譲、常設展示場のオープンなどに積極的に取り組んできた。あるメンバーは、グループのスケールメリットを活かすことによって、売上の拡大にもつながった。

キーワードは「防災型」

このような実績を持つグループが主体となり、ブランド化事業へ応募。この事業に参加するにあたり、原木供給など、これまでグループにはなかった事業者に加わってもらった。また、新たな工務店の加入もあり、工務店数は倍ほどに増えた。

ブランド化事業におけるこのグループの住宅の共通キーワードは「防災型」である。東日本大震災を契機に、新築を建てる際、防災の面で自分たちの技術を活かしたいという思いが募り、防災型の長期優良住宅を提案することにし

防災型長期優良住宅に取り組む 地域に根ざしたグループ

北海道の震災対応スマートハウス 防災型長期優良住宅の拠点づくり

北海道の地域工務店グループ・e-housing 函館

た。冬に震災があっても、断熱をきちんとしておき、何日間か過ごせる家に、また、周辺の古い家の人を緊急避難場所として自宅に招き入れられる一時的な拠点に、ということで共通ルールづくりを行った。

具体的なルールとしては、電力の確保のための太陽光発電のオプション装備、飲用水の確保のためのエコキュートの標準装備、避難時の室温確保のための住宅外皮の高断熱化（これによりエネルギーが途絶しても生活可能な室温を確保する）などがある。もちろん耐震性も確保するため、耐震等級3を取得することとしている。

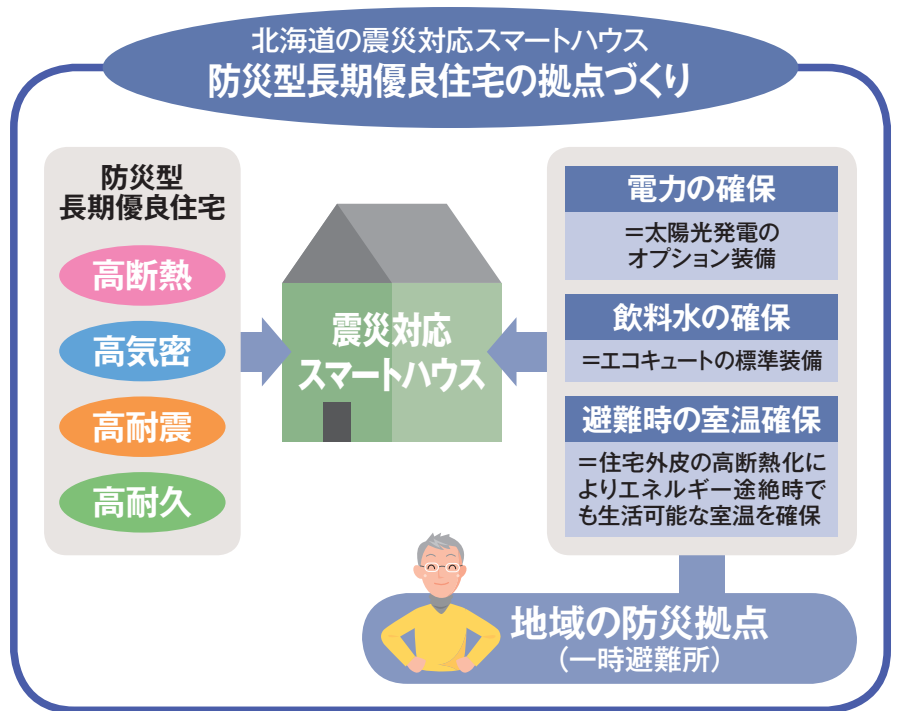
一般ユーザーには、補助金があるから立派な家ができます、というようなことではなく、補助金の方で基本的な性能を充実させた、しっかりした家をつくりましょうという形でこの防災型住宅を説明している。そうすれば、「将来のいろいろなエネルギー供給の変化にも対応できるし、震災時も命をつなぐことができる。また、日々のエネルギーのコストも低減できる」と訴えており、かなり効果を上げているという。

ハウスメーカーに負けない

ところで、今回のブランド化事業のためにグループメンバーを増やしたことで、新たな業種との連携にもつながった。その結果、それぞれのジャンルから得られる情報量がさらに増えた。また、設計など、それまで自社で行っていたものを設計事務所に依頼するなど、アウトソーシング化することにより、その分、営業に力を入れるという形で、グループ内の連携がとれるようになり、各メンバー間で相乗

効果を上げている。

グループ結成当初も、力を合わせればハウスメーカーにも負けないという気持ちを持っていたが、メンバーを再編成してブランド化事業に取り組むことにより、その気持ちは一層強くなった。また、今のグループをうまく育てていくことにより、さらにグループメリットを活かしてこれまでとは違った住まいづくりの組織ができてくるかもしれないという楽しみも、メンバーたちは感じている。



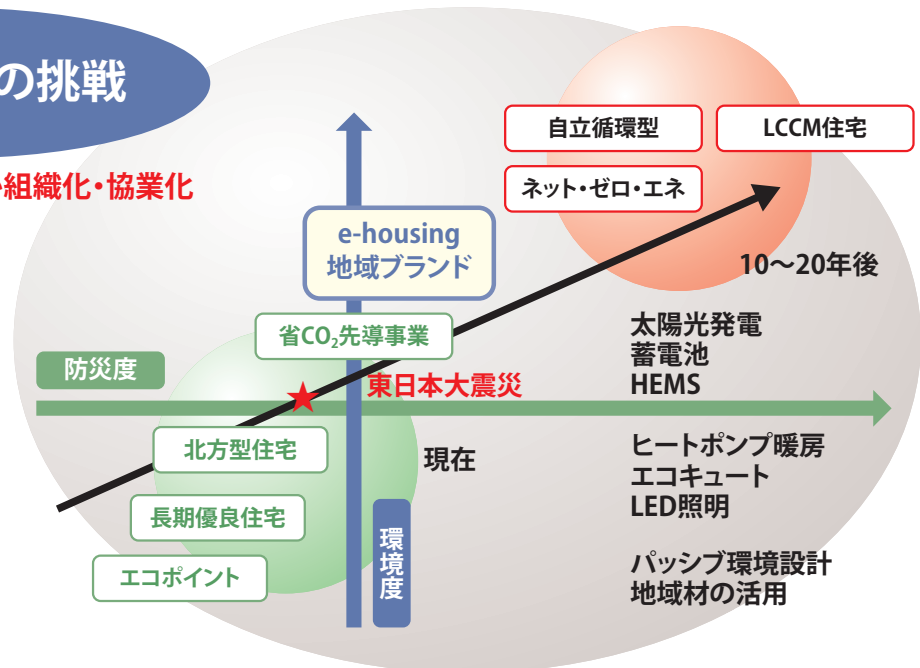
地場工務店の挑戦

地場工務店による新しい組織化・協業化

仕入れが高い
土地の確保が難しい
集客力が弱い
広告宣伝の費用に乏しい

仲間ができて変わった!!
情報が飛躍的に増えた!!

長期優良住宅の認定
性能表示の活用
構造計算の実施
履歴情報の登録保管



北方型木造長期優良住宅

北方型住宅ECO推進協議会

北海道全域をカバーするグループ

同協議会は「北方型住宅ECO」を北海道の住宅の新たなブランドとして普及させることを目的に平成21年にできたもので、メンバーは施工業者だけで約

200社、木材関係などその他の業者を合わせると340社ほどになる大グループである。ブランド化事業に参加している全国のグループの中でも最大クラスの規模といえる。

対象が北海道全域にまたがるためメンバーが多いが、現在は、この中で道北、

道央、道南、オホーツク、十勝・釧路という5つのエリアに分かれてそれぞれ地域グループ（地域型住宅ネットワーク部会）をつくり、同協議会事務局が統括する形になっている。

「北方型住宅」というのは、北海道庁が推奨する、北海道の気候・風土に根差した、豊かな暮らしを実現するための良質な住宅のことで、「北方型住宅ECO」は、「北方型住宅」を基本に断熱・気密性能を国内最高水準まで引き上げたものとなっている。

低炭素住宅の認定制度 講習会開催のご案内

緊急開催

開催地	開催日	開催日時	定員
札幌市	10月18日(木)	10:00~16:00	80人
旭川市	10月18日(木)	10:00~16:00	80人
帯広市	10月18日(木)	10:00~16:00	80人
苫小牧市	10月18日(木)	10:00~16:00	80人
釧路市	10月18日(木)	10:00~16:00	130人
網走市	10月18日(木)	10:00~16:00	80人
稚子市	10月18日(木)	10:00~16:00	80人
紋別市	10月18日(木)	10:00~16:00	80人

低炭素住宅の認定制度講習会チラシ

ゼロエネ&ネットゼロ ステップアップ研修会

北方型住宅ECO オープンセミナー

北海道庁 住宅政策課

開催地	開催日	開催日時	定員
札幌市	10月11日(木)	10:00~16:00	200人
旭川市	10月18日(木)	10:00~16:00	150人
帯広市	10月29日(月)	10:00~16:00	150人
苫小牧市	10月31日(水)	10:00~16:00	80人
釧路市	11月2日(金)	10:00~16:00	80人

ゼロエネ&ネットゼロステップアップ研修会チラシ

あなたが 暮らし ともに暮らす住まい

北方型住宅 & 北方型住宅ECO

「北の住まい」のスタンダード

建てるときも、建ててからも、ずっと安心

http://www.hokkaido-ecolife.com

北方型住宅と北方型住宅ECOのパンフレット

中小工務店のレベルアップを意識した木材使用ルール

同協議会では、国交省の「長期優良住宅先導モデル事業」の平成22年度第1回募集に「北方型住宅ECOプラス」プロジェクトを提案し、採択を受け、222戸の実績を持っている。道産材の利用に関する一定の基準をクリアし、また、環境負荷の低減に配慮した家づくりに取り組んだもので、このような経験と実績により、ブランド化事業にもスムーズに取り組むことができた。

建物は北方型住宅の技術基準に基づいた長期優良住宅で、木材に関して、道産材に限ってはいない。同協議会は、北方型木造長期優良住宅の家づくり・家守りの仕組みを中小工務店に普及・定着させることを目指しており、道産材に限ってしまうと、コストアップにつながり、それが普及・定着の阻害要因となりかねないと考えた結果である。

一方、コストの面で輸入材からの振り替えが可能な部位（下地材、合板、内外装材等）は道産材を活用して、地場



ゼロエネ&ネットゼロステップアップ研修会

の木材産業の活性化に寄与するように考えた。

また、原木、製材、建材流通の業者のメンバーが道内各地にいるメリットを活かし、住宅価格に影響を及ぼさないような選択肢の多い地域材の調達ができるように配慮した。

独自ルール of 維持管理体制

維持管理体制の強化に力を入れているのも特徴で、独自の業界ルールを構築している。たとえば、引き渡し後30年間の維持管理計画書および定期点検の共通ルールの作成、北方型住宅でつくられた「北方型住宅サポートシステム」での点検時期のメール通知機能を活用した定期点検体制の構築、さらに、メンバーによる定期点検時の省エネ・省CO₂のアドバイスなどに取り組んでいる。

技術力底上げのための研修会等を実施

平成24年秋に、メンバーに対する事務局のバックアップとして、申請手続きの説明会やマニュアルの講習会などを道内6カ所で行った。申請手続きに関しては、協議会の一員としてこれまで長期優良住宅を経験していたメンバーはある程度問題ないのだが、ブランド化事業に参加するにあたって70社ほどが新たに加わったため、主に未経験のこれらのメンバーを意識して開催した。

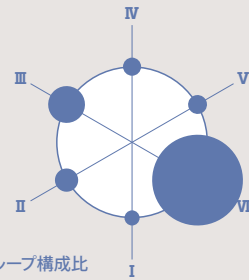
このほか、メンバーの技術力アップ、維持管理体制強化のために、平成24年秋に道内主要5都市で省エネ研修会を実施。現在は道内主要6都市で低炭素住宅認定制度講習会を継続実施中で、今後、これ以外にも技術の継承、技術の導入、人材育成の面で、いろいろな

研修、講習会を計画していく予定としている。

DATA

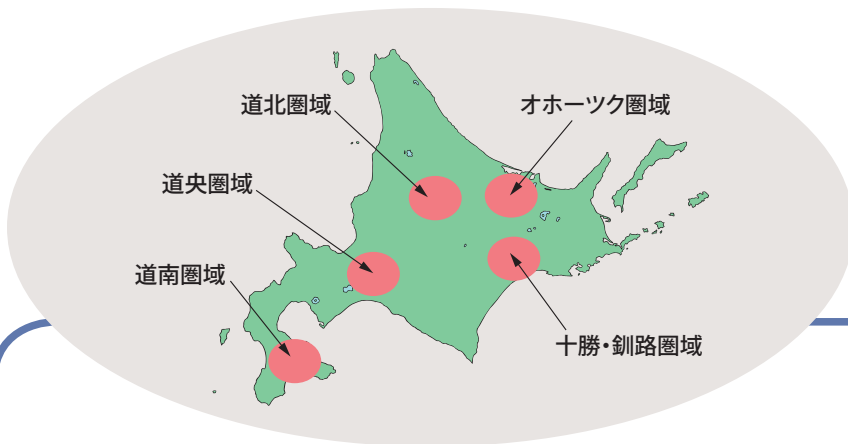
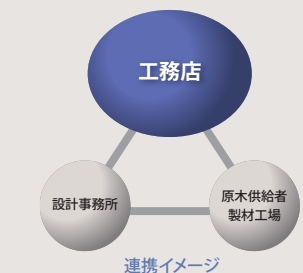
北方型住宅ECO推進協議会

- ・グループ代表者／川村隆（株式会社カワムラ）
- ・グループ事務局／株式会社北海道住宅通信社
- ・結成／平成21年3月
- ・対象地域／北海道全域
- ・地域材／トドマツ、カラマツ、その他認証材（産地・北海道内および国内・海外）



グループ構成比

- I: 原木供給 ●II: 製材・集成材製造・合板製造
- III: 建材（木材）流通 ●IV: プレカット加工
- V: 設計 ●VI: 施工



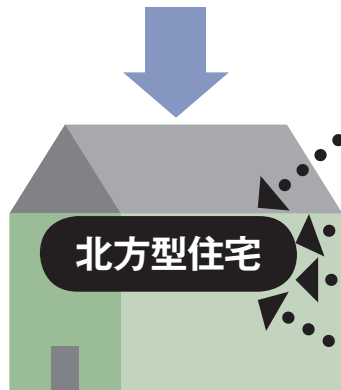
主要5圏域に地域型住宅ネットワーク部会を設置

積雪寒冷地・北海道のスタンダードな家づくり・家守り

北方型住宅の技術水準に基づく家づくり

適切な維持管理

- ・会独自の維持保全計画書を作成
- ・定期点検の共通ルールを策定
- ・北方型住宅サポートシステムにおける点検時期のメール通知機能を活用
- ・支援・検証ツールを活用し、エネルギー消費実態を把握
- ・定期点検時に省エネ・省CO₂アドバイス



劣化対策等級3相当、積雪に対する屋根の耐久性向上等の高い耐久性

高齢者への配慮

全室暖房

熱損失係数1.6w/m²k、相当隙間面積（C値）1.0cm²/m²等の高い省エネ性能

etc



東北地区

宮城県

●地域協議会名称

宮城県地域型復興住宅推進協議会

●協議会事務局

社団法人宮城県建築士事務所協会

第1回採択グループ数 15

第2回採択グループ数 6

地域型復興住宅からスタート

東日本大震災の被災地、宮城県、岩手県、福島県の住まいづくりに携わる団体が、被災者の住宅再建を支援しようと相互に連携し、国の協力も得て、平成24年2月、地域型復興住宅推進協議会を設立した。目的は、復興住宅の供

給への取り組みで、原木供給から製材、プレカット、建材流通、設計、施工等の業者が集ってグループをつくり、「丈夫で長持ちする住まい、将来の変化に対応した自由度の高いプラン、省エネ、廉価、地域の気候・景観への配慮、地域の建材、事業者を活用する」——これらをポイントとした木造住宅を供給する

こととした。

そのため、工務店や一般ユーザーが基本プランを作成しやすくするためのページを盛り込んだパンフレットや、事業者向けの「地域型復興住宅・設計と生産システムガイドライン」などを三県共同で作成し、事業を続けている。

21のグループが採択

宮城県でできた地域型復興住宅のグループは79であった。このグループができた頃、地域型住宅ブランド化事業がスタートし、地域型復興住宅と方向性が一致していたため、ブランド化事業にこれらのグループが取り組むこととなった。

協議会では、まず地域型復興住宅のグループを対象にブランド化事業の勉強会を開催。さらにグループから、申請書類の書き方などの勉強会を開いてほしいとの要望があり、そのための勉強会も行ってきた。この勉強会を受けることによって第2回の公募で採択されたグループもあり、しっかりと結果を残している。

このような取り組みの結果、全79



ブランド化事業応募申請勉強会

グループの7割ほどがブランド化事業に挑戦。また、ブランド化事業のために新しくつくられたグループも生まれ、平成24年度は宮城県内で21のグループが採択された。

地域型復興住宅のグループの中には、メンバー数が多いためにブランド化事業への申請手続きが大変になった事例もあり、今後はグループを再編して挑戦することもありえると協議会では考えている。

長期優良住宅の制度・基準は、住宅のレベルを上げる上で不可欠なものと認識しており、協議会としてはこれからもブランド化事業に積極的に取り組み、その普及を推し進めていく考えである。

県内の需要に応えるために

被災地・宮城県としての課題は、県内に必要とされる5万戸の自立型復興住宅である。その際、大切なことは建設のスピードで、“工期短縮のための工法の簡略化”だと協議会では考えている。それにより建設数を確保できれば、地域の需要に応えられるだけでなく、地元の工務店の活躍の場の拡大につながる。

ただ、それだけでは一般ユーザーにとって、選択肢が少ないので、地域材をふんだんに使いながらも、コストを下げる建て方による設計支援も進めているところだ。



協議会事務局 松田純也氏

工務店支援策を模索

これからの協議会のもう一つの仕事は、住まい手である一般ユーザーにブランド化事業の住宅をアピールしていくことである。ブランド化事業を普及させるにはとにかく数が大切。そのためにはより多くの人に完成した住宅を見てもらうことが重要だと、協議会では考えている。

その一例として、工務店単独で建てるのがむずかしいモデルハウスを連携した工務店グループが一棟建てたら、その都度オープンハウスとして一般ユーザー向けの見学会を催し、協議会はそのためのチラシやのぼりをつくり、工務店グループを支援していきたいと考えている。

また、地域工務店が地域の資材を活

用して建てた住宅であれば、何らかの緊急時にすぐに対応が可能で、住まい手にとって安心な住生活を過ごせる家となることを一般ユーザーに強く訴えていくことも重要だと考えている。

そのため、展示会等を開催するなど、地域の工務店グループをサポートするさまざまな支援策を模索している。

先述のとおり地域型復興住宅のグループは79あるが、ブランド化事業以外では、地元の工務店のほとんどが、まずは要望の圧倒的に多かった修繕の仕事から復興に取り組んだ。修繕は地元とつながりがある地域工務店に真っ先に来るわけで、協議会だけでも2000件もの紹介や相談を手がけた。

そのため、復興住宅等の新築への取り組みはこれからで、その際、地域の工務店が力を発揮できるように——これが協議会の願いである。人も建物もお金も地域で巡ることが地域経済の復興であり、住生活の復興なのだ、協議会では考えている。それには、中小工務店が、地域型長期優良住宅レベルまで技術力をアップすることも大切で、今後、そのための支援も行っていく予定である。



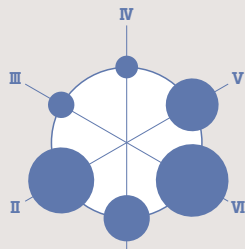
地域型復興住宅パンフレット



地域型復興住宅・設計と生産システムガイドライン

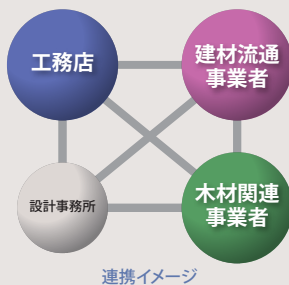
宮城県 未来へ繋げる
地域住宅生産者グループ

- ・グループ代表者/
高橋一夫（大東住宅株式会社）
- ・グループ事務局／黒川森林組合
- ・結成／平成24年5月
- ・対象地域／宮城県
- ・地域材／宮城・福島・岩手産材
（産地：宮城・福島・岩手）



グループ構成比

- I:原木供給 ●II:製材・集成材製造・合板製造
- III:建材(木材)流通 ●IV:プレカット加工
- V:設計 ●VI:施工



連携イメージ

地域型復興住宅の
グループづくりから

「宮城県 未来へ繋げる地域住宅生産者グループ」は平成24年3月2日、宮城県の地域型復興住宅に応募するために、製材・集成材製造・合板製造および木材流通を担う森林組合と設計施工の工務店グループが中心となり、構成員を集め、高断熱・高気密の高性能復興住宅の供給を目指し発足した。

家づくりのキーワードは、「快適省エ



検討会

「避難所コアシェルターのある家」は、
被災経験を活かした共通ルール

快適省エネ住宅

宮城県 未来へ繋げる地域住宅生産者グループ

ネ、地震に強い家、長持ちする家、地域材の活用、ライフスタイルへの変化に対応、創エネな家」で、3月9日には地域型復興住宅生産者グループとして登録を受けた。そんな時、宮城県建築士事務所協会から地域型住宅ブランド化事業の情報を得、すでに原木供給から工務店まで連携がとれている組織体制と自分たちの技術を活かして、ぜひブランド化事業に取り組もうということになった。その後、グループ内有志が集まり、検討会を何度も催し、共通ルールの検討やメンバーの再編成などを行って、応募へと至った。

さらにグループ内に総務委員会、技術委員会、維持管理委員会を設け、共通ルールづくりやチェック体制の強化、技術力の向上、消費者に対する信頼性の向上などに取り組んでいる。また、メンバーにはそれぞれ得手不得手があるので適宜役割分担し、知識や情報を相互にやり取りし、互いのレベルアップにつなげている。

被災の経験を活かして

共通ルールとしては、「高断熱・高気

密により冬暖かく夏涼しい快適な家」「省エネ（創エネ対応型）な家」「宮城・福島・岩手の被災地三県の地域材で造る家」「いいものをしっかり造って長持ちさせる家」、そして「避難所コアシェルターのある家」を謳っている。

「快適省エネ住宅」にはグループメンバーのいろいろな知恵が込められており、特に「避難所コアシェルターのある家」は、被災地グループがつくる「快適省エネ住宅」の大きな特徴で、被災経験から欠かせない共通ルールとなっている。

地震が発生した時、何よりも必要なのは、家の中で家族が逃げ込める空間の確保である。また、震災時、いちばん困ったのが水の問題だった。これは被災したグループのメンバーそれぞれが痛切に感じたことで、水道が止まり、水がなければトイレも流せない。しかし、1回に支給される水は20ℓで、一度流せばなくなってしまいう量であった。

この2つの課題をクリアするために、浴室、洗面脱衣室を家の中の避難場所とし、構造的にここを強化、浴室をコア内に含むことによって残り湯を利用できるようにした。さらに、この避難場所には床下収納庫を設置し、防災用品も備えられるようにした。グループのメンバーが知恵を出し合った結果である。

被災地の森林資源を活用

使用木材に関しては、宮城県産材だけでは供給が十分ではないという理由もあり、被災地の森林資源を活用して地域の産業を活性化させ、復興に貢献すると考え、宮城、岩手、福島の県産材を主要構造材積の50%以上に使用することにした。

今回、グループをつくることによって、メンバーには大きなメリットがあった。多くのメンバーは、製材工場などを見学することはあっても、山にまで立ち

入ることはなかった。材木は見ているが山は見ない、まさに木を見て森を見ない状態だったが、川上から川下までのグループ内の連携体制ができることで、山の実地を知ることができ、林業の活性化が、資材の安定供給や雇用の促進につながり、地域の活性化になるという認識が高まった。今、「地場の木を活かしたい」ということがメンバーの共通の思いとなっている。



グループ代表
高橋一夫氏



グループ事務局
堀籠善宏氏



グループメンバー
氏家敏成氏

復興住宅が7割

一般ユーザーにブランド化事業をアピールする際は、「快適省エネ住宅」は

まず長期優良住宅であり、長持ちする住宅であることを訴え、断熱性能が担保されていること、補助金があり、それを活用してよりよい住宅がつけられるという手順で説明している。このように話し

ていくことで、地域型住宅ブランド化事業について理解を得ている。

ちなみに、今回のブランド化事業で同グループがつくる住宅の7割は復興住宅となっている。

共通ルール

高断熱・高气密により冬暖かく夏涼しい快適な家

◎温熱シェルター性能を確保

- ・建物外皮の断熱性能を活かし、内部結露抑制と良好な計画換気実現のため気密性能を確保 (C値5cm²/m以下)
- ・温熱シェルター性能確保のため、Q値は省エネ対策等級4の1割増 2.2W/m²・K以下とする



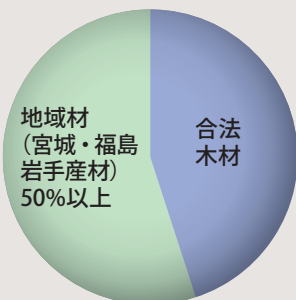
省エネ(創エネ対応型)な家

- ・給湯設備は、高効率給湯(エコキュート潜熱回収型)給湯機を設置
- ・建築当初より太陽光発電等エネルギー利用設備を効率的に導入出来るよう考慮



宮城、福島、岩手-被災地三県の地域材で造る家

- ・柱や梁等主要構造材50%以上に宮城・福島・岩手産地の地域材を使用する
- ・小屋組や下地材、仕上材等にも地域材を2m²/戸以上に使用する
- ・宮城県内の被災地に立地する合板工場で、製造した資材を屋根野地等に使用する (林業・木材加工業の活性化を図り、地域循環型社会の構築に寄与する) (震災復興の為に)



主要構造材の使用イメージ (柱・梁・桁・土台)

避難場所コアシェルターのあ家

◎浴室、洗面脱衣室を中心として住宅内の避難場所を設定

- ・構造的には接合部の強化
- ・浴室をコア内に入れることにより、残り湯の利用が可能
- ・床下等収納庫を設置し、防災グッズ等の収納・簡易非常用照明の設置 (取外し可能バッテリー内蔵LED)



いいものをしっかり造って長持ちさせる家

◎しっかり造る

- ・設計段階では、性能表示制度設計評価(第三者機関によるチェック、温熱性能確保の為のQ値μ値の計算等、安全な基礎計画の為の地盤調査)
- ・施工段階では性能表示制度建設評価(第三者機関によるチェック)
- ・気密性能確保の為の気密測定

◎長持ちさせる

- ・住宅履歴情報システムの活用、長期維持管理保全計画の作成(計画に基づき工務店による定期点検修繕の実施、施主によるセルフメンテナンスの指導を行う)
- ・第三者機関であるベターリビングが実施する(仮称)家検証システムの導入(定期点検結果を第三者機関に報告し、適正に実施したことを書面にて発行)



定期総会

地域の杉を土台・柱に

「宮城の伊達な杉の家を創る会」がつくる家の特色は、商標登録「宮城の伊達な杉」というブランド名の県産材を活用しているところだ。これは、製材用のA材の樹齢50年~70年の杉の元玉か2番玉で、直径24cm以上と限定したもの



宮城の伊達な杉の家を創る会パンフレット

で、土台や柱はこの赤身の芯材の部分で、赤太土台、赤太柱として使用している。杉を土台に使うのは全国でも少ないが、土台に使う場合は、さらにこれにシロアリ防蟻処理を施す。

また、芯材だけでなく、芯の周辺も羽柄材として使用し、構造材・羽柄材で60%以上を「宮城の伊達な杉」にすることを「宮城の伊達な杉の家」の共通ルールとしている。

この「宮城の伊達な杉」は素材生産から製材、乾燥、プレカットまでを一貫した工場で行っている。グループのメンバーはいつでも一般ユーザーにその過程を公開することができ、実際、ブランド化事業で建てるユーザーに工場を見学してもらっている。その中でユーザーがいちばん興味を示すのはやはり太い丸太で、これを見て安心感を持って帰る。



グループ代表 宍戸広光氏

超長期優良住宅 先導的モデル事業からの 積み重ね

「宮城の伊達な杉の家を創る会」ができたのは平成20年4月で、事務局を務めている山大は、原木から製材、流通、プレカットまでを手掛けており、ここが取引先に声をかけてグループづくりを始め、主力メーカーを含め55社で会をつくったのが始まりである。そして、超長期優良住宅先導的モデル事業、長期優良住宅先導的モデル事業に取り組み、東日本大震災で一度活動を中止し、平成24年に宮城県復興住宅とブランド化事業に取り組むことになった。

ブランド化事業に取り組むにあたって、メンバーの工務店が役員となっていた役員会で協議し、共通ルールづくりをしてきた。また、ブランド化事業に取り組む際に新たに参加したいという工務店も加わり、グループメンバーは64社に増えた。設計部門を持たないメンバーの工務店に対しては、長期優良住宅申請をサポートする協力設計

「宮城の伊達な杉」という
ブランドの県産材を活用

宮城の伊達な杉の家

宮城の伊達な杉の家を創る会

事務所を組織した。

共通ルールの中には家歴情報管理システムもあり、これは超長期優良住宅先導的モデル事業の時に独自で開発したもので、そのソフトはメンバー全員に配布されており、メンバーはそこにデータを入力して活用している。

ブランド化事業が地域材のブランド力アップに貢献

このほか、事務局として工務店メンバーを対象にブランド化事業に関する勉強会を開いたり、オリジナルのフローチャートをつくり、申請手続きの講習会を行ったりしている。このような勉強会等は先導的モデル事業以来続けている。

また、「宮城の伊達な杉」の認知度を高めるため、パンフレットを作成し、一般ユーザーに対する普及活動に活用。こうした取り組みによって、「宮城の伊達な杉」がブランドとして少しずつ定着化しつつある。そして、今回のブランド化

事業が、この「宮城の伊達な杉」というブランドと一緒にすることで、地域材活用のための相乗効果をもたらしているのである。

震災後の環境の中で

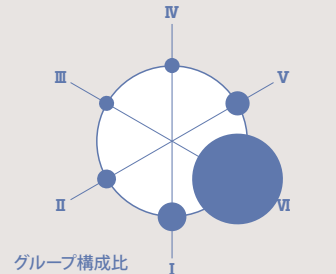
現在、家をなくした人たち、あるいは改修したいという人たちの需要が多く、グループのメンバー、特に工務店は多忙だ。そして、工務店としても、早く家を建ててあげたいという気持ちは強く、ブランド化事業に取り組みたいという意欲はあっても、煩雑な手続きが必要のため、なかなか取り組めないというのが実情のようである。

しかし、これから新築需要が増える震災後の環境の中で、ブランド化事業の補助金を得て、しっかりとした家づくりをするよい機会でもあることは間違いない。グループとして今後ブランド化事業により力を入れていくことになると考えている。

DATA

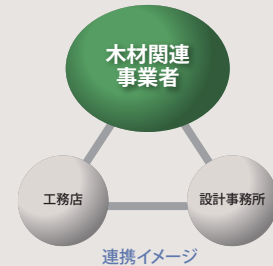
宮城の伊達な杉の家を創る会

- 代表者／高橋貞夫（株式会社山大）
- グループ事務局／宮城の伊達な杉の家を創る会事務局
- 結成／平成20年4月
- 対象地域／宮城県
- 地域材／宮城の伊達な杉（産地・宮城県）



グループ構成比

- I:原木供給 ●II:製材・集成材製造・合板製造
- III:建材(木材)流通 ●IV:プレカット加工
- V:設計 ●VI:施工



●基本性能

地産地消・地域材の活用

構造・羽柄材で60%以上使用。できるだけ下地材・内装材の使用

地震に強い家

許容応力度計算により耐震等級2以上を取得

可変性のある家

インフィル・スケルトンで長期にわたり住み続けられる家

温かい家

省エネルギー等級4を基本とし、宮城県でもII地域対応を目指す

長持ちする家

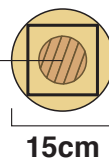
維持管理等級3等級で手入れしながら住み続けられる家

維持保全計画

当会のオリジナル管理ソフトで定期点検から補修記録まで管理。第三者機関へ住宅履歴情報の委託・50年保全計画書に沿ったメンテナンス提案

一般的に使用される柱・土台

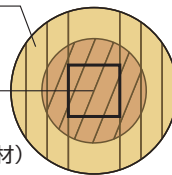
赤みの少ない芯材



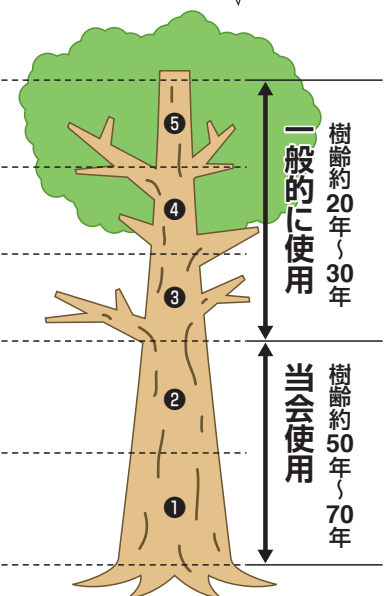
15cm

芯去り羽柄材

赤太柱・赤太土台（赤身の芯材）



24cm以上（平均28~30cm）



樹齢約20年～30年
一般的に使用

樹齢約50年～70年
当会使用

[70~80年の杉]



TOKYO 東京都

関東地区

●地域協議会名称

東京木造住宅生産体制強化推進協議会

●協議会事務局

公益財団法人東京都防災・建築まちづくりセンター

第1回採択グループ数 17

第2回採択グループ数 7

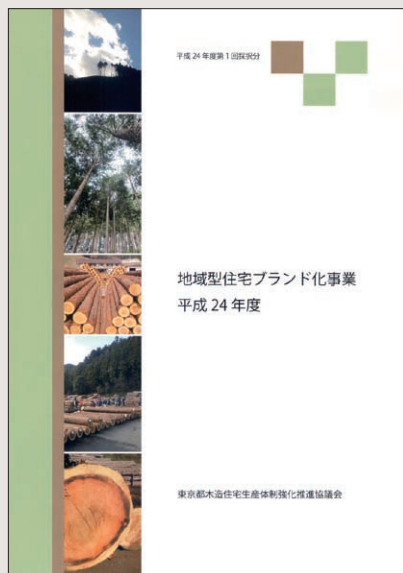
採択グループを紹介する冊子を制作

東京都の地域協議会を務める東京都木造住宅生産体制強化推進協議会は、木材の業界を含めた木造住宅の生産に携わる人たちの、連携を支える組織としての役割を担おうとしている。その仕事

の1つが、ブランド化事業の都民へのPRで、それを形にしたものが、平成25年3月に発行した『地域型住宅ブランド化事業・平成24年度』という冊子である。第1回に採択された東京のグループを詳しく紹介し、さらに東京に住宅を供給する都近郊のグループも紹介したもので、部数は約2000部。これを公共団体の窓口などに置き、ブランド化事業と採択されたグループを広くアピールしていくのが狙いである。

り、冊子では伝えきれない情報を発信している。

そして、これらの取り組みと絡め、協議会が中心となってグループの交流会を行い、各グループが切磋琢磨しつつ、互いの経験・実績などを共有して営業力、技術力、信頼性をアップさせ、1つのまとまりとして都民にアピールできる形をつくり、ブランド化事業を支援していく予定だ。



地域型住宅ブランド化事業の冊子

グループが力を合わせて都民にアピール

同協議会では、採択されたグループが都民に広く認知されることが重要だと考えており、そのために、多様な個性を持つブランド化グループが集まり、ブランド化住宅の活性化に向け、力を合わせる事が大切で、これにより、グループの数よりはるかに大きな力になり、都民に知られていくと考えている。

採択グループをまとめた冊子の制作はその第一段階で、同じ3月には、冊子に続き、専用のホームページもつく

地域産業全体の振興のために

これからは、木材の事業者と工務店とが交流に努め、工務店に東京の山や木に対する理解を深めてもらうことも必要と考えている。

さらに、当然ではあるが、地域産業は、ブランド化事業に参加しているグループだけでなく、それ以外の工務店等、家づくりに携わる人たちも含めて成り立っている。そのような観点から、協議会では、何らかの形で地域産業全体の振興を図っていくことも必要だと捉えている。

家守り重視で、工務店、設備業者が
30分で駆け付ける

武蔵野の家

「水と緑の循環型住宅」を考える会

メンバーはグループに参加した メリットを享受

東京のベッドタウン、武蔵野エリアを中心に活動する同会は、この地域で長期優良住宅を推進する地場工務店が発起人となって木材流通事業者に働きかけ、事務局となっている木材流通事業者が取引先を対象にグループづくりを図り、発足した。

参加工務店は、ブランド化グループに名を連ねることに積極的で、結成後、

情報提供や啓蒙のための勉強会を開き、メンバー間の交流や情報交換を行ったことで、グループ化によるメリットを感じている。たとえば、構造計算、確認申請、長期優良住宅技術的審査申請等を事務局が代行する旨を告知し、これを実践。参加工務店の中には長期優良住宅の経験がなかったところもあったが、これにより工務店に安心感が生まれ、実際に申請等の負担も軽減されている。

工務店や設備会社は 建てた家から30分以内

住宅の規格・仕様に関しては、耐震性向上のために耐震等級3を取得するか、もしくは耐震等級2を取得した上で制振装置を設置すること、地域の特徴である豊かな水と緑を守り、水資源の循環を促進するために、雨水浸透柵を設置することが決められている。この雨水浸透柵は、共同仕入れをすることで

コストダウンを図っている。

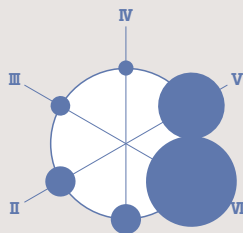
また、地域密着で、家守りを重視し、ホームドクターなど維持管理類のソフトを統一することにより、エンドユーザーに対して、工務店単体よりも信頼性を増している。

特徴的なのは、建築場所から車で30分以内の距離に工務店や設備会社があることとしている点で、これなら何かあったらすぐに駆け付けてもらえるという安心感を一般ユーザーに与えることができ、日常的にも付き合いが生まれ、家守りの役割を果たすことができる。

DATA

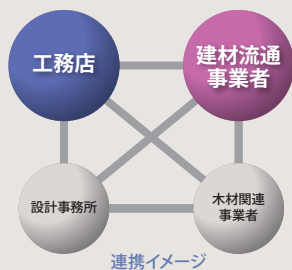
「水と緑の循環型住宅」 を考える会

- ・グループ代表者／
宮下真一（みすゞ建設株式会社）
- ・グループ事務局／株式会社タカキ
- ・結成／平成24年2月
- ・対象地域／多摩の東部地域
- ・地域材／多摩産材、八溝材、天竜材、美作材、三陸材、道産材（産地・多摩、八溝、天竜、美作、三陸の各地区と北海道）



グループ構成比

- I: 原木供給 ●II: 製材・集成材製造・合板製造
- III: 建材（木材）流通 ●IV: プレカット加工
- V: 設計 ●VI: 施工



グループ事務局
沖野謙氏



分科会

これも、地域を武蔵野市を中心とした多摩東部に限定したからできることである。

このような共通ルールに加え、長期優良住宅の基本仕様を守りつつ、パッシブソーラー、ゼロエネ、デザイン重視などの要素を各工務店が独自に加えることができ、自社の仕様として取り組んでいる。

木材の使用については、構造材での地域材の比率を50%以上とすること、野地または床用合板使用の場合は、地域材を100%使用することとしている。

ホームページやパンフレットなどを作成し、営業を支援

一般ユーザーへのPRに関しては、すでに「武蔵野の家」のホームページができており、ここでは、「武蔵野の家」の魅力の説明だけでなく、長期優良住宅や

ブランド化事業などの解説もあり、さらに、メンバーのリストも掲載されていて、それぞれのホームページとリンクされている。

また、メンバーの工務店のリストが載るパンフレットを作成しており、ここでも「武蔵野の家」の特徴やブランド化事業について一般ユーザーにわかりやすく説明しており、各工務店は、これを営業ツ

ルとして活用している。

「武蔵野の家」ののぼりも作成し、現場見学会などで使い、「武蔵野の家」のアピールに役立てている。

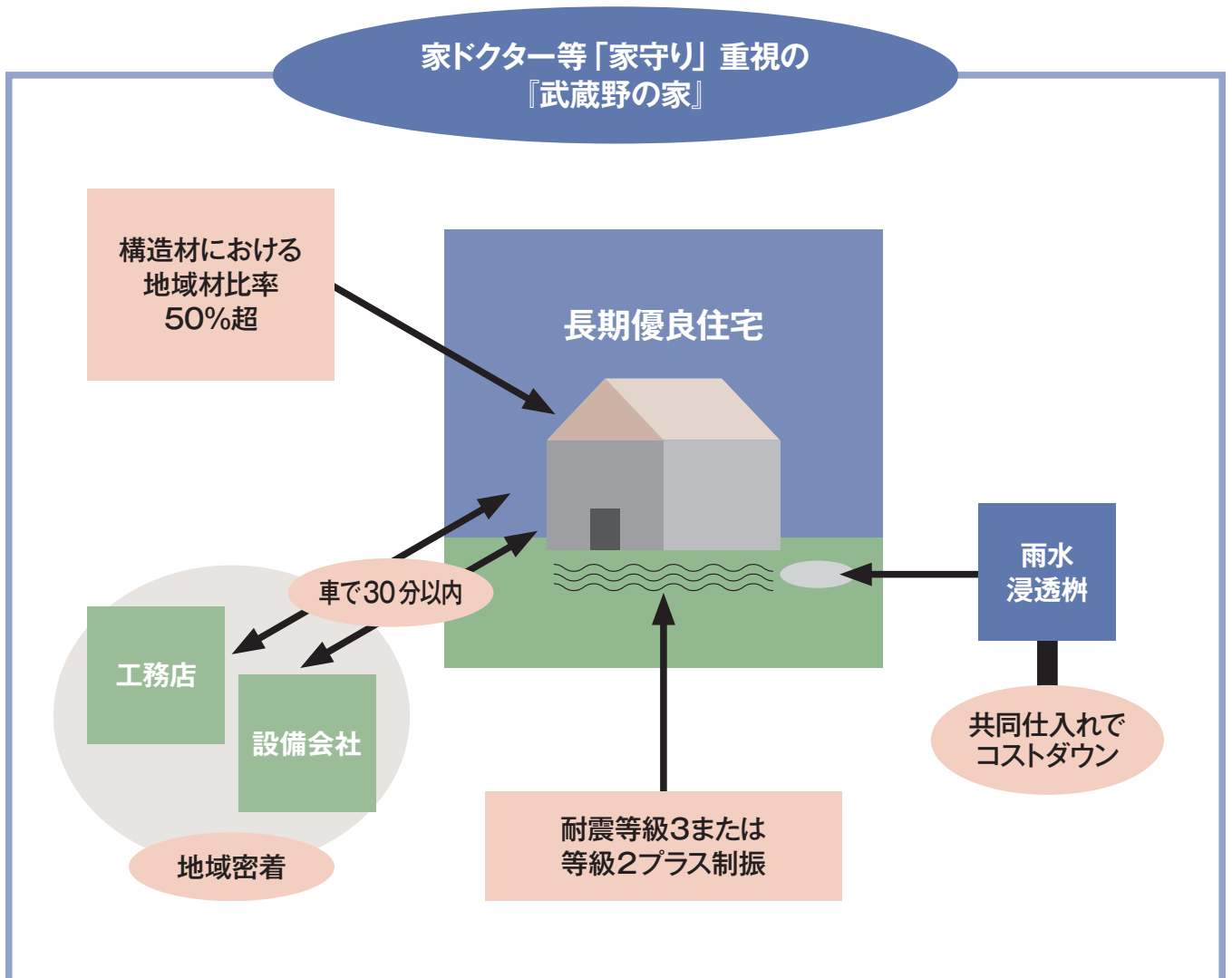
一般ユーザーに対して、このような現場見学会だけでなく、今後は、地域材産地訪問も定期的に企画し、植林などを体験してもらい、資源の循環利用の啓蒙活動にも努めていく予定となっている。



会がつくったのぼり



「武蔵野の家」のパンフレット



東京の木で東京の家を
多摩産材にこだわった家づくり

多摩の檜でつくる 東京の家

一般社団法人TOKYO WOOD普及協会

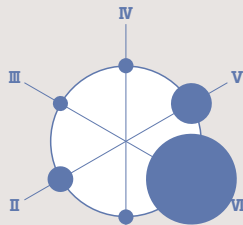


グループ事務局
高井毅氏

DATA

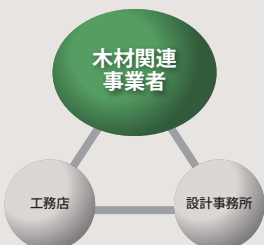
一般社団法人
TOKYO WOOD普及協会

- グループ代表者／
沖倉喜彦（有限会社沖倉製材所）
- グループ事務局／
株式会社小嶋工務店
- 結成／平成21年3月
- 対象地域／東京都および近県
- 地域材／多摩産材（産地・あきる
野市、青梅市、西多摩郡、八王子市）



グループ構成比

- I: 原木供給 ● II: 製材・集成材製造・合板製造
- III: 建材（木材）流通 ● IV: プレカット加工
- V: 設計 ● VI: 施工



連携イメージ

東京の家と森を育てるグループ

「TOKYO WOOD普及協会」は、多摩産材の活用を目的として平成21年に製材所、木材店など3社でつくれたTOKYO WOODを母体としている。ブランド化事業に参加するにあたり、賛同事業者を集め、東京で家を建てるなら東京の木で建てようというコンセプトで、地元多摩産材を使った家づくりにこだわることを目的に平成24年に同グループを設立した。

そして、「東京の家と森を育てる」という理念のもと、これからの価値観に応える家づくりを定着させる、地元である多摩地域の木材の地産地消を進める、快適な家づくりのための技術の維持・向上、この3つを事業方針とした。

多摩産材を使う理由

多摩産材（東京都多摩認証材のヒノキ、スギ）を使う理由として挙げているのは、江戸幕府開闢以来、江戸の町の形成に多く使われ、目が積み、油脂分が多く、粘り強い優れた建築材料であること、出自が明確な材としてトレーサビリティが確実に実施できること、地産地消で、伐採後の再植林計画などが担保されていて、持続可能な森林利用計画のもとで伐採され、流過程も

マニフェスト化されていること、グループメンバーの製材業者のグレーディングマシンでヤング係数および含水率を明示することで、木材の出自とともに性能品質を担保できること、そして、地域経済の活性化に寄与することの5点である。

実際の多摩産材使用のルールとしては、主要構造材の50%以上に多摩認証材のヒノキを使うこと、多摩産材のヒノキ、スギの床材を床面積の30%以上に使うこと、外構部材および内装仕上げ材、家具等に多摩産材を使うことを提案している。内装材にも多摩産材を使うことで、多摩産材の温もりを感じてもらいたいという気持ちが込められている。

地盤保証をする

「多摩の檜でつくる東京の家」のそのほかの特徴としては、まず地盤保証が挙げられる。東京は直下型地震の発生が懸念され、地域により液状化の心配もある。そこで、地盤調査会社と連携して全棟詳細な地盤調査を行って、地盤保証をすることにしている。

そのほか、グループで取得予定の住宅型式認定（劣化対策3等級、薬剤不使用）の全棟使用、2階以上の床下地には剛性の強い材料を採用し、耐震性

を担保するというルールもある。

見学会などを催し、 一般ユーザーに 多摩産材を知ってもらう

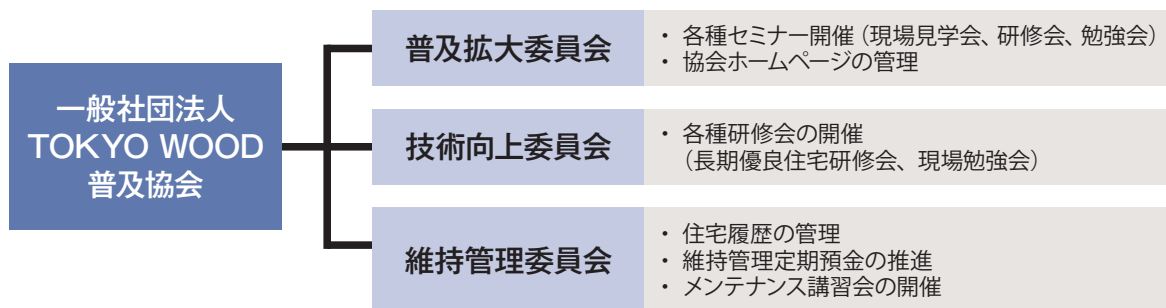
同グループには、技術向上委員会、普及拡大委員会、維持管理委員会の3つの委員会がつけられており、技術向上委員会ではメンバー向けの各種研修会

の開催などを担い、維持管理委員会では住宅履歴の管理、維持管理定期預金の推進などを担っている。

また、普及拡大委員会では、一般ユーザー向けホームページを立ち上げ、「多摩の木ふれあいツアー」といったバスツアーや製材所の現場見学なども実施している。一般ユーザーが実際に山に入るツアーでは、原木を見ると、多摩産材に多くの人が興味を示してくれるという。

このような取り組みを続けることによって、多摩産材の良さを理解してもらい、たとえば、見学した人の友人で家を建てたいという人にも多摩産材のことが伝わっていく、こうして認知度が高まっていくことを、同グループでは願っている。

平成25年度には、こうした普及活動に、より一層力を入れていかなければならないと、グループ事務局では受け止めている。



『多摩の檜でつくる東京の家』 主な特徴・共通ルール

多摩認証材

木材活用ルール

- 品質表示木材の使用
- 主要構造部位の50%以上に多摩認証材のヒノキを使う
- 内装材に多摩産材を使う（床面積の30%以上）
- 外構部材に多摩産材活用を推奨提案

『多摩の檜でつくる 東京の家』

地盤保証

規格・仕様ルール

- 当協会において劣化対策等級3の型式認定（申請中）を取得する。全棟この型式を使用することで品質を担保。
- 2階以上の床下地には剛性の強い材料を採用し、水平構面の確保とともに、施工の安全性と合理化を図る

自然災害時の被害を最小限にし、
拠点としても使える家づくり

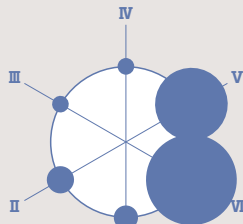
「いえ・まち」東京2012

全木協東京都協会

DATA

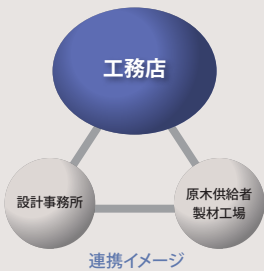
全木協東京都協会

- ・グループ代表者/
池田浩和(岡庭建設株式会社)
- ・グループ事務局/
全木協東京都協会
- ・結成/平成23年9月
- ・対象地域/首都圏(東京・神奈川・
埼玉・千葉)
- ・地域材/合法木材(国産材)(産地・
全国)



グループ構成比

- I:原木供給 ●II:製材・集成材製造・合板製造
- III:建材(木材)流通 ●IV:プレカット加工
- V:設計 ●VI:施工



強い東京の家づくり、 街づくりのためのブランド

同協会は、全国建設労働組合総連合(全建総連)と一般社団法人JBNによって設立された一般社団法人全国木造建設事業協会(全木協)の東京都を対象とするグループで、設立は平成23年。工務店・大工・職人13万人による組織を母体とし、ブランド化事業に取り組むにあたり、原木供給、製材、プレカット、建材流通事業者が参加している。

同協会の第一の目的は、災害時の応急仮設木造住宅の供給で、ブランド化事業も防災を意識したもので、強い東京の家づくり、街づくりを目指している。その家の特徴は、長期優良住宅を基本にして、自然災害時の被害を最小限にし、災害時拠点として稼働できる家、ヒートアイランド対策を施した家といえる。

具体的な仕様は、災害時の非常用水、初期消火用水、夏場の打ち水用として雨水を利用する雨水貯蓄タンクの設置もしくは水害軽減のための雨水浸

透樹の設置、基礎コンクリート強度を30(N/mm²)とした耐久性の確保、省エネ性能向上のため、住宅事業建築主の判断基準(トップランナー基準)の達成などを共通ルールとしている。

そのほか、家を建てると同時に防災意識を高めてもらうため、防災グッズを1つ設置するという条件もある。

同協会は一般へのPR手段として、ブランド化事業を盛り込んだチラシを全建総連東京都連合会で作成し、広報活動に活用している。

災害時にスムーズに 木材を供給できる仕組みに

木材の使用に関しては、応急仮設木造住宅の供給が同協会の出発点なので、災害を想定した木材の供給確保は欠かせず、本来は東京の多摩産材をメインにするのが理想だが、全国で最も多い東京の着工戸数に比して、木材の供給量が絶対的に不足しており、災害時に速やかな対応が円滑にできるように、地域材の指定はあえてせず、国産の合法



研修会



グループ代表
池田浩和氏



グループ事務局
坂口岳氏



グループメンバー
長谷部康幸氏

木材としている。

また、全木協では、災害時の対策として木材供給ルートを事前にきちんと確立しており、原木、製材、プレカットまで地場産材を利用した緻密な連携を工務店ととれる木材生産者のメンバーを選定している。

未経験工務店が1社でも 取り組めるように

同協会の7割の工務店が長期優良住宅への取り組み経験がないため、未経験工務店が取り組みやすいものとするために、上記のルールづくりにおいて、ハード(仕様)を上げないで、ソフト面(維持管理計画)を高くしている。トップランナー基準が盛り込まれているが、トッ

プランナー基準に関しては、勉強会を開催し、しっかりと勉強ができる体制づくりをして、サポートしている。

そのほか、長期優良住宅に関する講習会も随時実施し、経験の少ない工務店でもプラント化事業に取り組めるよう、さまざまな支援を行っている。

また、災害時にすぐに対応できるのは、何といても地元の工務店であり、職人であるため、これら地元の人たちが活躍できる体制をとっておくことが大切だと、同協会では考えている。そのため、教育、連携体制づくりにも、これから一層励んでいくことになる。

今後のこととなるが、東京建築高等職業訓練校等の教育機関で学ぶ大工や建築士を目指す学生を対象に現場見学会などを催し、また、メンバーによる技

術指導なども行い、地域で活躍できる人材育成にも努める考えである。



広報活動用チラシ

『いえ・まち』東京2012』の家

使用木材

- ・ 柱、梁、桁、土台等の主要構造材に関しては、合法木材(国産材)を100%使用
- ・ 製材出荷時に含水率25%以下の材と証明された材のみ使用

住宅の省エネ性能向上

- ・ 住宅の省エネ性能向上のために、事業建築主の判断基準100%を算定用Webプログラムで達成する(トップランナー基準)

長期優良住宅

『いえ・まち』東京2012証明証

- ・ 設計仕様、施工基準、維持管理に関する計画が、『いえ・まち』東京2012仕様に適合している場合、『いえ・まち』東京2012証明証を発行する

防災対策

- ・ 災害時の非常用水や初期消火として雨水を利用するため、「雨水貯蔵タンク(壁付型80リットル以上または地上設置型150リットル以上のいずれか)」を設置または水害軽減のために雨水浸透枳を設置
- ・ 災害の備えとして1棟ごとに防災グッズを備える
- ・ 災害対策として、基礎コンクリート強度を30(N/mm²)とすることで長期の強度を確保

中京地区

愛知県

●地域協議会名称

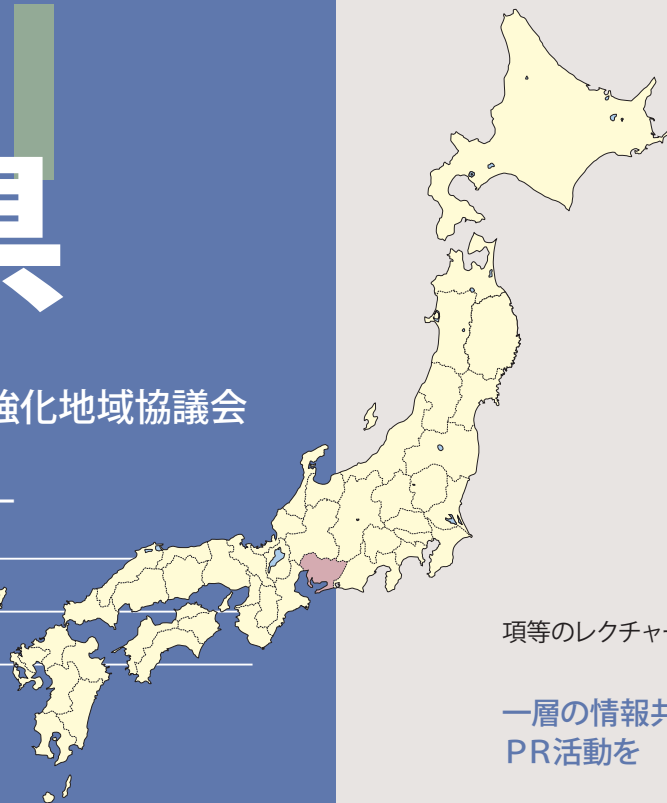
愛知県木造住宅生産体制強化地域協議会

●協議会事務局

財団法人愛知県建築住宅センター

第1回採択グループ数 15

第2回採択グループ数 4



項等のレクチャーなどを行った。

一層の情報共有の努力とPR活動を

ブランド化事業 情報連絡会を開催

平成25年1月、愛知県地域協議会が主催して「木造住宅生産体制強化・地域型住宅ブランド化事業情報連絡会」を名古屋市で行った。開催は、地域型住宅ブランド化事業に参加しているグループ間の情報交換が十分でないため、その機会をつくることを目的とした。加えて、愛知県建築住宅センターを母体とし、愛知県建設団体連合会、愛知建築士会、愛知県建築士事務所協会、日本建築家協会東海支部愛知地域会、愛知県木材組合連合会、全国住宅産業地域活性化協議会愛知県支部の連携により

設立した地域協議会の存在の周知という狙いもあった。

また、ブランド化事業が進む中、協議会には申請書作成に関する問い合わせが各グループ事務局から多くあり、それまでは個々に対応していたが、一堂に会する機会に説明会を開催するという目的も、この連絡会にはあった。

連絡会には、第1回に採択された15のグループから事務局やグループメンバー26名が参加し、採択されたグループの紹介、国土交通省の担当者による地域型住宅ブランド化事業と今後の木造住宅政策についての説明、グループの各メンバーの交付申請作業を軽減するため、交付申請書作成に関する注意事

グループは今後も増えていくと予想されるが、愛知県は広く、このような会合を頻繁に開くのはむずかしい環境にある。そのため、今後はネットワークをつくり、より効率的に情報共有を図っていく予定である。また、地域協議会では、全20回、「住宅省エネルギー施工技術講習会」を実施しており、この講習会でもブランド化事業の工務店等への啓蒙に努めていきたいと考えている。

個々のグループからは、一般ユーザーへの広報活動をしてほしいという要望が出ており、ブランド化事業の各種情報提供およびPR、各グループ間の情報交換の必要性は高まってきている。

さらに将来的には、各グループのスキルアップも必要になるとして、地域協議会がその受け皿としての機能も果たさなければならないと考えている。今後は、各グループと地域協議会が一体となって、これらの課題に取り組んでいく計画である。



情報連絡会



協議会事務局
松尾俊博氏



協議会事務局
松原孝典氏



協議会事務局
山内常靖氏

3つのグループが 1つのブランド化グループに

「中京優良住宅ねっと」は、愛知県、岐阜県、三重県を対象としている建材流通事業者3社が核となり、それぞれが取引のある製材、プレカット、設計・施工者等とグループを組み、この3つが集まって構成している。

もともと3社が地域工務店に向けた住宅性能型式認定の取得を目的に集ま

り、各社の取引先でそれぞれ別のグループを組織していたのだが（平成21年）、地域型住宅ブランド化事業への取り組みを契機に、3社の核はそのまま維持しつつ、1つにまとまろうと、改めて中京3県の地域特性を活かしたグループ「中京優良住宅ねっと」を平成24年4月に結成した。

自由度を持たせた共通ルール

3つのグループが1つになった経緯から構成メンバーも多く、また、対象地域も愛知、岐阜、三重と広く、地域特性も若干異なることもあるため、共通ルールづくりは、「むずかしいルールをお仕着せとするのではなく、ある程度自由度のあるものにしよう」というポリシーのもとで、事務局を務めるサンコーが中心となり、グループメンバーが集まって検討会を7回開いて協議した。

ルールの自由度が高い分、それぞれの工務店が特色を出せることを目的としている。

地域材も幅を持たせ、愛知、岐阜、三重の県認証材を基本とし、事情によって手配できない場合、気候的に似ている隣接する静岡、和歌山の県認証材でも認めるものとした。



優良住宅「中京の家」のパンフレット

4つの選択性能ジャンルから選 び仕様に組み込む

具体的な建物の共通ルールは、長期優良住宅技術基準をベースに、プラス項目として、「優良住宅『中京の家』」の特色としている4つの性能ジャンルのなかから1つ以上を選び、仕様に組み込むこととしている。

その1つが、大きな地震が想定されている中京地区では欠かせない「災害対策」。この「災害対策」では、省令準耐火構造、太陽光発電システム、雨水タンク、液状化調査・対策の中からの選択制になっている。

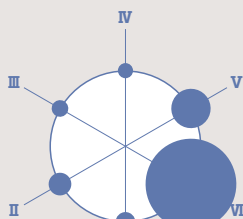
そのほか「省エネ対策」、「長期（長寿命）対策」、「地域貢献」というプラス項目があり、「省エネ対策」では、太陽光発電システム、

太陽光発電システム、

DATA

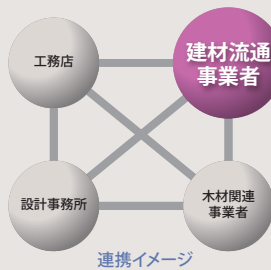
中京優良住宅ねっと

- ・グループ代表者／深谷啓治（シンセイ建設株式会社）
- ・グループ事務局／株式会社サンコー
- ・結成／平成24年4月
- ・対象地域／愛知県・岐阜県・三重県
- ・地域材／愛知・岐阜・三重県認証材他（産地・愛知・岐阜・三重他）



グループ構成比

- I: 原木供給 ●II: 製材・集成材製造・合板製造
- III: 建材(木材)流通 ●IV: プレカット加工
- V: 設計 ●VI: 施工



グループ事務局
早川由洋氏



グループメンバー
田中健氏



グループメンバー
高井一哉氏

中京地区の流通事業者3社が 核となりグループを形成

優良住宅「中京の家」

中京優良住宅ねっと



研修会

LED電球取り付け、緑のカーテンの設置など4つから、「長期（長寿命）対策」では、車いす用スロープ、EV用コンセントなど5つから、「地域貢献」では、植樹、三州瓦など5つから選択するようになっている。

「地域貢献」の項目には、地域特産品

という選択肢もあり、これは住宅に関係しないものでも、何らかの形で地域に貢献するものなら何でもいいということになっている。

これらの選択肢の中で、実際に最も多く選択されているのは太陽光発電システムである。

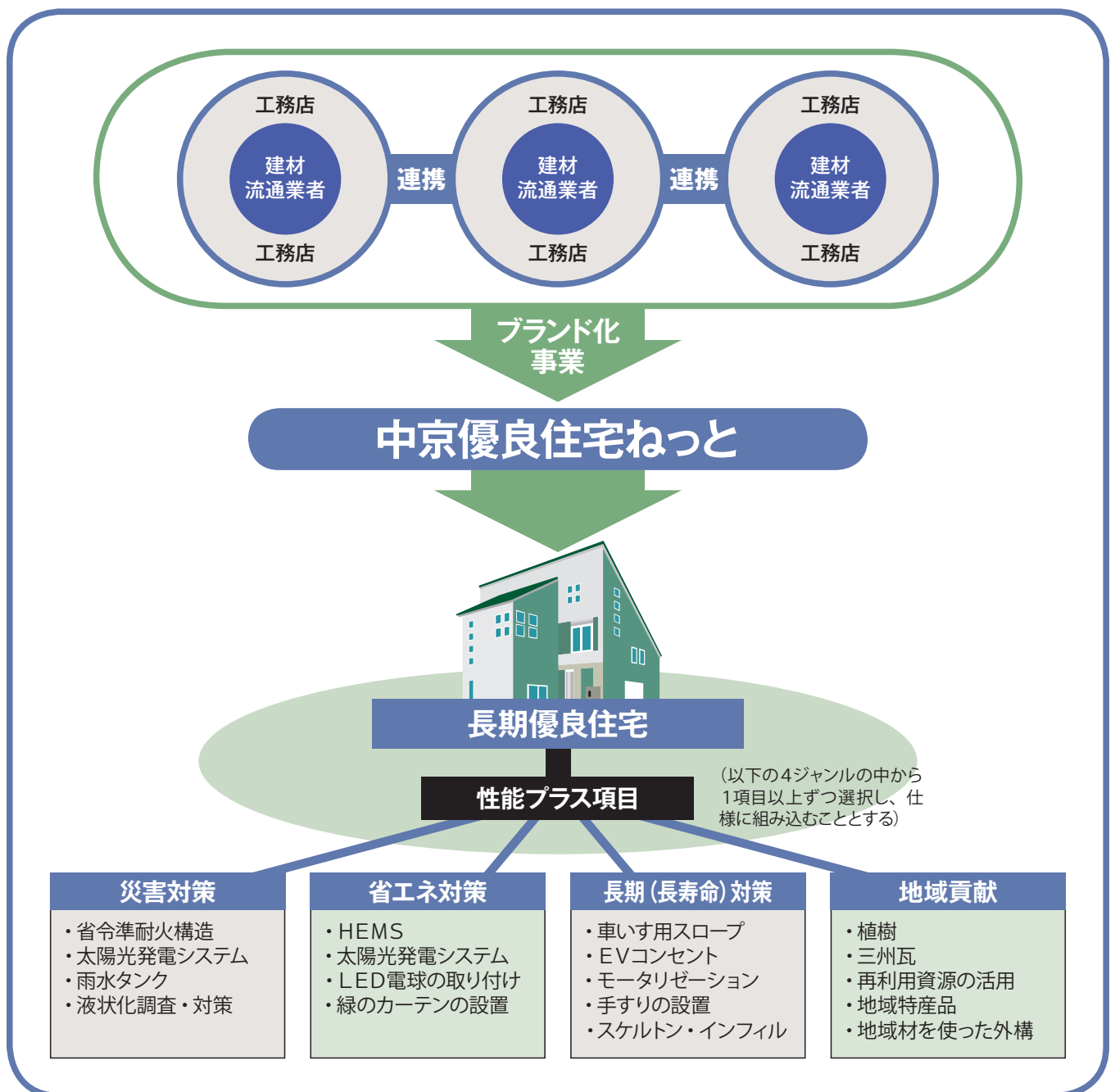
研修の受講が申請の条件

一般ユーザー向け営業ツールとしては、事務局が作成した「優良住宅『中京の家』」のパンフレットがあり、それぞれの工務店がこれを利用して営業活動を

行っているが、ブランド化事業が終了しても継続して使えるように、パンフレットではあえて補助金については触れていない。

このほか、事務局の支援として研修会の実施がある。採択を受けてから2回開催し、それに参加してはじめて交付申請が可能という仕組みとなっている。研修会の受講を交付申請の条件としたのである。

今後は、長期優良住宅の仕様が標準的仕様となるとの認識で、経験の少ないグループ内の工務店を対象とした研修に、特に力を入れていく計画としている。





グループ事務局
伊藤和彦氏

長期優良住宅の経験のない工務店も 取り組めるシンプルな設計ルール

東海道あんしんの家

東海道こだわりの家づくりの会

ブランド化事業が 組織づくりのきっかけに

「東海道こだわりの家づくりの会」の出発点は、中部地域の建材流通事業者が取引先の工務店に「将来的に家づくりは長期優良住宅仕様が標準となるので、一緒に長期優良住宅づくりをしませんか」と声をかけ、勉強会を始めた平

成21年にさかのぼる。地域で流通事業者と工務店がともに生き残るためには何かやらなければならないという強い気持ちがあったが、具体的な組織化がなかなかできないでいたところ、ブランド化事業がスタートし、国の取り組みということで、工務店等に改めて声をかけ、賛同者を中心にこの会を結成した。

メンバーは、長期優良住宅に取り組みたいという意欲的な工務店が中心で、そのメンバーの営業範囲は、愛知、静岡、神奈川等広域にわたっている。

を追求するということ。そのため、基本的な資材はできるだけ共同購入をしてコストを下げ、木材に関しては、地域ブランド材よりコストが抑えられる合法木材の利用を共通ルールとするなどしている。

また、長期優良住宅に取り組んだことのない工務店でも実施できるようなルールづくりを目指し、設計に関しては、「耐震等級2以上」「劣化等級3」「温熱等級4」「維持管理等級3」と、長期優良住宅の認定基準に準じた基本性能と、シンプルなルールにすることにした。

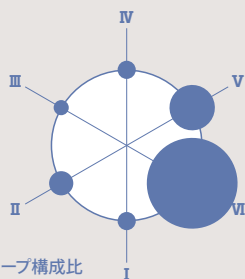
このため、汎用性が高く、工務店にとって無理をしなくても取り組めるものとなっていて、それぞれの工務店が、この共通ルールをベースに、自社の特色を出し、家づくりをする仕組みとなっている。

広域エリアでの活動がデメリットにならないような「普遍性」の高い「高品質

DATA

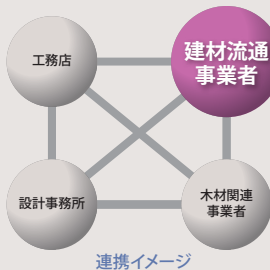
東海道こだわりの家づくりの会

- ・グループ代表者/
河原章二(株式会社河原工務店)
- ・グループ事務局/
中部ホームサービス株式会社
- ・結成/平成24年1月
- ・対象地域/三重県・岐阜県・愛知県・
静岡県・神奈川県
- ・地域材/合法木材
(産地・アメリカ、広島、三重)



グループ構成比

- I: 原木供給 ●II: 製材・集成材製造・合板製造
- III: 建材(木材)流通 ●IV: プレカット加工
- V: 設計 ●VI: 施工



連携イメージ

低価格の追求など 目的を明確にしてスタート

会を結成し、地域型住宅ブランド化事業に取り組むにあたっては、目的を明確にした。

まず可能な限りコストを抑え、低価格



ブランド化事業説明会

住宅」の普及も目的として掲げ、シンプルな設計にすることで、どのエリアの工務店が手掛けても、一定の品質を保持できることで実現している。

生き残るため、 永続的なグループに

会では発足説明会の時、ブランド化事業について説明し、採択後、愛知、静岡、神奈川など、エリアごとに工務店メンバーを集め、改めて共通ルールの

研修会を開催した。その後も定期研修会として外部講師を呼び勉強会を続けており、参加費は無料としている。

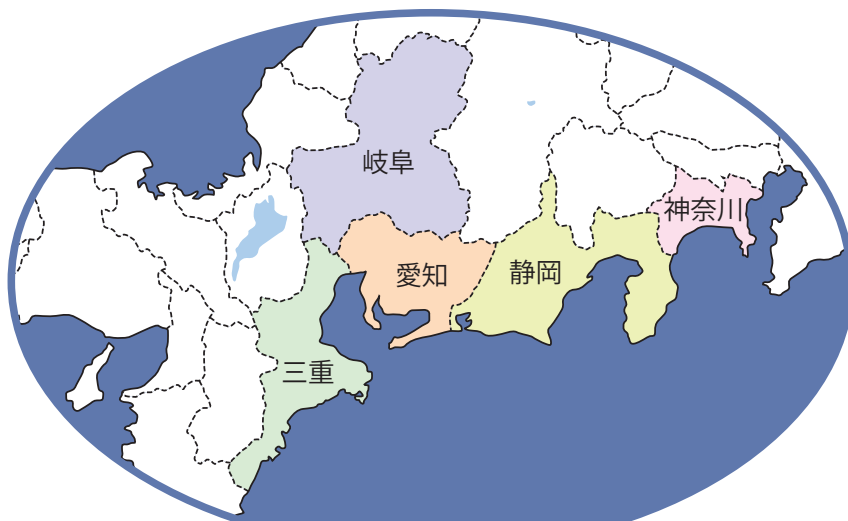
また、最終的な図面のチェックなど、事務局がメンバーのフォローにも努めている。

ブランド化事業がきっかけで組織づくりをした同会だが、地域で流通事業者も工務店も共に生き残るため、国のブランド化事業が終了しても続く、永続的な会にしようとしている。そのため、これからもスキルアップのための研修会等を継

続して実施していく予定である。

グループ内の広報は、広域なため、今のところ、グループ事務局を務める中部ホームサービスに負担がかかっている。これを解消し、エリア内の情報の発信・共有などをよりスムーズに行えるように、愛知、静岡、神奈川などに拠点事務局を置くことも考慮している。

「地域で共に生き残っていく」——これが同会の出発点。この点からぶれることなく、これからは会の機能をより充実させていこうと、事務局では考えている。



広範囲な対象地域

耐震等級
2以上3を目指す

軸 + 構造用面材

劣化等級3

通気層確保

温熱等級4

施工精度向上

維持管理等級3

定期メンテナンス実施

東海道あんしんの家

- 低価格追及
- シンプルな設計プラン
(地域内での建築条件の差異等に対応)
- 普遍性の高い高品質住宅
(安定した性能・施工品質を目指す)

HIROSHIMA

中国地区

広島県



●地域協議会名称

広島県木造住宅生産体制強化推進協議会

●協議会事務局

社団法人広島県建築士会

第1回採択グループ数 5

第2回採択グループ数 3

講演会などを実施

地域の中小事業者が国の政策に則ってレベルアップしていかないと、地域が疲弊する。これが広島の現実であり、各事業者は運命共同体として力を合わせていかなければならない——このような認識のもと、広島県木造住宅生産体制強化推進協議会は会を運営している。

そして、省エネ講習を中心に活動しつつ、地域の住宅生産体制の強化に総合的に取り組んでいる。ブランド化事業への対応もその1つ。平成24年度に採択されたグループは8だが、このグループおよび今後ブランド化事業に取り組もう

という事業者に対して、協議会としてバックアップしていくという。平成24年12月に開かれた会議では、「地域ブランド化事業を行っている事業者等に役立つ情報を提供するため、講習会を開催する」という取り決めを行った。

ブランド化事業への協議会としての本格的な取り組みはこれからだが、すでに、ブランド化事業のヒントになればと、平成25年2月には、『「広島のこれからの地域型木造住宅」を考える』というタイトルで住宅講演会を実施。協議会での取り決めの具体化の1つといえるだろう。実際、ブランド化事業に採択された工務店も、この講演会に参加している。

ブランド化事業の事例作品集を

また、広島県建築士会などいくつかの団体で「ひろしま住まいづくり支援ネットワーク」というものをつくっていて、ここが主催して、広島の気候風土にマッチした提案を募集する「ひろしま住まいづくりコンクール」を毎年行っている。優秀な作品には賞が贈られ、作品集も制作。さらに、省エネや地域産材を使用したものなど、選にはもれても、提案がよかったものをまとめて冊子をつくる予定だが、今後は、ブランド化事業でつくられた家の事例作品集もつくろうと考えている。実際に建てられたものを、写真入りのこのような冊子で紹介すれば、一般ユーザーへのPR効果も大きいだろう。

ブランド化事業に関して、協議会としては、平成24年度はまだ模索の段階である。ただ、ブランド化事業は卓抜なアイデアであり、そのステージに上がることで工務店もレベルアップすると捉えている。そのため、これから、ブランド化事業に対して協議会としてどのような手伝いができるか、本格的に検討し、バックアップしていく体制を整えていく予定である。



住宅講演会のチラシ



ひろしま住まいづくりコンクール作品集



協議会事務局
錦織亮雄氏



グループ事務局
三原聖史氏



ブランド化事業説明会

実績が出て、手応えを

「ひろしま地域住宅の会」の事務局では、地域型住宅ブランド化事業のグループをつくった手応えを感じている。というのも、これまで注文住宅をほとんど受注していなかった工務店が、長期優良住宅3~4棟の受注実績を残しており、事務局と工務店が一緒になって結果を出しているという実感があるからだ。こ

れまで広島では、長期優良住宅はなかなか普及していなかった。それが、ブランド化事業が始まり、補助金があることもあって、成果が出てきている。

同会の結成は平成24年2月だが、それより前の平成21年に「エコ・セ・トラの会」という組織ができていた。「ひろしま地域住宅の会」の事務局を務めるスガノなど住宅資材流通事業者4社（広島、福山、岡山、山口）が、資金面等で協力し合い、長期優良住宅の設計や検査体制などで工務店をサポートしていく体制を地域ごとに築こうという趣旨でつくったものである。広島県西部では「広島エコ・セ・トラ

の会」が活動している。

ただ、「広島エコ・セ・トラの会」は地域の流通事業者と工務店の連携だけだったので、ブランド化事業に参加するにあたり、もともと取引関係があった原木から設計までの地域の事業者に声をかけ、新たにグループをつくった。そして、平成24年3月から5月にかけて検討部会を9回行い、共通ルール等を構築していった。

共通ルールは、事務局が設計事務所と協議して素案をまとめ、それからグループ内の工務店等の意見を取り入れて作り上げた。

夏場の風に対処した家づくり

このようにしてつくった会のブランド化住宅が「もみじの家」である。特徴的な共通ルールは、広島沿岸部の気候・風土に配慮した点。同地域の気候は、夏場の瀬戸内特有の風があるため、とても暑く、また、花崗岩質の白い土におおわれ、照り返しが強いという特徴がある。これに対応する家づくりというのがポイントの1つである。

そのために、通風を確保して、風を活かす家づくり、庇や外付けブラインド

風を活かす家づくり
涼を生む家づくり

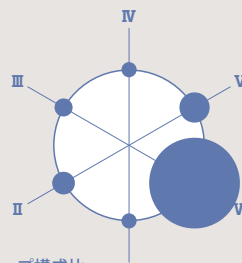
もみじの家

ひろしま地域住宅の会

DATA

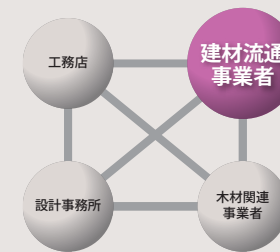
ひろしま地域住宅の会

- 代表者 / 中村和弘 (中村建設株式会社)
- グループ事務局 / 株式会社スガノ
- 結成 / 平成 24 年 2 月
- 対象地域 / 広島県西部沿岸市町村
- 地域材 / スギ、ヒノキ (産地・広島県西部・北東部)



グループ構成比

- I: 原木供給 ● II: 製材・集成材製造・合板製造
- III: 建材(木材)流通 ● IV: プレカット加工
- V: 設計 ● VI: 施工



連携イメージ

等で夏の強い日差しや照り返しを和らげ、涼を生む家づくりなどに配慮している。また、温熱対策も兼ねて沿道にもみじを2本以上植えるようにしてある。

外構には地域素材を使用し、景観にも配慮している。この地域素材の使用に関しては、照り返し防止のための広島県産の保水性レンガ、広島県の牡蠣殻入りの左官材などから選んで使うとしてある。

もちろん、冬の寒さに対しても万全で、次世代省エネ+αの温熱性能を確保している。

商品の履歴を管理

住宅履歴管理システムにも力を入れた。

具体的には、納品したキッチンや設備品等まですべての商品の履歴を管理していること。そうすることで、もしある家でキッチンの具合が悪いという連絡があった場合でも、すぐに品番がわかるので、迅速な対応ができるというわけである。このような管理は、個々の工務店ではなかなかできない。これを流通事業者である事務局のスガノが担っているのである。

住宅の維持保全にも力を入れ、維持管理の検査に関しては、工務店自主検査プラス第三者検査体制とした。断熱の検査も同様に必要なルールに入っているのだが、これに関しては、検査時に指摘されるケースもあったという。第三者検査を取り入れておいてよかったといえるだろう。

構造材は100%県産材

使用木材では、構造材を100%県産材のスギ、ヒノキとしている。

同会では特に県西部(太田川流域)

と県北東部(高梁川・江の川流域)のスギ、ヒノキに限定している。

その理由は、太田川流域は広島市の中心部から車で1~2時間で行けるところで、「もみじの家」の供給対象エリアから最も近いため、一般ユーザーにとって身近で愛着のある場所であるということ、高梁川・江の川流域はスギだけでなく、ヒノキの生産も多く、良材を産するところであることによる。

ホームページやチラシでのPRが受注につながる

このような特徴を持った「もみじの家」を、一般ユーザーにどのようにアピールしているのか。

そのひとつとして、「もみじの家」の専用ホームページをつくり、そこを通して構造見学会や完成見学会の案内等を行っている。また、事務局で見学会などの案内チラシを作成し、宣伝サポートを行った。チラシを見た一般ユーザーがホームページにアクセスし、興味を持ち、現場見学会に来て、「もみ



「もみじの家」オープンハウスのチラシ

じの家」の考えに共感し、受注につながったケースもあった。さらに、事務局で資金計画試算ソフトを作成し、それを使い、長期優良住宅のメリットを明確に伝えられたことが、ユーザーの背中を押す形になったという工務店の営業担当者もいる。

このほか、一般ユーザーと工務店両方に理解してもらうための、長期優良住宅の概要等を盛り込んだパンフレットも作成している。

将来的には長期優良住宅のリフォームも

同会がブランド化事業に取り組んでから、長期優良住宅に魅力を感じた工務店から「次回参加させてほしい」という声が入ってきたり、木材業者から「うちからも仕入れてほしい」という連絡があったりするなどの反響があり、事務局では、ブランド化事業のこれからの広がりを感じている。

さて、今後の課題として、グループ

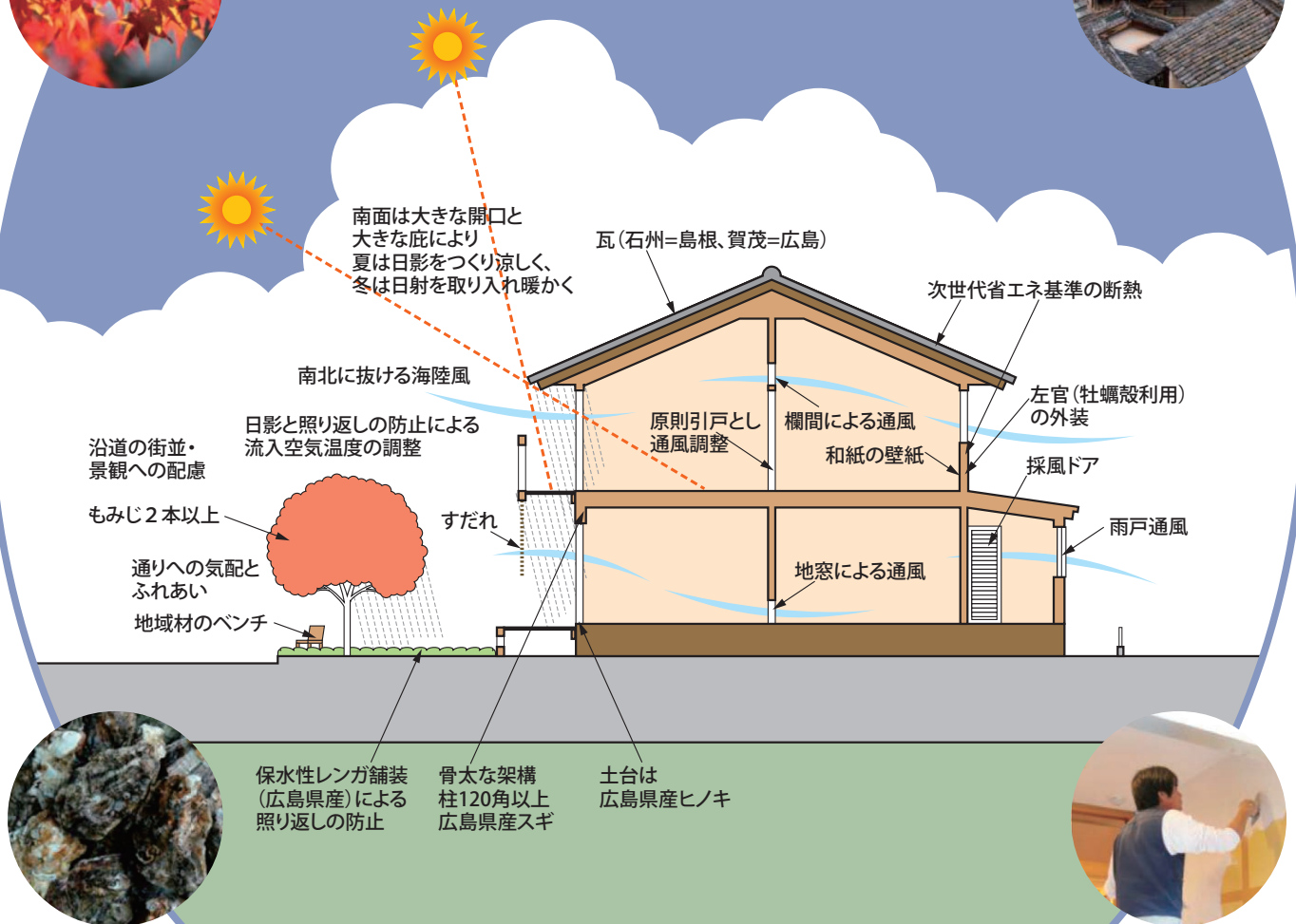
内に関してはグループのネットワークを強化することである。流通事業者でもある事務局では、川上と川下の間に位置する立場を活かし、そのためのハブとしての役割を担って行きたいと考えている。

また、ブランド化事業で経験を積むことによってメンバーのレベルをアップさせ、将来的には長期優良住宅のリフォームに取り組んでいこうと計画中で、検討会で具体的な内容を詰めているところだ。

外に向けては、「もみじの家」と聞けば、「ああ、あの家だ」と一般ユーザーがすぐわかるようになるくらい、地域に根付かせていくというのが、同会の願いである。

もみじの家

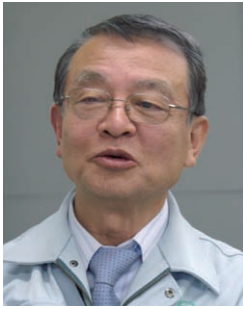
もみじの家の性能の目安
 Q値=2.7以下相当(次世代省エネ)
 μ 値=0.042以下相当(次世代省エネ×0.6)



30年近くの歴史を持つ会が
グループづくり

風・光・安芸のいえ

広島県工務店協会



グループ代表
河井英勝氏

ハウスメーカーと違う市場づくり を目指し、昭和59年に結成

ブランド化住宅「風・光・安芸のいえ」に取り組む広島県工務店協会の結成は古く、昭和59年。当初は会員間の情報交換等が主な目的だったが、バブル崩壊を経て、会員の倒産や廃業で退会が相次ぎ、工務店が独自の展開をして、ハウスメーカーとは違う市場をつくらないと生きていけないという危機感から、目

的を会員の生き残りのための活動に大幅に軌道修正した。以来、広島県産材を活用した家づくりなど独自の展開を行ってきた。

ライバル同士の工務店を組織化するむずかしさに直面するなど、現実は大変厳しいものだったが、国の長期優良住宅事業などに取り組みつつ踏ん張ってきたところ、ブランド化事業がスタート。ブランド化事業に向けて流通、設計等の事業者はもちろんのこと、これまで同協会に入っていなかった工務店にも声をかけ、ブランド化事業に取り組むことになった。

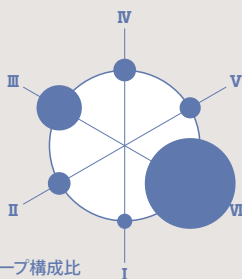


『優しい木の住まい』

DATA

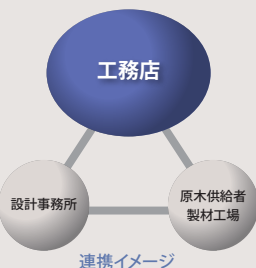
広島県工務店協会

- ・グループ代表者／河井英勝(橋本建設株式会社)
- ・グループ事務局／広島県工務店協会
- ・結成／昭和59年4月
- ・対象地域／広島県・山口県東部
- ・地域材／広島県産木材(産地・広島県全域)



グループ構成比

- I: 原木供給 ●II: 製材・集成材製造・合板製造
- III: 建材(木材)流通 ●IV: プレカット加工
- V: 設計 ●VI: 施工



広島の風土に合った パッシブデザインの採用

共通ルールは、広島の特徴を出すために何度も会議を行ってつくり上げ、かなりハードルの高いものとなった。広島は、瀬戸内海沿いは温暖で風があるが、北の山間部に行くと、東北と同じくらい寒い。そのため、パッシブデザインを採用することにした。そして、台風や換気・断熱に対応し、軒出を80cm以上とし、屋根は切妻とした。また、地域の材料

として、屋根は、古くから広島で使われている石州瓦に限定した。

ほかに、土台と柱は4寸角以上、主要構造材は広島県産材を80%以上使用し、CASBEE(建築環境総合性能評価システム) Aランクの家にするという共通ルールを定めた。

ただ、これらのルールは、一般ユーザーにとって費用の面でハードルともなった。一般ユーザーにプレゼンテーションする際、かなりむずかしく、それでも、各工務



パッシブセミナー



ブランド化事業説明会

店の努力によって受注することはできて
いるが、共通ルールの仕様が高水準の
家づくりであることをいかにユーザーに
理解してもらうか、あるいはこのハードル
をどうするか、今後の課題となっている。

地域材を使った長期優良住宅 実例集の住宅雑誌を発行

同協会ではブランド化事業以前から、
「一般ユーザーに地域材を使った木造
住宅の良さを知ってもらうことが大切で、
そのための広告活動を命がけでやろう」
との合意のもと、各会員が費用を出し
合せて住宅雑誌を発行している。
『優しい木の住まい』がその名前で、地

域工務店しか載っていない、地域材を
使った長期優良住宅の実例集である。
発行は年2回で部数は約2500部。広
島県全域と山口県東部の書店、一部コ
ンビニで売られているが、売ることだけ
が主な目的ではなく、広告宣伝活動の
ためのものでもあり、各工務店はカタロ
グとして活用している。工務店にとって、
この雑誌を半年ごとに新しいカタログと
して使えるメリットがあり、掲載を希望
する工務店は日々増えている。

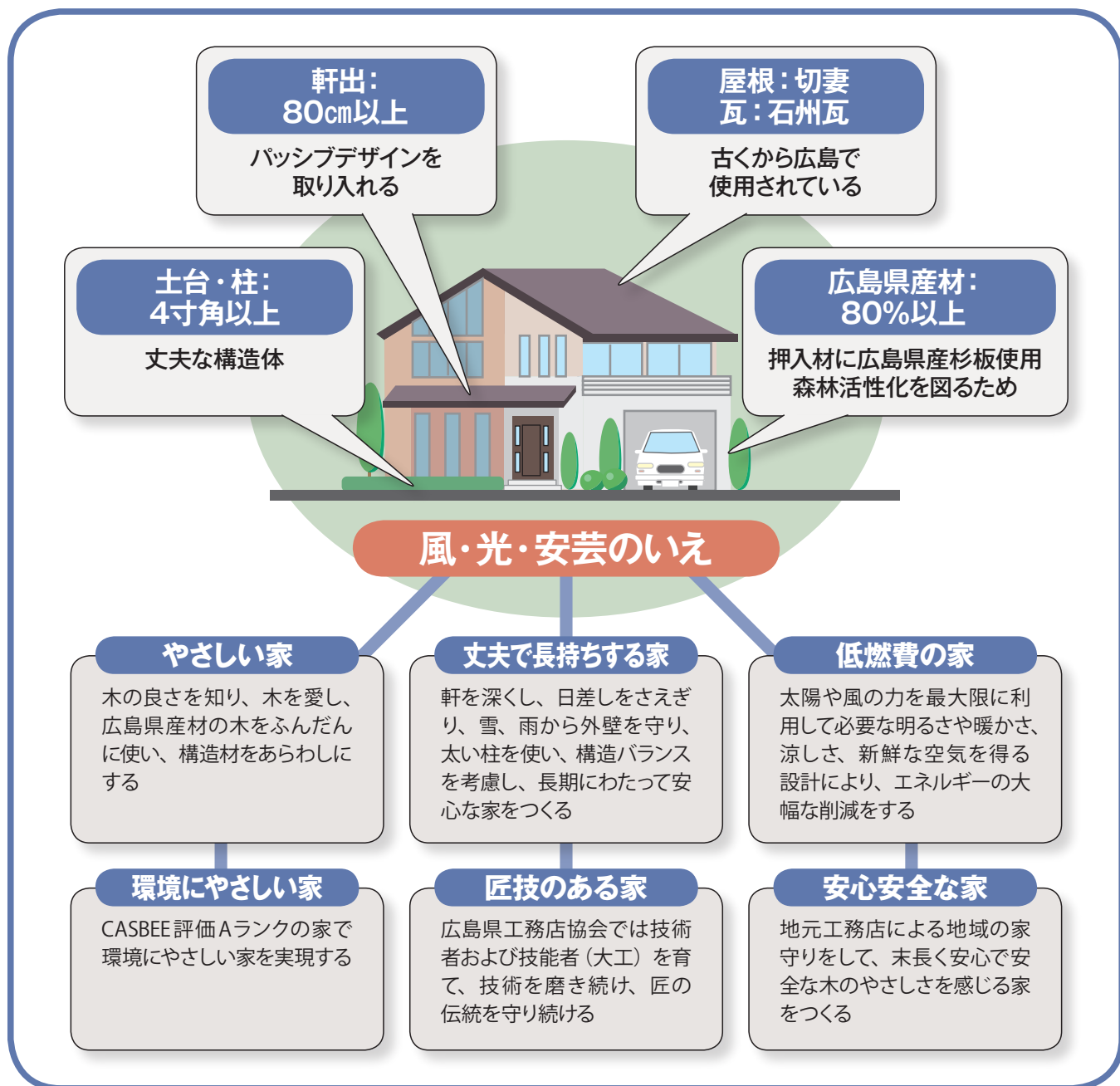
また、これもブランド化事業以前から
の活動だが、協会のホームページをつ
くり、全会員の情報を網羅している。さ
らに、現場見学会も行い、広島地域工
務店はこれだけのものができるというこ

とを一般ユーザーにアピールする努力も
続けてきた。これらのことは、ブランド
化事業でも継続して行われている。

地域木材を使った木造住宅が 将来の発展のカギ

同協会では地域木材を使った木造住
宅こそが、地域の工務店がメーカーと棲
み分けできるものだと確信している。こ
の点にしっかりと取り組むことが、工務
店の将来につながると考えている。ま
た、それには、大工等の担い手育成が
欠かせないとの認識もある。

ブランド化事業をバネに、この課題
に今後も挑戦していくことになる。



NAGASAKI

九州地区

長崎県

●地域協議会名称

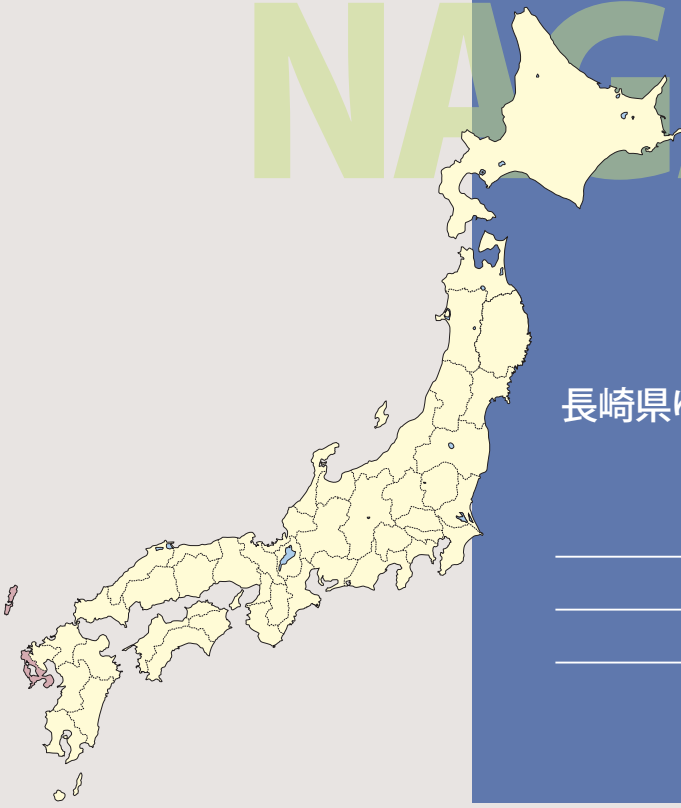
長崎県ゆとりある住まいづくり推進協議会

●協議会事務局

財団法人長崎県住宅・建築総合センター

第1回採択グループ数 6

第2回採択グループ数 5



バスツアーやシンポジウムを開催

ブランド化事業の長崎県での採用グループ数は、九州では福岡に次いで多く11社で、熱心に取り組んでいる。

これに対し、長崎県地域協議会でも、住生活月間に県との共催で行っている県民向けの住宅情報イベント、住宅フェア（長崎、佐世保、大村、島原等で開催）で、ブランド化事業に取り組んでいるグループに対して出展スペースを提供するなど、そのバックアップに努めている。

また、一般ユーザーを対象として、長崎の木を知ってもらうため、「長崎の木 ルーツを探そう」というタイトルで、

森林、原木貯留場、製材所、木造長期優良住宅を見学するバスツアーを催すなどし、地域材や長期優良住宅の啓発活動を進めることで、ブランド化事業を後押ししている。

平成25年2月には、原木貯留場などの現地見学会を盛り込んだ木造住宅省エネルギー普及セミナーを開催。一般ユーザー、長崎県の工務店、設計関係者等69人が参加し、うち20人がブランド化事業のグループのメンバーだった。さらに、平成25年3月には設計者、施工者、一般ユーザー、学生を対象に「木構造建築・木造住宅省エネシンポジウム」を長崎市で開催。63人が参加。設計や木材関係者が多かったが、若い大工も参加して盛況であった。

ブランド化事業が大工職人の育成に

長崎県では、大工職人は高齢化が進み、大工等のなり手も少なくなっている。また、プレハブの仕事等が多くなったため、熟練した人の活躍の場が減少しているのが現状である。

そのような中、熟練大工の活躍の場の提供と後継者の育成にもつながる地域型住宅ブランド化事業は大歓迎と、地域協議会は考えている。もちろん、地域の活性化にもつながるという利点もあり、地域協議会としても、これからは必要に応じて、ブランド化事業の推進に力を注いでいくこととしている。



「木構造建築・木造住宅省エネシンポジウム」



木構造建築・木造住宅省エネシンポジウム チラシ



木造住宅省エネルギー普及セミナー・現地見学会 チラシ

うちんがたん木の家

～水を操り、風と調和する長崎型長期優良住宅～

西九州優良木造住宅を創る会

良質で高耐久な 地域型長期優良住宅の 普及のために

木材流通・プレカットを手がける木材流通事業者が、取り引きのある地域工務店や設計事務所等に声をかけ、地域住宅産業活性化のためのグループづくりに取り組んでいたところ、国の地域型住宅ブランド化事業がスタートした。その内容が、自分たちが目指していたことと一致していたため、この事業に取り組むべく平成24年2月に工務店等53社が参加して「西九州優良木造住宅を創る会」(略称「西住会」)を設立、会の目的を「日本の木、伝統工法により、良い木造住宅をつくるため、地域の気候・風土に合った国産材を利用し、地域の工務店、大工、建築士、製材工場、プレカット工場、

建材流通事業者等が提携して良質で高耐久な地域型長期優良住宅の普及を推進する。また、住宅の長寿命化を推進し、地域住宅産業の品質向上と、その担い手の活性化を促進する」とこととした。

ブランドのポイントは 地域性

共通ルールづくりで特に配慮したのは、気候・風土に適した仕様によることである。地震よりも台風対策が身近な問題である土地柄なので、耐風等級2、防災瓦全数釘打ちなど風に強い住宅とした。

また、濁水になりやすい地域でもあり、水質もよくないので、浄水器設置の必須化など、水の確保やよりおいしい水の供給等も、長期優良住宅の仕様以外の面で特徴的なところである。

これらは「水を操り、風と調和する」というブランド名にも表現されている。

シロアリ対策もこの地域では欠かせず、基礎パッキン等を施すことも必須としている。

ただ、共通ルールはあっても、地域工務店が各々自社の個性ある家づくりを打ち出せるように、たとえば、節水・濁水対策は必須だが、節水設備(節水型トイレ、節水シャワーヘッド等)、雨水タンク等の中から必ず1つ選ぶ、黄砂・火山灰等の地域風土に対応するため、フィルター付き換気システム、太陽光発電システム等の中から1つ選ぶ、維持管理に関しては、「年1回以上土産を持参しお施主様を訪問し、不具合がないか確認し、必要に応じその場で点検する」「築後10年以内は最低5年に1回、定期的にシロアリ点検を行う」等の項目から1つ以上実施する、というように、選択の幅を持たせた。

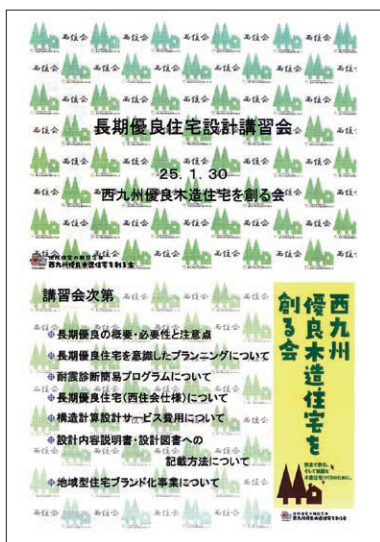
このようなルールは全メンバーに意見を聞き、精査・検討して決めていった。

木材安定供給のための ルートづくり

地域材としては、主として長崎県産材を使うことにしているが、問題となった点は、安定的に県産材を供給することができる製材所が長崎県にないことだった。また、大口径の丸太の生産量が少なく、梁材、桁材の供給がむずかしいという面もあった。そのため、周辺各県に足を運び、徹底的に調べて、ルートづくりをしていった。



西九州優良木造住宅を創る会パンフレット



長期優良住宅設計講習会テキスト



ブランド化事業完成物件

そして、主要構造材および羽柄材の長崎県産材活用率は20%以上、土台および大引の長崎県産材活用率は100%、管柱の長崎県産材活用率は50%以上と決め、他県製材所も活用、佐賀の伊万里木材コンビナートを中心に長崎県産材を取り回すことにし、また、県産材が住宅に至るまでを出荷証明でリレーする体制を整えた。

これまでこの体制で木材の供給は問題なく行われているとのことである。

営業方法を共有化し、説明用パンフレットを作成

同会では、設立時に、グループをより強いものにするためのメンバーへのサポート体制を考え、実施している。

その1つが勉強会で、グループ内の技



iPad講習会

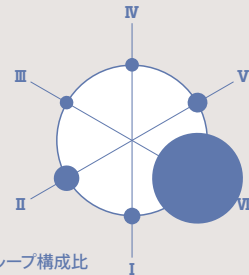
術力向上のため、特に長期優良住宅の経験のないメンバーに対して、基礎知識からの勉強会を行い、また、後継者育成セミナーはすでに4回開催し、シリーズ化している。

営業方法の共有化も大切と考え、受注から引き渡しまでのマニュアルをつくった。ブランド化事業で補助金がでることを最初に訴えるのではなく、「性能が高い家は建築費も高いが、光熱費など日々のコストが安くなり、長持ちするので改修費も抑えられる。その上に快

DATA

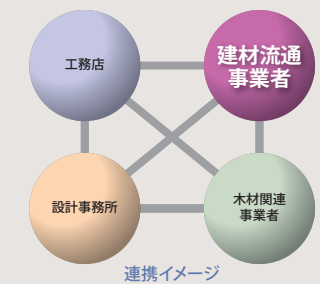
西九州優良木造住宅を創る会

- ・グループ代表者／高瀬嘉博（高瀬建設株式会社）
- ・グループ事務局／株式会社富建
- ・結成／平成24年2月
- ・対象地域／長崎県および佐賀県西部
- ・地域材／長崎県産材を中心とした合法木材（産地・主に長崎県）



グループ構成比

- I: 原木供給 ●II: 製材・集成材製造・合板製造
- III: 建材（木材）流通 ●IV: プレカット加工
- V: 設計 ●VI: 施工



連携イメージ

適な家に住める」ことをまずアピールし、最後に「ブランド化の住宅なら補助金もある」という形で一般ユーザーに説明する形にしてあり、そのための説明用パンフレットもつくった。補助金が伴わなくても、「西住会」が続くようにしているのである。

この営業方法は、後継者育成セミナーなどを通してグループメンバーに浸透させている。



グループ代表
高瀬嘉博氏



グループ事務局
富永秀俊氏



後継者育成セミナー

グループとしてのPRの取り組みでは、一般ユーザー向けに補助金セミナー等を開催し、ブランド化に取り組むグループの工務店を紹介するコーナーを設けている。ほかに、取引のある間屋が展示会を開いた時には、グループとして参加し、ブランド化事業をPRしている。

PR活動は1社ではなかなか取り組めないもので、メンバーにとってグループに参加する大きなメリットとなっている。

このようなことから、新たに参加する工務店が増えている。参加資格は、施工業者は住宅瑕疵保険に入っているということだけである。

ちなみに、セミナーの開催等のメンバーへの情報提供は「西住会」のホームページで行っている。

これからはIT技術を積極的に活用

同会では、今後、メンバーの工務店が共通ルールをベースに独自のモデルプランを策定できるノウハウを開発することが必要で、そのため、各種IT技術を駆使して、モデルプランの提案がローコストで効果的にできるツールをつくらなければならないと考えている。

IT技術の活用という点では、ほかにもiPad講習会等を行っているが、今後は、タブレットやスマートフォンを活用したグループ独自の情報交換ツールを提供できるようにし、スマートフォンで大工が現場を移動しながら発注できるようなツールをつくらうと考えている。



設立総会

また、これから不足が予測される大工や屋根職人の養成事業も課題としている。同時に、大工等をグループ内で登録するとともに、グループ内の資格を設け、「技能の見える化」を図りたいとしている。こうして、グループ内で、大工等の派遣や調整を効率よく行える体制を整えていく方向である。

共通ルール

地域の木材を活用

・木材利用
長崎県産材20%以上使用（構造材及び羽柄材）
構造材：土台は100%長崎県産材の桧、管柱は50%以上長崎県産材を使用、主要構造材は100%ブレカット、合法木材利用

親しみと斬新さの融合

近隣の陶器の活用、EV充電ポート・太陽光発電システム

高い気温に対応

断熱に加え、適切な日射遮蔽措置

風に強い住宅

耐風等級2、防災瓦全数釘打ち等

低コストの住宅

耐震等級は2を推奨、地域の素材は協同購入

節水・耐濁水住宅

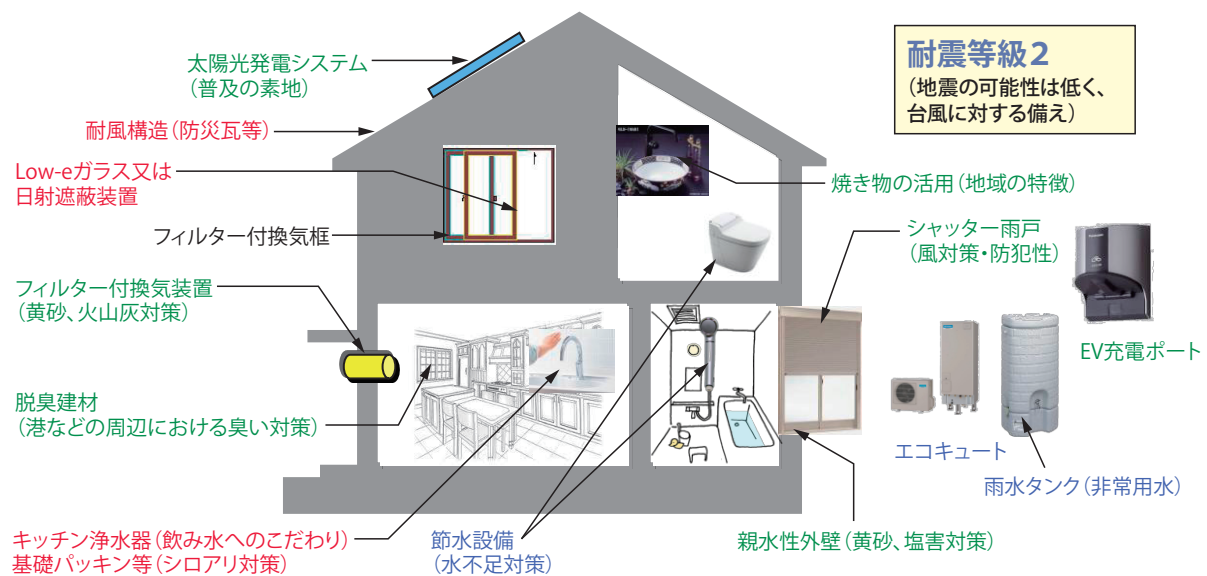
節水設備、エコキュート、雨水タンク等

地域環境に適応

黄砂・火山灰対策→フィルター付き換気シロアリ対策→基礎パッキン、鋼製・樹脂束
騒音対策→セルロースファイバー

飲料水対策

浄水器設置の必須化



●赤字：必須項目の例 ●青字：選択必須項目①の例 ●緑字：選択必須項目②の例

長崎のすて木な家

長崎すて木な家づくりの会

地域材、長期優良住宅の普及促進を目的に結成

地域の工務店は競合関係にあるとはいえ、力を合わせてできることもあるとの思いから、地元工務店3社、設計事務所、建材流通事業者各1社で国産材・地域材（対馬ヒノキ、宮崎耳川杉、大分日田杉）の普及促進、家かるとの実用普及、長期優良住宅の促進を目的に平成22年2月、「長崎すて木な家づくりの会」を設立した。そして、国土交通省の「地域材活用木造住宅振興事業」の採択を受け、1社ではなかなかできない集客やプレゼンテーションも、グループ内で連携すれば費用も少なく済むという考えのもと、地域材を100%活用したモデルハウス展示場「木のこトひろば」を平成22年11月諫早市に建設した。

ブランド化事業には、当初のメンバーが中心となり、事務局を務める建材流

通事業者の取り引き関係のある地域工務店が集って取り組むことになった。メンバーを集める際には、この会のコンセプトをよく理解し、ルール、仕様を守れるかどうかの確認をきちんととった。

土台には対馬ヒノキを

使用する地域材は、長崎県産材を色濃く出したいという考えが基本にあった。ただ長崎は、県産材はそれほど豊かではない。唯一使えるのが対馬ヒノキである。そのため、共通ルールとして、土台には対馬ヒノキを使用することとした（主要構造材の過半および大引、母屋、間柱には合法木材の地域材を、主要構造材以外には間伐材を有効活用した日田杉を使用）。

そして、対馬ヒノキを使った家づくりの30分のドキュメンタリーをつくり、地元のテレビ局の長崎文化放送で二度放送す

るなど、一般ユーザーに対馬ヒノキのすばらしさを訴える努力を重ねてきた。

ちなみに、「長崎のすて木な家」の共通ルールの特徴は、西からの日射量が多く、夏の暑さが厳しいという地域性を考慮し、通風・日射対策として『風配図』を取り入れ、また、高齢者の健康に配慮し、外壁面にセルロースファイバーを使用して優れた断熱・調湿性能を保つようにしている等がある。

成果が上がる「木のこトミュージアム」での啓蒙

同会では、ブランド化事業に取り組む前の平成23年4月に、地域材や長期優良住宅をわかりやすく一般ユーザーに伝える目的で、国産材・地域材の展示施設「木のこトミュージアム」（大村市）につくっている。

「家を建てる時は、この会員さんにぜひ建ててもらいたいと思いました。特に



月例報告

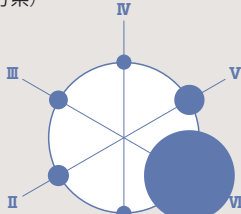


イベントへの出展

DATA

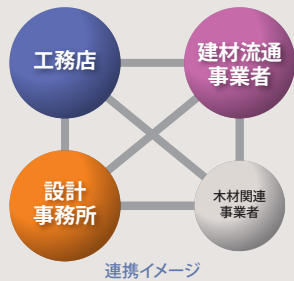
長崎すて木な家づくりの会

- ・グループ代表者/
山田 守 (有限会社四季工房)
- ・グループ事務局/株式会社クロダ
- ・結成/平成22年2月
- ・対象地域/長崎県
- ・地域材/対馬ひのき、耳川杉、日田杉 (産地・長崎県、宮城県、大分県)



グループ構成比

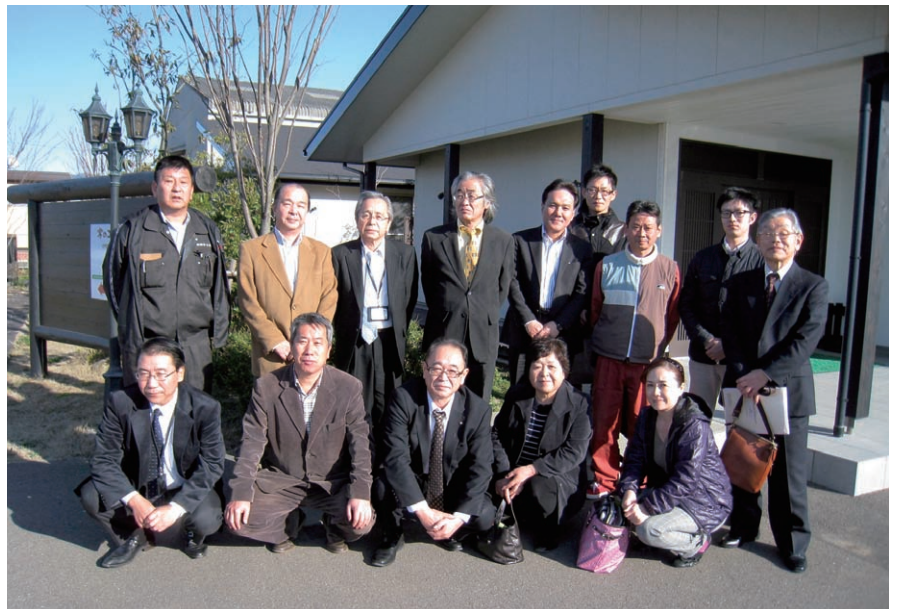
- I: 原木供給 ● II: 製材・集成材製造・合板製造
- III: 建材(木材)流通 ● IV: プレカット加工
- V: 設計 ● VI: 施工



地域材、断熱、防蟻、住宅履歴は気に入りました」

これは、「木のコトミュージアム」に会場した一般ユーザーの声である。「長崎のすて木な家」に対する一般ユーザーの理解度を高めるのに大いに役立っていることがうかがえる。

「木のコトミュージアム」は一般ユーザーだけでなく、工務店などが木を理解する上でも大いに役立っている。ブランド化事業に加わり、このミュージアムで



メンバーの集合写真・木のコトミュージアムにて

勉強することで、木の良さや地域材についていかに勉強していなかったかを認識する工務店もあった。

各工務店が自主的にイベント等を開催

「長崎すて木な家」の特徴をいかに一般ユーザーに訴えるかが、ブランド化事業を進めるうえで大切であるというのがメンバーの共通認識となっている。

というのも、長崎は新築住宅の着工数がそれほど多くない。

その中で地域の工務店が生き残るには見込み客をどれだけ集められるかが

重要な鍵となる。つまり、工務店が一般ユーザーとの出会いの場をいかに多く持つかによって、訴求機会も増えることになる。

それを実現するために、メンバーは「木のコトひろば」や「木のコトミュージアム」を積極的に活用している。

たとえば、「木のコトミュージアム」では、資金セミナーやプレカット工場見学会を実施するなど、それぞれの工務店が熱心に一般ユーザーと接点を持つ努力をしていて、平成24年度では合計109回のイベントを開き、1911人を動員。参加した一般ユーザーの中からは、「地域の工務店でもこういうすばらしい家ができるのか」というような声もあり、長期優良住宅、「長崎のすて木な家」に対する理解度が高まってきている。

このほかにも、ある工務店は合同イベントに参加し、見込み客を「木のコトミュージアム」に案内して、長期優良住宅と自社の建築仕様について説明。その結果、「長期優良住宅が一般仕様住宅と比べ何が良いのかわかった」、「これだけ自然素材が使われている住宅は、気持ちがいい」というような感想を得ている。

大手メーカーと同じ土俵に

このような努力の結果、ブランド化事業を含めた同会の平成24年度の年間契約棟数は180棟、そのうち120棟が地域



メンバーの四季工房主催のイベント1



メンバーの四季工房主催のイベント2

材を活用するという実績を残した。一般ユーザーとの出会いの機会を増やし、着実に成果を上げているといえる。この時、ブランド化事業についても説明するのだが、まずは、長期優良住宅の性能の高さを説明することから始め、さらに補助金の金額でそれ以上の付加価値がある家ができることを一般ユーザーに対して伝え、理解してもらっている。

グループとして各メンバーへのバックアップも怠っていない。

たとえば、長期優良住宅の実績が前年度はゼロだった工務店が、グループから、あるいは先輩工務店からアドバイスを受けるなどして2棟あるいは4棟を

手がけるというケースも出てきた。また、情報の共有の点では「月例報告」をつくり、各メンバーの取り組みなどの情報がメンバーに伝えられている。

以上のような形でブランド化事業に参加することによって、「大手メーカーと同じ土俵にあがれる、あるいはそれ以上」と感じる工務店も出てきているという。

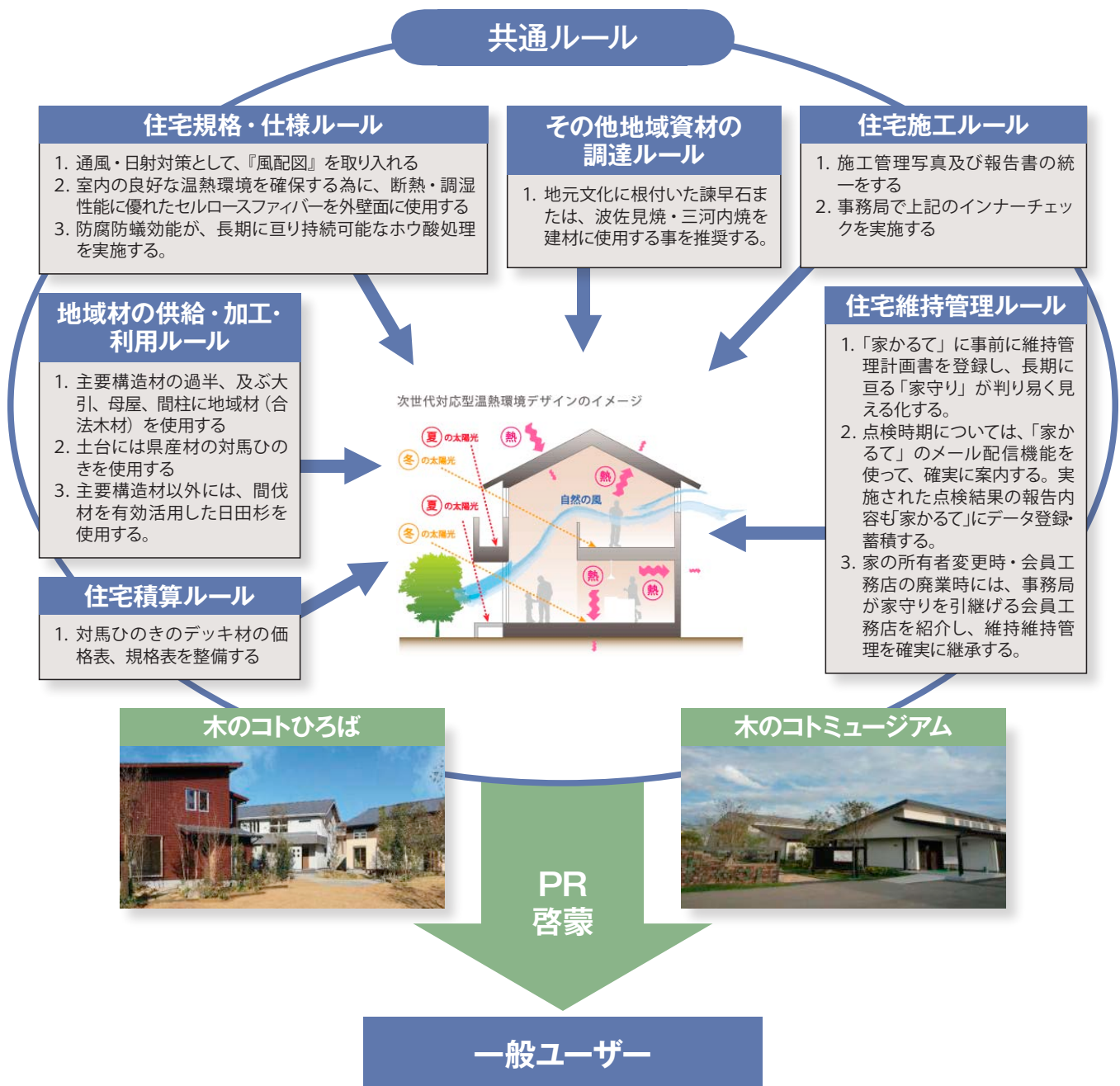
これからは 健康・省エネの家を提案

今後の展開として注目なのが「木のコトひろば」、「木のコトミュージアム」に続く情報発信拠点、「木のコトインテリ

ア館」である。

これは、「地域材を活用した健康・省エネの家づくり」をコンセプトにしたもので、諫早市に平成25年3月、プレオープン。最終的には秋に完成する予定で、地域材を使った健康のための家、省エネのための家の提案を、新築、リフォーム両面で行っていかうというものである。

また、これからは、大工等の職人の確保・育成のバックアップ、地域の地所に強くなるための地元不動産業者との連携等を考えていて、今後グループとしてこれらに取り組んでいく予定である。



地域型住宅ブランド化事業（平成24年度） 採択グループ一覧

地域型住宅ブランド化事業・平成24年度第1回採択グループ

No	グループ名称	グループ所在地（事務局）	グループ代表者氏名（所属）	グループ事務局担当者氏名（所属）	地域型住宅の名称
1	フロンティアspirits北海道	北海道札幌市中央区北6条西11丁目28番	石山 実（株式会社石山工務店）	受川 竜也（株式会社クリオス）	N50°
2	北の森の民の志	北海道札幌市西区八軒8条東1丁目2番10号	石崎 昭仁（株式会社石崎組）	山口 雄大（株式会社やまもく）	トドラツoo
3	『木育』でつなげる北海道木造住宅の会	北海道石狩市花畔3条1丁目257番地	福島 敬（北スタイル株式会社）	福島 敬（北スタイル株式会社）	『木育』でつなげる北海道木造住宅
4	十勝2x4協会	北海道帯広市西16条南4-7-15	赤坂 正（株式会社赤坂建設）	小原 和弘（有限会社オハラ建商）	「信頼・安心の絆34年」とかち2x4エコ住宅
5	住宅環境推進協議会北海道	北海道札幌市白石区中央2条7丁目1番1号	橋本 和幸（株式会社橋本建設）	中川 昌昭（株式会社クワザフ）	北海道のトド松・カラ松住宅「森緑の家」
6	地域に根ざした北海道の工務店ネットワークアース21	北海道北広島市西の里東2丁目3-6	菊澤 里志（株式会社キクザフ）	橋本 政仁（有限会社住まいの相談室はしもと）	SaveEnergy&LongLife アース21の家
7	北海道長期優良住宅普及促進研究会	北海道函館市柏木町14番20号	佐藤 真一（有限会社不動産企画ウィル）	松原 義寛（有限会社不動産企画ウィル）	道産木材活用住宅キューブプラスエコ
8	道産材で造る家の会	北海道石狩市花川東2条1丁目1番地	三津橋 央（三津橋産業株式会社）	定久 健（三津橋産業株式会社 札幌支店）	道産材活用住宅
9	北海道ファース会	北海道北斗市中野通324番地	檜山 良秀（桧山建設総業株式会社）	村上 一人（株式会社福地建築）	大地と住み継ぐ家
10	特定非営利活動法人 北の民家の会	北海道札幌市南区澄川15条3丁目7-5	羽深 久夫（札幌市立大学）	上島 信彦（キタチカラ木材店）	北の民家モデル
11	地域工務店グループ e-housing函館	北海道函館市花園町8-8	渋谷 旭（渋谷建設株式会社）	新保 喜八郎（有限会社しんぼ建築設計室）	北海道の防災型長期優良住宅の拠点づくり
12	とかちの木で家をつくる会	北海道帯広市西16条南4-7-15	瀬上 晃彦（オムニス林産協同組合）	小原 和弘（有限会社オハラ建商）	とかちの木の家
13	北海道ブランドの優良住宅を考える会	北海道札幌市西区二十四軒3条7丁目2-19	栃木 渡（株式会社北工房）	梅木 大地（株式会社ニヘイ）	北海道ブランド優良住宅
14	北方型住宅ECO推進協議会	北海道札幌市白石区南郷通6丁目北5-15	川村 隆（株式会社カワムラ）	野島 宏利（株式会社北海道住宅通信社）	北方型木造長期優良住宅
15	北海道ネオマリーダーズクラブ	北海道札幌市中央区北2条西1丁目1	渡邊 正美（株式会社太平ホーム北海道）	新家谷 幹彦（旭化成建材株式会社）	北海道外断熱長期優良住宅
16	想家の会	青森県青森市緑2-16-21	小林 学（株式会社Fractal設計事務所）	小林 学（株式会社Fractal設計事務所）	「SOYA」
17	青森県南部地域型住宅を考える会	青森県八戸市大字売市小待128-9	中野 武美（株式会社 タクナカホーム）	越膳 喜好（株式会社 家工房）	青森県南部地域型住宅『地震と寒さに強い家』
18	住宅を考える工務店の会	青森県十和田市元町東3丁目6-1	平野 治彦（平野商事株式会社）	平野 公彦（平野商事株式会社）	青森県産材合板で作る雪と寒さに強い青森型長期優良住宅
19	津軽工務店会 地域資源循環型住宅供給グループ	青森県平川市日沼田19-7	石田 幹男（有限会社石田建設）	三浦 和人（株式会社吉田産業 弘前支店）	津軽 山の恵みの家
20	青森県優良住宅協会	青森県弘前市神田二丁目3-12	日野 高一（日野建ホーム株式会社）	石郷岡 義了（株式会社石郷岡）	青森型優良住宅「未来tunag家」
21	雪国地域型住宅研究会	青森県青森市石江字江渡37番地	齊藤 渉（青森県木材協同組合）	石岡 嘉隆（株式会社赤石材木店）	津軽材活用住宅「雪国の家」
22	有限責任事業組合『元気の出るe住まい』	青森県平川市新館藤山16番地1	今井 公文（株式会社今井産業）	今井 公文（株式会社今井産業）	『e住まいんぐ』青森型長期優良住宅システム
23	地場工務店 二代目が集結【しんけん会】	青森県三沢市大字三沢字堀口94-1339	平内 健一（有限会社平内建築）	浄法寺 将之（株式会社下久保建材店）	十和田湖杉活用住宅「Waのいえ」
24	わが街大工の住まいるネットワーク	岩手県一関市千蔵町千蔵字摩王12-1	伊藤 清一（伊藤建築）	永沢 建一（永沢木材株式会社）	「イーハートブ 森の恵み3ツ里ハウス」
25	北東北長期優良推進グループ	岩手県紫波郡紫波町日詰西二丁目5番地16	穂貴 正芳（有限会社システムテック）	佐々木 清司（有限会社大清建設）	代々長持ち住宅
26	東照グループ	岩手県盛岡市津志田町二丁目9番13号	長瀬 史生（東照建設株式会社）	金城 秀一（東照グループ）	岩手産住宅
27	盛岡寒地住宅研究会	岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4丁目1番6号	久保田 浩（有限会社 久保田工務店）	本村 英勝（株式会社ヤマイチ盛岡営業所）	かんちのいえ
28	北三陸 家づくり協議会	岩手県久慈市長内町21-50-1	和山 彰志（株式会社サンホームズ）	中公 一雄（株式会社ヤマイチ）	北三陸 四季香る家
29	胆江地域型住宅づくり研究会	岩手県奥州市胆沢区若柳字甘草203番地	小野寺 正英（有限会社 工務店おのてら）	阿部 貴志江（有限会社工務店おのてら）	紺碧の家
30	倅棲の会	岩手県岩手郡滝沢町滝沢字根堀地559-5	田村 武（有限会社ホクプランニング）	島守 千恵美（有限会社山井建設）	倅棲の家
31	東北優良住宅研究会 岩手支部	岩手県北上市北鬼柳33-70	千葉 龍二郎（千葉建設株式会社）	高橋 一博（株式会社北洲）	いわて 自然とふれあい、家族の絆を育む家
32	北の木の家づくり・東北グループ	岩手県遠野市青笹町中沢8-1-11	立花 功（株式会社リンデンバウム遠野）	佐藤 良治（株式会社リンデンバウム遠野）	北の木の家づくり
33	岩手住環境技術研究会	岩手県盛岡市津志田西1-17-33	立花 清久（株式会社タックホーム）	立花 清久（株式会社タックホーム）	いわて住環境エコハウス
34	南東北地域型住宅ネットワーク	宮城県仙台市泉区加茂1丁目28-2	浅野 佳幸（株式会社ベンチャーデザイン）	小林 雅博（株式会社ベンチャーデザイン）	南東北 Re-Born の家
35	近くの木と職人でつくる家づくり	宮城県宮城県利府町加瀬字南浦4	伊藤 博範（有限会社 伊藤工設計）	伊藤 美和子（有限会社伊藤工設計）	みやぎ材・あきた材でつくる自然素材・省エネの家
36	北国のいい暮らしを創る会	宮城県大崎市古川休塚字新西田38-1	高橋 勝行（株式会社ハウスサポート宮城）	橋本 一也（株式会社タカカツ）	3.11大震災から学んだ非常時に備えた「家」
37	東北優良住宅研究会 宮城支部	宮城県仙台市宮城野区扇町5-3-20	大竹 雅之（株式会社都市リサーチ設計）	大向 寿雄（株式会社北洲）	みやぎ 自然とふれあい、家族の絆を育む家
38	南三陸復興住宅建設促進協議会	宮城県本吉郡南三陸町志津川沙見町38	山本 富士男（有限会社山本セメント一級建築士事務所）	山本 富士男（有限会社山本セメント一級建築士事務所）	南三陸の家「かたらい」

No	グループ名称	グループ所在地（事務局）	グループ代表者氏名（所属）	グループ事務局担当者氏名（所属）	地域型住宅の名称
39	森守の会	宮城県柴田郡柴田町船岡中央1丁目9-12	大沼 毅彦（株式会社サカモト）	加藤 博文（株式会社サカモト）	森守の家
40	つくっぺおらほの復興家づくりの会	宮城県仙台市青葉区八幡一丁目10-14 SAU04	佐々木 淳（佐々木建築）	佐々木 文彦（有限会社ササキ設計）	地域のめくみで創る宮城のすまいづくり「白高見の家」
41	新しい東北の暮らしを考える会	宮城県仙台市若林区卸町3-6-3	白岩 優一（株式会社白岩工務店）	中井 宏次（パナソニック リビング北海道・東北株式会社）	災害に強い健康エコ住宅
42	宮城県 未来へ繋げる地域住宅生産者グループ	宮城県黒川郡大和町落合松坂字直南沢39-23	高橋 一夫（大東住宅株式会社）	堀籠 善宏（黒川森林組合）	快適省エネ住宅
43	東関東地域型住宅協議会	宮城県仙台市青葉区上杉2-1-14	新本 恭雄（セルコホーム株式会社）	佐藤 正文（セルコホーム株式会社）	自然災害に強いツワバイシックスの家
44	みやぎ版ゼロエネ住宅推進ネットワーク	宮城県仙台市青葉区栗生5丁目22番2号	蜂谷 武夫（株式会社橋総合住宅）	原田 真由美（株式会社橋総合住宅）	みやぎ版ゼロエネ推進住宅
45	宮城の伊達な杉の家を創る会	宮城県石巻市雲雀野町1-7-1	高橋 貞夫（株式会社山大）	石川 寛猛（宮城の伊達な杉の家を創る会）	宮城の伊達な杉の家
46	「山からの家造り」を進める会	宮城県仙台市宮城野区福室字明神西29-3	須森 喜美子（フォースワンホールディングス株式会社）	山本 達夫（フォースワンホールディングス株式会社）	強く・暖かい家
47	社のみやこの木の家グループ	宮城県宮城県利府町沢乙字高島前54-3	飯島 靖（株式会社バウムハウス）	石井 満（株式会社バウムハウス）	超低温乾燥の社のみやこ杉＝杉
48	「みやぎ版住宅」タウンプロジェクト	宮城県仙台市宮城野区若竹2-7-5	木村 良男（株式会社ホーム建材店）	宗田 雄二（株式会社ホーム建材店）	「みやぎ版住宅」
49	秋田こだわり木の家協議会	秋田県秋田市寺内字蛭根85-38	千葉 恒昭（株式会社寺沢工務店）	池田 清（株式会社角繁）	秋田こだわり住宅
50	秋田地産地消の家づくり部会（山工会）	秋田県秋田市御所野湯本三丁目1-5	佐々木 峰生（株式会社佐々木建材店）	高橋 範夫（山二建設資材株式会社）	秋田地産地消の家
51	秋田杉匠の会	秋田県秋田市高陽青柳町1-43	小坂 忠美（有限会社小坂工務店）	根 知宏（秋田県建設技能組合連合会）	秋田スギの香る家
52	『よこての森を育む家』普及推進協議会	秋田県横手市大沢字西野25	下村 正樹（三又建設株式会社）	高荒 宏一（三又建設株式会社）	県産材100%住宅『よこての森を育む家』
53	いではの森林・家づくりの会	山形県酒田市北浜町4-7	五十嵐 信之（有限会社桂建設）	橋 裕之（立花産業株式会社）	いではの森林の家
54	さかた「すぎの子」会	山形県酒田市みずほ1丁目21-11	大井勝善（株式会社大井工務店）	大井 美紀（株式会社大井工務店）	酒田森林環境循環型住宅
55	置賜住まいのネットワーク	山形県南陽市二色根472-4	鈴木 國昭（株式会社米住建設）	沖田 洋元（株式会社沖田木材産業）	やまがたあんしんの家
56	やまがたの木づかい優良住宅をつくる会	山形県寒河江市中央工業団地155-6	黒田 修市（有限会社グッドライフ黒田工務所）	松田 卓也（株式会社スペースパーツ山形）	やまがたの木づかい優良住宅「木結（きづな）の家」
57	金山杉住宅をつくる会	山形県最上郡金山町大字山崎34-5	阿部 利広（阿部建築研究室）	杉井 範之（金山町森林組合）	金山杉住宅
58	山形みちのく奥州杉の家を創る会	山形県寒河江市大字日田字五反150-3	黒田 祐史（株式会社ボス子）	古澤 徹（株式会社東洋洋建）	山形みちのく奥州杉の家
59	山形県木骨住宅推進協議会	山形県山形市松栄1-5-13	木村 一義（株式会社シェルター）	亀井 英朗（株式会社シェルター）	山形県産材活用による耐震木骨住宅
60	山形県優良住宅協会	山形県山形市平清水1丁目1番75号	加藤 信芝（株式会社加藤住建）	伊藤 健（山形パナソニック株式会社）	新山形優良住宅
61	いわき家ナビ	福島県いわき市常磐下船尾町古内133	大平 宏之（株式会社正木屋材木店）	大平 祐子（株式会社正木屋材木店）	いわき家ナビ優良住宅
62	魔法の積み木 愛好会	福島県本宮市稲沢字入高野63-5	大内 正年（郡山チップ工業株式会社）	増田 勝敏（郡山チップ工業株式会社本宮工場）	復興支援！丈夫で早い「2x4パネル工法の家」
63	みんなで「ふくしまの家」つくる会	福島県郡山市喜久田町卸1-78-1	山田 俊嗣（株式会社 はしもと住宅店）	西野 善弘（トーモク株式会社）	みんなでつくる「木の家」
64	安達太良匠の会	福島県二本松市針道字西ノ内139-1	齋藤 守司（有限会社斉藤工務店）	斉藤 守平（有限会社斉藤工務店）	家族と地域の再生を支える家
65	元気なふくしま県「希望の家づくりの会」	福島県郡山市喜久田町卸1-78-1	遠藤 良美（株式会社ウツディホーム）	吉田 勝幸（トーモク株式会社郡山支店）	元気なふくしま県「希望の家」
66	ふくしま家づくりネットワーク	福島県福島市宮代字一本松91	川崎 直竹（有限会社川崎建築設計事務所）	菊地 進（有限会社菊地設計）	ふくしまの家「きなり」
67	会津家づくりの会	福島県会津若松市白虎町7-1	伊藤 博道（計画建設株式会社）	吉川 忠秀（吉川建材産業株式会社）	会津快適エコハウス
68	ふくしま再生提案実行集団「くらし塾」	福島県東白川郡棚倉町大字上台字行人塚51番	藤田 光夫（藤田建設工業株式会社）	高橋 幸吉（藤田建設工業株式会社）	9R3Dグリッドの家
69	遠野産業振興事業協同組合	福島県いわき市遠野町上遠野字川張26-1	平子 佳廣（遠野産業振興事業協同組合）	鈴木 浩二（遠野産業振興事業協同組合）	いわき遠野スタイル 新月*
70	福島県ブランド住宅協議会	福島県いわき市鹿島町下矢田字榎木内5-1	和田 正光	原 隆之（株式会社エコ・ビレッジ）	ふくしま再生200年の家
71	「よすが」を創る会	福島県郡山市台新1-32-2 ロイヤル台新110	木沢 善善（株式会社セキショウ建設）	阿久津 則行（有限会社メディアサポート）	ふくしま魁の家
72	ふくしま家づくり研究会	福島県郡山市日和町字原12-1	小松 吉昭（福島県郡山地区木材製材協同組合）	坂井 博高（光和建材株式会社）	ぬくもりの家
73	ふくしまの住まいを創造するネットワークSIMOKU（しもく）	福島県郡山市並木1-1-11	宗像 剛（八光建設株式会社）	澤崎 幸史（八光建設株式会社）	ふくしまの住まい「SIMOKU（しもく）」
74	チーム「人・住まいに思いやり」	福島県郡山市並木五丁目5番地38	石川 勝久（王子建設株式会社）	村中 智広（王子建設株式会社）	「王子の家」
75	南相馬市小高建設業建築協会	福島県南相馬市原町区西町3-453-2	小林 貴幸（幸建築設計事務所）	玉川 敬（有限会社玉川建築工業所）	絆プロジェクト「南相馬の家」
76	福島ジョイ・コス倶楽部	福島県田村郡三春町字谷ヶ谷21番地	森 春雄（有限会社森工務店）	田中 聖輝（有限会社田中建築企画室）	木が香る100年長持ち住宅
77	あぶくま地方の家研究グループ	福島県郡山市富久山町福原字東内打5-1	増子 則雄（株式会社増子建築工業）	増子 則満（株式会社増子建築工業）	ふくしまの人と材で創る「知恵と技の家」
78	ID会	福島県いわき市小名浜字隼人102-6	鈴木 正一（有限会社鈴木勝建設）	志賀 なおみ（有限会社鈴木勝建設）	匠のすまい いわき
79	「子どもたちの未来を築く会」	福島県福島市御山中川原84-1	早川 英二（田村森林組合）	相良 元章（株式会社アポロガスほっとリビング）	「ずっと一緒に暮らせる家」
80	社団法人 福島県建築士会 福島支部	福島県福島市五老内町2-10 アスカビル1F	阿部 良樹（西信建築設計事務所）	和田 聡史（社団法人福島県建築士会福島支部）	“うつくしま”ふくしまの家
81	ふくしま森の遊学舎	福島県郡山市台新2丁目31-10	樽川 美知男（樽川技建株式会社）	山田 祥司（樽川技建株式会社）	ふくしま スケルトン&インフィルの家
82	きつつき会	福島県郡山市富田町字諏訪西50	柳沼 利保（有限会社柳沼工匠）	坪井 道子（株式会社ツボイ）	～本当の空～幸福の家
83	地球と家族を考える会	福島県郡山市開成4-28-17	嶋影 健一（合同会社地球と家族を考える会）	羽生 拓希（合同会社地球と家族を考える会）	ふくしまの家KUMIKO

No	グループ名称	グループ所在地(事務局)	グループ代表者氏名(所属)	グループ事務局担当者氏名(所属)	地域型住宅の名称
84	福島・宮城・岩手家づくり連合会	福島県南会津郡南会津町田島後原甲3468	桑名 誠(株式会社会津デザイン工房)	桑名 誠(株式会社会津デザイン工房)	素材選びからはじまるいえ
85	福島復興再生住宅協会	福島県南会津郡南会津町針生字小坂38-1	芳賀沼 養一(株式会社芳賀沼製作)	清田 崇志(株式会社はりゅうウッズスタジオ)	福島復興再生の家
86	三春町住宅研究会	福島県田村郡三春町八島台七丁目5番13	渡邊 正二(有限会社ワタシヨウ)	佐久間 保一(結建築研究室)	春陽のいえ
87	茨城県中小建築工事業協会	茨城県水戸市千波町1825-5	鈴木 政保(茨城県中小建築工事業協会)	米永 一義(茨城県中小建築工事業協会)	「いばらき木の家」
88	八溝材で造る住宅研究会	茨城県常陸大宮市の郷2153-34	石川 忠幸(株式会社棟匠)	石川 栄一(株式会社林産)	地域材で造る「八溝の家」
89	いばらきnodo住宅ラボ	茨城県龍ヶ崎市栄町4356	石塚 信広(有限会社石塚工務店)	磯貝 努(株式会社竹屋)	いばらきnodo住宅
90	茨城・森から家Net	茨城県水戸市渋井町50番	小松崎 一成(有限会社小松崎林業)	佐藤 耕一(株式会社茨城木材相互市場)	常陸・結の家
91	へ八溝山からつくる住み良い環境づくり～「もっくりんecoの会」	茨城県常陸大宮市の郷2153-32	石川 徹也(もっくりん協同組合)	菊池 桂子(もっくりん協同組合)	もっくりんの家
92	東関東 長期優良住宅にとりくむ会	茨城県牛久市文化町707-1	飯田 高(株式会社Beハウス・リモデル)	吉田 忠教(アクトー級建築士事務所)	住みこころのいい家
93	特定非営利活動法人森と家をつなぐ会	栃木県那須郡那須町大字伊王野723番地	益子 重具(特定非営利活動法人 森と家をつなぐ会)	益子 朗子(特定非営利活動法人 森と家をつなぐ会)	とちぎ やみぞ材の家
94	真壁の家づくりネットワーク(真壁ネット)	栃木県足利市島田町136	丸山 純夫(株式会社ユー建築工房)	丸山 裕平(株式会社ユー建築工房)	真壁の家
95	やまの子・とち木の家協会	栃木県宇都宮市江曾島4-225-7	堀 清彦(株式会社ネクステージ)	木曾 伸枝(栃木県中小建築工事業協会)	やまの子・とち木の家
96	NPO法人 栃木エコロジー設計協会	栃木県宇都宮市双葉1丁目11-25	青木 格次(株式会社環境設計)	青木 格次(株式会社環境設計)	【お日さまと木でつくる栃木の家】
97	那須野が原 環境住まい創造会	栃木県那須塩原市上厚崎435-6	鈴木 誠(田村建設株式会社)	鈴木 誠(田村建設株式会社)	那須野が原の自然と共に 次世代に継承する家
98	SIP下野いい家プロジェクト協議会	栃木県宇都宮市福岡町1293番地6	山口 武夫(栃木県木材業協同組合連合会)	仲田 昭夫(宇都宮製材業協同組合)	下野いい家
99	利根沼田若手職人の会	群馬県利根郡川場村大字谷地1950番地	真下 美貴夫(有限会社真下工務店)	齋 陵司(株式会社関工務所)	ウッドソムリエの家
100	群馬すてきな家づくりの会	群馬県前橋市天川大島町1248	瀧澤 和也(株式会社瀧澤興業)	伊藤 晃一(平方木材株式会社)	ぐんまの家「優馬」
101	NPO法人 群馬地域活性化センター	群馬県高崎市福島町774-12	須永 恵行(恵栄建設株式会社)	野尻 稔(野尻建築設計事務所)	上州「本当の家」づくり
102	上州 蕨の家 推進グループ	群馬県高崎市貝沢町2430-1 終マシヨン102	星野 恒雄(株式会社ドリーム・ウッドハウス)	石井 正人(石井正人建築設計事務所)	上州 蕨の家
103	高原寒冷地住宅研究会	群馬県吾妻郡長野原町大字北軽井沢1988-1049	丸山 博文(丸栄建設株式会社)	倉田 由紀子(丸栄建設株式会社 北軽井沢支店)	高原寒冷地の家
104	関東平野型住宅推進協議会	群馬県前橋市富士見町時沢3207	柴崎 実(伊田テクノス株式会社)	市川 慎二(有限会社ヤマイチ技建)	五感を育む杉の家
105	木住協「つながる家」実行委員会	群馬県前橋市紅雲町1-7-12	徳江 司郎(有限会社建徳)	工藤 智子(社団法人群馬県木造住宅産業協会)	ぐんま木住協の家「つながる家」
106	群馬エコロジー住宅研究会	群馬県渋川市金井443-3	藤川 匠(藤川建設株式会社)	福島 丘泰(株式会社福島商店)	利根川流域の木を使ったエコ住宅
107	ぐんま長寿命住宅協同組合	群馬県高崎市緑町4丁目5-14202	町田 護(ぐんま長寿命住宅協同組合)	都木 謙二(キャピタルウッズ株式会社)	北関東200年住宅「三州の家」
108	武蔵住宅研究会	埼玉県熊谷市芦刈場358-5	吉澤 文男(株式会社吉澤建設工業)	吉田 宏之(柏屋商事株式会社)	MUSASHI-1 BasicStyle/木の素材を活かした家
109	埼玉環境共生住宅推進協議会	埼玉県熊谷市石原804-5	大島 健次(大島設計・計画室)	松本 泰典(株式会社松本材木店)	風家(ふうが)
110	やすらぎの家協議会	埼玉県さいたま市北区本郷町1776番地	小玉 和彦(株式会社コダマホーム)	星野 晃一郎(星野木材株式会社)	彩の国・やすらぎの家
111	関東で快適な住まいと環境を考える会	埼玉県熊谷市末広2-118	石井 正夫(株式会社 石井工務所)	石原 秀裕(大和屋株式会社)	北関東パッシブデザインの家
112	「武蔵の家」促進委員会	埼玉県本庄市児玉町高柳260	糸井 剛夫(キダテ設計事務所)	糸井 剛夫(「武蔵の家」促進委員会)	「武蔵の家」
113	彩の木の家ネットワーク	埼玉県所沢市東町111-1704	井上 淳治(NPO法人西川・森の市場)	鈴木 進(特定非営利活動法人木の森だすき会)	森とまををつなぐ 彩の木の家
114	さいたま家づくりネットワーク	埼玉県さいたま市大宮区堀の内町1-697	千代岡 英一(株式会社榊住建)	星野 敏之(株式会社榊徳)	彩の国あんしん住宅
115	全木協埼玉県協会	埼玉県行田市持田3-4-3	大野 年司(大野建設株式会社)	吉田 英雄(全木協埼玉県協会)	匠が創る埼玉・木の家
116	林産地と都市の循環型社会を目指す紀州材の家づくりネットワーク	埼玉県八潮市鶴ヶ曾根864-1	榎本 長治(株式会社山長商店)	遠藤 真一(モック株式会社)	長期優良首都圏住宅:きのくに家(や)
117	さいたま西川材普及協議会	埼玉県熊谷市芦刈場708-1	風間 健(株式会社高砂建設)	梨木 弘隆(協同組合フォレスト西川)	西川材 『彩の国の家』
118	NPO 環境住宅	埼玉県さいたま市浦和区岸町4-25-15 小松ビル304号	佐藤 善之(株式会社藤島建設)	鈴木 彰夫(株式会社宮下設計事務所)	住まい手と創り手の共創住宅
119	木の香る住まい・多摩グループ	埼玉県新座市あたご3-1-17	宮崎 昭人(株式会社匠技建)	松川 寿子(株式会社内田工務店)	木の香る住まい・多摩の家
120	埼玉の未来を創るグループ	埼玉県北足立郡伊奈町羽貫1024-1	澤田 光宏(株式会社栄工業)	矢嶋 秀彦(株式会社栄工業)	「歴史・文化・自然」が未来を創る家
121	アイデア住宅研究会	埼玉県八潮市緑町5-29-32	益田 修一(株式会社益田建設)	鈴木 強(株式会社益田建設)	アイデアホーム「ゆとりの家shiki」
122	千葉県中小建築工事業協会	千葉県流山市駒木486-20	木村 芳廣(千葉県中小建築工事業協会)	米永 一義(千葉県中小建築工事業協会)	「ちば木の家」
123	特定非営利活動法人 ちば山	千葉県千葉市緑区誉田町2-29	柏原 博文(特定非営利活動法人ちば山)	中村 真也(松村工務店)	千葉千消杉の杉 ちば山の家
124	大地を守る会の自然住宅・安心家づくりの会	千葉県千葉市美浜区中瀬1-3 幕張テクノガーデンD棟21階	深沢 良仁(株式会社深建工房)	阿部 一(株式会社大地を守る会)	大地を守る会の自然住宅
125	千葉のすざぐりの木の家グループ	千葉県旭市三川12156-1	林 和義(株式会社ハヤシ工務店)	林 和義(株式会社ハヤシ工務店)	千葉のすざぐりの木の家(震災復興支援住宅)
126	夢を育むすて木な住まいをつくる会	千葉県習志野市東習志野6-16-31	小田 俊丸(株式会社オダ建設)	宇佐美 智規(秋山木材産業株式会社)	夢を育むすて木な住まい
127	むさし野木の家ネットワーク	東京都立川市富士見町4-23-1	佐々木 勲(有限会社 佐々木住建)	瀧島 忠典(むさし野木の家ネットワーク)	武蔵野ゆかりの家(2タイプ)
128	国木会 地域型住宅ブランド化分科会	東京都世田谷区瀬田2丁目26番地7号	伊佐 裕(伊佐ホームズ株式会社)	米屋 方貴(伊佐ホームズ株式会社)	あたらしい家「校倉」

No	グループ名称	グループ所在地（事務局）	グループ代表者氏名（所属）	グループ事務局担当者氏名（所属）	地域型住宅の名称
129	木の家プレミアムパートナー会	東京都港区赤坂4-8-14	近藤 吉典（近藤建設工業株式会社）	中川 勝人（株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所）	地域工務店が担うSOWEdesign住宅
130	「水と緑の循環型住宅」を考える会	東京都東大和市中央1-1-5	宮下 真一（みず建設株式会社）	沖野 謙（株式会社タカキ）	武蔵野の家
131	協同組合 匠の会 地域型住宅供給協議会	東京都中央区築地6-4-5 シティスクエア築地404号	尾身 嘉一（大米工業株式会社）	伊藤 雅行（協同組合匠の会）	樹の家 100年住宅
132	フォレストワークいえづくりの会	東京都渋谷区上原3-6-6 オークハウス3階	田中 重久（株式会社デクトホールディング）	永田 晴之（株式会社千金堂）	復興支援「田村杉の家」
133	ランタサルミログハウス販売店ネットワーク	東京都千代田区神田神保町1-22 北信ビル2階	上田 淳（一級建築士事務所株式会社ゲストハウス）	上田 淳（一級建築士事務所株式会社ゲストハウス）	地域材を利用した北欧デザイン住宅
134	NSJ供給トータルシステム	東京都荒川区東日暮里5-52-10 東栄産業日暮里駅前第3ビル8F	豊田 睦夫（株式会社システムジャパンコーポレーション）	向田 洋平（株式会社システムジャパンコーポレーション）	ふるさと信州 やすらぎの家
135	東京の街並を美しくする会	東京都世田谷区用賀4-10-1	浅野 真人（株式会社ブレイン建築事務所）	佐藤 裕美子（株式会社世田谷組）	東京まちなかの家
136	顔の見える「ふるさと絆」木の家	東京都千代田区神田美土代町11-8	小林 靖尚（株式会社アルファフォーラム）	山口 大祐（顔の見える「ふるさと絆」木の家	ふるさと絆のすまい
137	一般社団法人 TOKYO WOOD 普及協会	東京都小金井市前原町5-8-15	沖倉 喜彦（有限会社沖倉製材所）	高井 毅（株式会社小嶋工務店）	多摩の檜でつくる東京の家
138	全木協東京部協会	東京都中央区八丁堀3-4-10 京橋北見ビル東館6階	池田 浩和（岡庭建設株式会社）	坂口 岳（全木協東京部協会）	「いえ・まち」東京2012
139	イシンホーム住宅研究会	東京都中央区東日本橋2-27-4 靴下会館6階	石原 宏明（株式会社イシンホールディングス）	山本 隆義（株式会社イシンホールディングス）	工務店ネットワークによる地域材活用住宅「HEIG」
140	建築家と建てる木の家グループ	東京都港区赤坂4-8-14	富樫 孝幸（有限会社プラネット環境計画）	平野 雄介（株式会社エヌ・シー・エヌNDN事業部）	東京都の敷地を有効活用する建築家住宅
141	福島県いわき・大分県日田 地域型住宅供給協議会	東京都渋谷区南平台町2-17日交渋谷南平台ビル3F 商品本部	二木 浩三（株式会社アールシーコア）	鎌田 広道（株式会社アールシーコア）	福島県産杉・大分県産杉活用 丸太組構法住宅「あきつログハウス」
142	R+houseシステム	東京都港区白金台3-2-10白金台ビル6階	藤本 修（株式会社アール・プラス・マテリアル）	鶴飼 達郎（ハイアス・アンド・カンパニー株式会社）	R+house
143	木造耐火住宅研究会	東京都荒川区西日暮里1-5-2	山井 宏友（株式会社ハセベ）	齋谷 一彦（株式会社ハセベ）	都市型高耐火性能住宅「木のちから」
144	アソビエクラブ湘 ShoW	神奈川県伊勢原市伊勢原4-15-20	鳥谷部 昭彦（株式会社トリヤベ建）	渡辺 孝一（株式会社渡辺工務店）	アソビエ
145	首都圏地域工務店グループ経営委員会	神奈川県座間市小松原1-22-8	清水 康弘（株式会社参創ハウテック）	山口 重明（株式会社カナモク）	東北の震災復興と首都圏の減災に備える長期優良住宅
146	関東の住宅を考える会	神奈川県茅ヶ崎市東海岸南3-1-15	青木 隆昭（松尾建設株式会社）	青木 隆一（松尾建設株式会社）	住まい手の歴史を刻むいえ
147	チーム ウッドマイスター	神奈川県横浜市西区北幸2-10-20	小泉 武信（小泉木材株式会社）	沖原 和哉（西区木材協同組合）	かながわの森で造る「神奈川の家」
148	「元の家」の会	神奈川県厚木市上荻野2720-3	山本 常美（民家工房常栄有限公司）	細野 千恵美（民家工房常栄有限公司）	「元の家」（はじめのいえ）
149	湘南プレミアハウス連絡協議会	神奈川県厚木市七沢305	磯田 賢吾（株式会社イソダ）	市川 信也（株式会社市川屋）	「湘南プレミアハウス」
150	かながわの地域優良住宅をつくる会	神奈川県小田原市寿町3-1-39	鷺湾 幸司（有限会社おしうみ建築）	高木 大輔（竹広林業株式会社）	都市と森をつなぐ家
151	首都圏性能住宅研究会	神奈川県相模原市中央区並木3-18-30	石橋 由希夫（石橋ホーム資材株式会社）	千葉 妃斗己（株式会社開匠建築設計）	進化した住宅「未来を叶える家」
152	かながわ200年の家をつくる会	神奈川県横浜市神奈川区神奈川12-19-3	青木 哲也（株式会社青木工務店）	高橋 健二（神奈川県建設労働組合連合会）	かながわ200年の家
153	さがみはら山の民と里の民ネットワーク	神奈川県相模原市南区相模大野6-7-2	唐橋 一男（株式会社サーティーフォー）	中野 康秀（株式会社Act&34）	さがみはら BRANDの木の家
154	「かながわきずなの家」をつくる会	神奈川県横浜市中区太田町2-22	二藤 忠（有限会社シンセシティ・トリートメント・カンパニー）	大久保 秀治（一般社団法人かながわ福祉リフォームサポート機構）	かながわ木の香・長生き住宅
155	にいがた・木のぬくもりが育てる愛妻の家つくる会	新潟県新潟市北区水崎802-18	小林 良太（有限会社リョウ建築事務所）	古保 勉（株式会社たかた 新潟建材支店）	にいがた・木のぬくもりが育てる愛妻の家
156	越後の匠の家普及協議会	新潟県長岡市川崎3-2434-1	込田 幸吉（株式会社こみた建築）	石澤 聡（石澤建設株式会社）	越後の匠の家
157	新潟・富山 ふるさと家づくりの会	新潟県長岡市福山町1083番地	大橋 晴夫（有限会社大橋晴夫建築事務所）	山田 優一（ラック株式会社 長岡支店）	越中・越後 いきいき大工の家
158	妻有家ネットワーク	新潟県十日町市高山657番地9	宮沢 武夫（株式会社カネタケ建設）	南雲 稔（魚沼木材協同組合）	震災からの復興 豪雪を乗り越える妻有家
159	越後杉での家づくりを考える会	新潟県新潟市西蒲区升湯1-1	重川 隆廣（株式会社重川材木店）	大竹 弘恒（株式会社重川材木店）	越後杉エコハウス
160	新潟県中越地域型住宅供給協議会	新潟県長岡市下々条町2838-1	稲川 等（新潟住宅ネットワーク協同組合）	行方 勉（株式会社ハウジングネット新潟）	越後スギ活用住宅「朱鷺の家」
161	越後ふるさと家守りの会	新潟県妙高市国賀1-2-7	内山 勇人（株式会社内山ホーム）	樺澤 崇（株式会社菱元屋）	100年暮らす、自然が息づく「木組みの家」
162	特定非営利活動法人新潟長期優良住宅推進協議会	新潟県新潟市中央区姥ヶ山1-3-31	菅原 守利（特定非営利活動法人新潟長期優良住宅推進協議会）	菅原 守利（特定非営利活動法人新潟長期優良住宅推進協議会）	越後にいがたの新しい民家
163	新潟地域型住宅協議会	新潟県新潟市中央区西堀通三番町799番地西堀カメラ902号室	佐藤 実（株式会社M's構造設計）	鈴木 淳（株式会社M's構造設計）	ネイティブハウス
164	新潟発持続可能住宅普及促進会	新潟県新潟市中央区美咲町1-9-48	石倉 茂雄（アサヒアレックスホールディングス株式会社）	松本 隆志（アサヒアレックスホールディングス株式会社）	木を泣かさない家づくり「晋国の家 NIIGATA」
165	新潟の家『DASUKE』工務店の会	新潟県新潟市北区内島見817	鈴木 巖（株式会社鈴木組）	鈴木 巖（株式会社鈴木組）	新潟の地域『DASUKE』の家
166	富山 住まいづくりを考える会	富山県高岡市能町750	前田 一（くみあい建設株式会社）	駒井 紳司（南陽株式会社）	自然と環境を大切に作る省エネ・エコ住宅
167	富山の快適すまいづくりの会	富山県富山市野口812	大日方 竹彦（株式会社マイホーム）	廣瀬 貴志（ヤマイチ株式会社）	富山のこいて木の家
168	富山県優良住宅協会	富山県富山市花園町3丁目3-15	長森 竹志（株式会社ミツホ建設）	本田 慎治（富山県優良住宅協会）	四季を味わう とやまの家
169	北陸長期優良住宅 まるわりの会	富山県富山市草島宇古川10	藤井 義治（ラミネート・ラボ株式会社）	小池 彬（ラミネート・ラボ株式会社）	北陸の気候風土と暮らす 快適な家
170	北陸型木の住まい研究所	富山県射水市寺塚原415	中田 幸男（株式会社中田工務店）	長谷川 恵一（ウッドリンク株式会社）	北陸型木の住まい
171	流季の会	石川県金沢市旭町1丁目1-18	棚田 毅（有限会社棚田建設）	村本 善義（株式会社ムラモト）	地域材ブランド住宅「流季の家」
172	石川県スマートハウスの会	石川県金沢市本町1丁目3番36号	岡田 茂（株式会社フジタ）	杉野 暁（株式会社金沢商行）	いしかわの木を活用する家
173	いしかわ木の家協議会	石川県白山市八幡町1-6番地	角永 善隆（株式会社角永商店）	角永 克介（株式会社角永商店）	いしかわ森の恵みの家

No	グループ名称	グループ所在地(事務局)	グループ代表者氏名(所属)	グループ事務局担当者氏名(所属)	地域型住宅の名称
174	いしかわ住まい創りの会	石川県金沢市湊2丁目10番地	辻 利陽(株式会社 辻鉄)	辻 明良(株式会社辻鉄)	いしかわの木が見える家
175	いしかわ木の家ネットワーク	石川県金沢市湊3-8-5	澤野 利春(株式会社沢野建設工房)	大口 久司(株式会社タッセイ)	加賀・能登の香る家 kanoka -かのか-
176	加賀伝統の家を考える会	石川県金沢市間屋町3-3	山田 外志雄(宏州建設株式会社)	磯野 計(南陽株式会社)	木と共生する美しい街並みの家
177	北越の気候風土にあった住宅を考える委員会	石川県能美市岩内町	絹川 善信(株式会社絹川商事)	北野 正博(株式会社中東)	北越の気候風土にあった住宅「家守、軒の出が深い家」
178	いしかわ木の家普及委員会	石川県金沢市湊2丁目111番地	櫻村 英二(株式会社イシモク)	木越 稔(株式会社イシモク)	北陸五季に対応するブランド住宅
179	いしかわ木ごちの家ネットワーク	石川県金沢市湊2-21	野川 貴人(ファミッツ)	新宅 勇人(加賀木材株式会社)	いしかわ木ごちの家
180	ふくいの家	福井県福井市日之出5丁目4番7号	小林 哲也(株式会社小林住建)	下川 孝幸(社団法人福井県建築組合連合会)	ふくいの家
181	ふくいのでいい暮らし「北陸優良住宅の会」	福井県福井市河増町30-20	川端 武志(株式会社川端工務店)	田中 陽介(株式会社タッセイ)	受け継がれる住まい SUMINE【すみね】
182	福井県家づくりの会	福井県福井市開発5丁目315番地	松山 正則(松山建設株式会社)	石橋 智洋(アロック・サンワ株式会社)	ふくい木のすまい
183	福井ふるさとの家づくりを考える会	福井県福井市帆谷町1-41	佐々木 敬三(福井県プレカット協業組合)	義輪 幸一(福井県プレカット協業組合)	福井ふるさとの家
184	山梨県自然エネルギー普及協会	山梨県北山町北宮地109番地	白倉 義久(山梨県自然エネルギー普及協会)	平賀 正(有限会社 亀田屋木材)	山梨自然エネルギーの家 アスプラス shine
185	一般社団法人山梨県木造住宅協会	山梨県甲府市真川本町13-1	中村 伊伯(株式会社匠家)	遠藤 千春(Vent(ヴァン) 計画設計室)	KAIWA(甲斐環) な家
186	甲斐縁隊	山梨県甲府市相生1-16-15	芦澤 正仁(有限会社楽建舎)	早川 勝(中央ベニヤ株式会社)	ハレル家〜晴れの舞台、晴れの住まい〜
187	山梨住宅ナビ	山梨県甲府市向町296	伊藤 博(株式会社トミタ建設)	天野 睦夫(株式会社七保)	太陽と暮らす甲斐適ハウス
188	佐久平いぶぎの家を創る仲間達	長野県佐久市前山75-1	望月 哲男(株式会社すまいー)	飯田 智(株式会社すまいー)	佐久平いぶぎの家
189	信濃の心をつなぐ家づくりグループ	長野県松本市井川3-4213-1・2(モデルハウス内)	中島 崇伸(株式会社住まい工房)	米山 はるみ(信濃の心をつなぐ家づくりグループ)	より暖かくより安心な「信濃の家」
190	信州・絆でつくる優良住宅の会	長野県長野市吉田5丁目25-7	水野 喜吉(株式会社ミズケン)	岡安 芳文(株式会社マルオカ)	信州・木ずなの家
191	信越地域快適家づくりの会 「地域適合住宅促進部会」	長野県長野市北長池1667	大日方 正一(株式会社 オビナタ)	西 剛(炭平コーポレーション株式会社)	信越地域 「快適・安心 やすらぎの家」
192	全木協-長野県協会	長野県松本市今井野尻5031	小林 稔政(株式会社 小林創建)	佐野 佳孝(全木協-長野県協会事務局)	長野ブランド-長期「ふるさと信州・環の住まい」
193	「信州ベーシックハウス」実行委員会	長野県飯田市丸山町2丁目6732-13	大蔵 実(大蔵建設株式会社)	大蔵 和香子(大蔵建設株式会社)	信州材活用住宅「信州ベーシックハウス」
194	信州の森林と家をつなぐ研究会	長野県下高井郡木島平村穂高3228-1	藤巻 淳一(株式会社フジコーポレーション)	宮崎 正毅(瑞穂木材株式会社)	信濃の国の家
195	信州上田地域「さきがけ」協議会	長野県上田市殿城1214-1	有賀 健一(株式会社有賀技建)	佐藤 彰彦(株式会社アルファプラン)	信州上田地域「さきがけ」住宅
196	住まいとシティ 岐阜	岐阜県羽島郡岐南町みやまち1-3	畑佐 昇(大幸住宅株式会社)	吉田 香央里(ヤマガタヤ産業株式会社)	ぎふナチュラル MOKUREN
197	白川の家地域型住宅供給協議会	岐阜県加茂郡白川町三川1385番地1	藤井 佐敏(有限会社サトシ建築)	今井 美和(東濃ひのきと白川の家建築協同組合)	東濃ひのきと白川の家
198	BinO Master's Club(ビノマスターズクラブ)	岐阜県大垣市河間町1-60	坂井 隆(イビケン株式会社)	西村 哲也(イビケン株式会社)	BinO(ビノ)
199	岐阜・愛知の街並みを向上させる草の根運動	岐阜県岐阜市長良東1丁目29番地	北垣 一宏(株式会社プライズワード)	大川 修弘(株式会社プライズワードアルモノーホーム)	ぎふの杉を使う小さな家
200	岐阜美濃住環境活性化の会	岐阜県不破郡垂井町表佐410-1	矢橋 龍宜(矢橋林業株式会社)	義原 環世(矢橋林業株式会社)	岐阜県産活用住宅「岐阜美濃の家」
201	東濃給住宅供給協議会	岐阜県恵那郡長島町正家613-10	金子 一弘(協同組合東濃地域木材流通センター)	小木曾 正富(協同組合東濃地域木材流通センター)	東濃給が活きる木の家
202	「ぎふの木の家」産直住宅建設協議会	岐阜県岐阜市六条江東2-5-6	都竹 雅之(株式会社 飛騨工務店)	岩田 隆昭(岐阜県産直住宅協会)	「ぎふの木の家」産直住宅
203	協同組合 あすみ住宅研究会	岐阜県中津川市坂下208-15	伊澤 和男(協同組合あすみ住宅研究会)	清長 征男(協同組合あすみ住宅研究会)	あすみ型 東濃給・長良杉の家
204	外断熱の普及促進協議会(東海)	岐阜県加茂郡七宗町中麻生781-3	梶田 和雄(有限会社梶田工務店)	大岩 弘幸(丸七ヒダ川ウッド)	四季を感じ、長く愛される住まいづくり
205	養老ユニオン住宅	岐阜県養老郡養老町中280	伊藤 嘉美(ダイモ住建)	佐藤 孝典(佐藤孝典一級建築士事務所)	ようろう 和みの家
206	一般社団法人東海木造住宅協会	岐阜県岐阜市大倉町12	鈴木 貴雄(鈴記建設株式会社)	後藤 栄一郎(後藤木材株式会社)	東海温故創新の家
207	東海住まいづくりネットワーク	岐阜県岐阜市且島中1-5-25	小牧 弘二(株式会社山一建材)	小牧 新平(株式会社山一建材)	東海の家(岐阜県産材町屋対応住宅)
208	岐阜美濃の家 木の国プロジェクト協議会	岐阜県揖斐郡大野町稲富2398-1	林 寛(丸平建設株式会社)	伊藤 誠一郎(株式会社住いず)	岐阜美濃「清流の家」
209	ぎふの木の住まい協議会	岐阜県岐阜市東鶴3-5-9	鷲見 隆夫(株式会社鷲見製材)	石橋 明世(株式会社鷲見製材)	ぎふの木の住まい
210	あいちの家ブランド化推進協議会	岐阜県加茂郡坂祝町酒倉2342-1	水野 学(株式会社安水建設)	石原 佳典(株式会社佐佐木材)	あいちの家「Familia」
211	駿河住まいづくり協議会	静岡県焼津市上新田355-4	八木 秀幸(株式会社秀和)	小林 友乃(株式会社秀和)	駿河の家
212	静遠地域家づくりの会	静岡県浜松市天竜区二俣町南鹿島63	高林 敏郎(鹿島木材株式会社)	村田 和久(鹿島木材株式会社)	天竜材やすらぎの家
213	ふじのくに静岡優良住宅の会	静岡県静岡市葵区竜南3丁目16番18号	木内 隆行(大隆木内工務店株式会社)	山口 元久(株式会社山清片山)	ふじのくに静岡優良住宅
214	一般社団法人静岡木の家ネットワーク	静岡県浜松市西区大平台3-7-30	松井 進(株式会社 サン工房)	鈴木 清澄(一般社団法人静岡木の家ネットワーク)	静岡県天竜国産材住宅「遠江の家」
215	しずおか優良木材供給センター協力工務店グループ	静岡県藤枝市岡部町岡部2047-2 静岡県森林組合連合会静岡営業所内	榎村 純一(しずおか優良木材供給センター)	澄川 智紀子(しずおか優良木材供給センター)	しずおか優良木材の家
216	しずおか木の家ネットワークス	静岡県静岡市葵区牧ヶ谷2092	平岡 伸浩(株式会社リメックス)	川口 隆一(株式会社マルチ)	しずおか匠の家
217	i-worksプロジェクト	静岡県浜松市西区村柳町4601	伊礼 智(有限会社伊礼智設計室)	中村 正吾(OMソーラー株式会社)	i-works2012
218	静岡県東部優良住宅の会	静岡県駿東郡清水町御団地12番地	加藤 修一(株式会社加藤工務店)	佐野 邦治(寺王建材株式会社)	静岡県産材活用住宅「ふじのくにの家」

No	グループ名称	グループ所在地（事務局）	グループ代表者氏名（所属）	グループ事務局担当者氏名（所属）	地域型住宅の名称
219	遠州バザール実行委員会 地産地消推進グループ	静岡県浜松市浜北区平口5584-12	丸山 勲（有限会社エフ・ベース）	鈴木 諭（株式会社鈴三材木店）	天竜材循環住宅「つながる家」
220	天竜材利活用住宅協議会	静岡県浜松市南区渡瀬町299	村越 省吾（山梨製材所）	寺上 隆介（滝川木材株式会社）	天竜材活用住宅「龍の家」
221	一般社団法人 富士山木造住宅協会	静岡県富士市大洲2410-1	大瀧 功（株式会社大功建設）	渡井 美枝子（一般社団法人富士山木造住宅協会）	富士山地域住宅システム
222	木材コーディネーターが繋ぐ木組の家の会	静岡県掛川市逆川473-1	清水 國雄（清水建築工房一級建築士事務所）	清水 佳子（清水建築工房一級建築士事務所）	木材コーディネーターが繋ぐ木組の家
223	「もてなしの家」協議会	静岡県駿東郡清水町新宿214番地の22	中野 隆治（株式会社中野建築設計）	中野 隆治（株式会社中野建築設計）	あしたか地域ブランド住宅「もてなしの家」
224	ストック循環型住宅研究会	静岡県富士宮市浅間町12番15号	伊藤 稔（株式会社ケイツック）	長橋 秀樹（株式会社共和）	「つなぐ」家サポートシステム
225	大井川地域型住宅ブランド化協議会	静岡県藤枝市前島2丁目23-14	杉村 喜美雄（株式会社ハイホームス）	三浦 泰典（大井川地域型住宅ブランド化協議会）	ふる里を愛する心を育む・大井川の木の家
226	静岡パッシブデザイン・パートナー会	静岡県伊東市宇佐美3106-2	秋山 浩史（株式会社アキヤマ）	梅原 智之（株式会社梅原建設）	復興と県産材、未来につなげるエコな家
227	天竜・無垢の木・ひのきの家普及促進協議会	静岡県浜松市浜北区染地台1-39-21	藤田 正樹（天竜・無垢の木・ひのきの家普及促進協議会）	縣 美樹（天竜・無垢の木・ひのきの家普及促進協議会）	天竜・無垢の木・ひのきの家
228	名住協地域型ブランド住宅推進協議会	愛知県名古屋市中区東区矢田1-9-29	吉次 健次（名古屋住宅建設協同組合）	堀 敏男（ランドマーク株式会社）	City House 「匠の家」
229	NPO法人三河自然素材家づくり研究会	愛知県安城市城ヶ入町団戸173-16	梶原 勝己（株式会社明城）	佐藤 喜代子（株式会社明城）	あいち スギ 活用住宅 「森の住まい」
230	三河地域住宅工房ネットワーク	愛知県岡崎市吹矢町88	市川 幾雄（株式会社 カーザミカワ）	市川 守彦（株式会社カーザミカワ）	次世代につなぐ三河の家
231	あすなろ住まい創りの会 東海	愛知県名古屋市中区千代田二丁目1番13号	丹羽 規之（株式会社丹羽工務店）	松浦 圭介（株式会社山西）	心育む年輪の家
232	NPO法人耐震住宅普及協会	愛知県半田市市州の崎町2丁目2番地226	原田 信生（アンシン建設工業株式会社）	小山 雅弘（株式会社シンホリ）	1000年後の地球のためにできること『緑の家』
233	中京優良住宅ねっと	愛知県名古屋市中川区上高畑2丁目23番地	深谷 啓治（シンセイ建設株式会社）	早川 由洋（株式会社サンコー）	優良住宅「中京の家」
234	ハウジングサポートサービス	愛知県一宮市城崎通6-24	西村 芳夫（西村工務店株式会社）	稲波 啓司（中村木材株式会社）	だんらんの家（うち）
235	のんほいの家づくり協議会	愛知県蒲郡市浜町12番	鈴木 美能治（株式会社ヤマセイ）	高島 英宣（江間忠ウッドベース株式会社）	のんほいの家
236	東海道こだわりの家づくりの会	愛知県豊橋市問屋町5-3	河原 章二（株式会社河原工務店）	伊藤 和彦（中部ホームサービス株式会社）	東海道あんしんの家
237	穂の国家づくり協議会	愛知県豊川市南大通5丁目41番地の1	大村 幸司（株式会社豊栄建設）	石原 勝好（株式会社ウッディシステム）	三河材活用住宅「ホルツの家」
238	一般社団法人愛知県建設団体連合会	愛知県名古屋市中区清水五丁目6番9号	久野 弘（愛知県建設協同組合）	山田 義善（愛知県建設協同組合）	いらかの家 愛知の住まい
239	あいちの木需要拡大協議会	愛知県名古屋市中村区那古野1丁目44-17 嶋田ビル203号	峰野 成彦（株式会社杉生）	渡辺 径（あいちの木で家をつくる会）	三河材活用住宅「あいちの家」
240	あいちい家づくりの会	愛知県名古屋市中区東区寛政町5丁目9番地	石田 和義（石田建築設計室）	青木 隆明（株式会社アオキ建築）	あいち木づかいの家
241	地域木造住宅技術研究会	愛知県岡崎市洞町字西五位元1番地1	加藤 周造（株式会社WWSスペースデザイン）	柳田 智弘（株式会社ネイブレイン）	地域材活用住宅「東海の家」
242	東海家守りネットワーク	愛知県岡崎市大樹寺1丁目5番地20	新美 輝夫（株式会社オカザキホーム）	加藤 俊和（株式会社オカザキホーム）	地域優良住宅「集いの家」
243	木の郷みえの会	三重県松阪市木の郷町21番地	村林 稔（松阪木材株式会社）	中野 貴文（松阪木材株式会社ウッドピア21事業部）	「三重の木」の家
244	「美し国の家」普及促進協議会	三重県津市高茶屋小森上野町2793-8	坂 英哉（三栄林産株式会社）	宮島 純一（旭建株式会社）	三重の木でつくる「美し国の家」
245	「きだての家」プロジェクト	三重県伊勢市御園町王中島2-1	萩原 義雄（株式会社萩原建設）	萩原 義雄（株式会社萩原建設つくる研究所）	きだての家
246	滋賀でいい暮らし いえづくりの会	滋賀県彦根市西沼波町175-1	和田 孝浩（株式会社木屋長工務店）	木村 和彦（株式会社滋賀原木）	MotherLakeと暮らす「近江びわ湖の家」
247	滋賀びわ湖型住宅供給協議会	滋賀県近江八幡市末広町13番地	大塚 文廣（大塚工務店株式会社）	太田 吉信（有限会社シガオータランパー）	滋賀びわ湖に住う家
248	滋賀県木造住宅協会	滋賀県近江八幡市上田町175	根縫 徹也（有限会社ネヌケン）	寺澤 清史（株式会社八興）	日本まんなか湖国の家
249	高島の木の家づくりネットワーク	滋賀県高島市新旭町北畑565番地	北條 政良（株式会社北條）	山本 功（高島市産業経済部森林水産課）	高島の木の家
250	『京ぐらし』ネットワーク	京都市京都市右京区西京極北庄境町27-1	大内 政幸（株式会社オーワンコーポレーション）	玉田 均（平安建材株式会社）	京ぐらしの家
251	京・大工コンソーシアム	京都市京都市中京区蛸薬師通大宮西上ル因幡町97	辻 貴博（株式会社辻工務店）	寄本 猛（株式会社城南組）	『KOTO+Y』
252	北山杉 京あいの家づくりの会	京都市京都市右京区西院久田町83 3パーイブイ1F	大谷 民人（株式会社京都設計）	大隅 健史（OSMネットワーク株式会社）	北山杉 京あいの家
253	Made in Kyoto 住宅研究会	京都市京都市伏見区横大路下三栢辻堂町87	仲江 義信（株式会社仲江建設）	山崎 厚司（早川合板株式会社）	京都ウッドマイレージ住宅
254	紀州材推進協議会	京都市京都市伏見区羽東師志水町133-3	桂 正司（株式会社かつら木材センター）	山北 靖彦（株式会社木構造）	紀州材の暖かい家
255	木と技・京の家づくり協議会	京都市京都市南区西九条豊田町3番地	川久保 雄二郎（全京都建設協同組合）	近藤 敬哉（全京都建設協同組合）	木と技・京の家
256	近畿すまいづくり友の会	京都市長岡京市野添一丁目11番5号	羽柴 準司（株式会社タイコーハウジングコア）	山下 真一（山栄ホーム株式会社）	木のいえ style
257	京都くらし方研究会	京都市長岡京市城の里13-1	波野野 賢（京都くらし方研究会）	市川 宣広（株式会社リヴー級建築事務所）	永く住み継ぐ京（みやこ）
258	国産材品質表示推進協議会SSDプロジェクトユニオン	大阪府大阪市浪速区幸町3-5-24	中村 暢秀（株式会社 紅中）	高田 尚使（株式会社紅中）	球磨杉活用住宅「安心・安全長期優良住宅」
259	近畿ビルダーズネット	大阪府高槻市堀原6-10-5	大池 義和（株式会社アトリエイハウス）	柳原 浩昭（広和建設株式会社（バーナホーム））	地域材活用住宅 『わが家』
260	一般社団法人 近畿木造住宅協会	大阪府大阪市中央区南船場4-13-12-7F	三谷 佳裕（株式会社エルデハイム）	木谷 彰宏（一般社団法人近畿木造住宅協会）	はんしん木心地のいえ
261	関西 家・街プロジェクト協議会	大阪府岸和田市新港町12-4	梅原 秀美（株式会社イワイ）	田幸 崇二（関西 家・街プロジェクト協議会）	「家・街基準」の家
262	紀州建築工房協議会	大阪府堺市中区東山593	中井 輝男（紀州建築工房協同組合）	千原 徹（株式会社コアー建築工房）	紀州の社
263	近畿・良い住まいを創る会（ブランド住宅検討グループ）	大阪府岸和田市額原町180番地	佐々木 博（しあわせ家族住宅株式会社）	田中 初男（ナカザワ建販株式会社）	耐火・遮熱を考えた「近畿・都市型住宅」

No	グループ名称	グループ所在地(事務局)	グループ代表者氏名(所属)	グループ事務局担当者氏名(所属)	地域型住宅の名称
264	安心住宅サポート住ま〜と	大阪府大阪市西区南堀江四丁目7番A-109号	大地 庸元(株式会社大五)	柴 雄一(株式会社大五)	長もち健康住宅住ま〜とロング
265	小規模住宅事業研究会	大阪府枚方市山之上西町	井上 賢治(株式会社IFA住宅設計室)	井上 賢治(株式会社IFA住宅設計室)	次の世代に受け継がれていく家
266	吉野杉活用住ま〜づくりの会	大阪府大阪市西区南堀江1-26-27-212	高橋 義孝(一級建築士事務所 You 建築設計)	大出 正廣(吉野杉活用住ま〜づくりの会 (You建築設計内))	吉野杉・奈良県産杉活用住宅【木造大新面住宅】
267	一般社団法人関西建築業協議会	大阪府大阪市中央区谷町1丁目7-4MF天満橋ビル5階	小原 公輝(輝建設株式会社)	小倉 美江(一般社団法人関西建築業協議会)	大阪住ま〜ひょうか君®優良住宅
268	和の心・真の日本のすま〜づくり協議会	大阪府大阪市中央区本町4丁目8番1号大栄産業本町ビル702号	高松 信陽(一般社) 真の日本の住ま〜を指す会)	中嵩 達郎(一般社団法人真の日本の住ま〜を指す会)	優良工務店の会 7つの理念実践住宅
269	北摂地域の家協議会	大阪府堺市南区拾尾495-6	三反田 忠満(株式会社ヨークベル)	中山 幸也(有限会社ワイズ設計工房)	北摂地域の家
270	関西匠の会・匠樹楽プロジェクト	大阪府大阪市西区江戸堀1丁目13-2日本ライトハウスビル9階	中井 克治(株式会社中井工務店)	山本 清史(協同組合関西匠の会)	匠樹楽の家(しょうじゅらくの家)
271	顔の見える家造りネットワーク 近畿木づなの会	大阪府大阪市西区北堀江2-2-25久我ビルディング9F	久我 洋一(株式会社久我)	木下 弘隆(株式会社久我)	木づな(絆)の家
272	特定非営利活動法人日本住宅再生研究所	大阪府大阪市西区鞠本町2丁目2-17 RE-006 302	福味 健治(特定非営利活動法人日本住宅再生研究所)	芹沢 卓(株式会社PUGOS)	吉野悠久の家
273	はりま風土木の家プロジェクト	兵庫県姫路市飾磨区恵美酒414	上内 康弘(株式会社上内設計工務)	今村 純一(今村産業株式会社)	はりま風土木の家
274	ひょうごKJS連合会	兵庫県神戸市兵庫区湊町2丁目4-1	中川 宗典(株式会社アトリエブルー)	中村 伸弥(林木材株式会社)	ひょうご快適住宅
275	ごうのとり絆住宅をつくる会	兵庫県養父市数崎1050番地	高柴 優(住環境システム協同組合)	川本 天一(住環境システム協同組合)	ごうのとり絆住宅
276	「兵庫の家」推進協議会	兵庫県加西市田原町宮の谷3179-3	後藤 雅弘(株式会社後藤工務店)	都出 卓男(コドブレ株式会社)	地球に優しい木づかい住宅
277	丹波篠山に優良住宅を創る会	兵庫県篠山市本郷670	大前 裕樹(株式会社大市住宅産業)	中井 雅人(株式会社中井工務店)	丹波篠山の家
278	NPO法人ひょうご新林家21	兵庫県西宮市平松町8-27	大海 一雄(NPO法人ひょうご新林家21)	鈴木 素子(NPO法人ひょうご新林家21)	ひょうご新林家優良住宅 ~ちよりの家~
279	ひょうご木のすま〜協議会	兵庫県西宮市鳴尾浜2-16	三渡 圭介(株式会社山弘)	森 由美(ひょうご木のすま〜協議会事務局)	ひょうご木のすま〜
280	京阪神木造住宅協議会	兵庫県篠山市栗栖野27-1	日置 尚文(日置建設株式会社)	伊丹 富雄(京阪神木造住宅協議会)	京阪神地域木造高耐震住宅
281	奈良匠の会 奈良匠の家協議会	奈良県大和郡山田町86-1	福井 伊佐男(株式会社福井工務店)	花田 欣也(株式会社花田材木店)	奈良県産材 奈良匠の家
282	奈良をつなぐ家づくりの会	奈良県生駒市東生駒月見町190-1	伏見康司(株式会社伏見建築事務所)	伏見 康司(株式会社伏見建築事務所)	奈良をつなぐ木の家
283	Nature Feeling「大和の家」プロジェクト	奈良県生駒市光岡台111番地	松嶋 博(一般社団法人 安心・安全住宅供給協議会)	沖中 玲子(一般社団法人安心・安全住宅供給協議会)	吉野の木薫るNature Feeling「大和の家」
284	紀州ハウジングプロデュース協議会	和歌山県海南市且来1396-1	竹本 昌希(タケヤテック株式会社)	原池 英敏(タケヤテック株式会社)	紀州つ・な・が・りのある家
285	鳥取エコハウス推進協議会	鳥取県鳥取市商栄町195番地 大和(だいわ) ホール	森本 博美(社団法人鳥取県建築士会)	森本 博美(社団法人鳥取県建築士会)	鳥取エコハウスプロダクト住宅[SITE](サイト)
286	四季彩の家	鳥取県米子市両三柳2360-8	金田 勝(株式会社金田工務店)	原田 敏彦(有限会社ホームアルミトローヨー住器)	四季彩の家「やくも」
287	環境住宅"とっとり"推進協議会	鳥取県鳥取市徳尾132-1	西尾 明彦(鳥取木材協同組合)	影井 俊一郎(久大建材株式会社)	環境住宅"とっとり"の家"
288	山陰すてきな家づくりの会	鳥取県米子市両三柳2360-8	中西 康夫(協同組合レングス)	奥野 圭一郎(株式会社ミヨシ産業)	山陰のすてきな家
289	鳥取の新しい住まいを考える会	鳥取県鳥取市賀露町113-2	島田 文彦(株式会社ジューケン)	島田 文彦(株式会社ジューケン)	life BOX
290	中国地域家守りネットワーク	鳥取県境港市福定町671-1	魚谷 宗司(株式会社アート建工)	魚谷 宗司(株式会社アート建工)	地域優良住宅「地元自慢の家」
291	しまね温故創新の会	島根県出雲市平田町1733-6	安食 泰夫(株式会社建築)	長岡 慶子(株式会社建築)	出雲風土木の家
292	清流高津川を育む木の家づくり協議会	島根県益田市神田町イ716番地	山根 哲朗(高津川森林組合)	伏谷 忠義(有限会社住宅産業)	清流高津川を育む木の家
293	みまさか木の家 岡山普及会	岡山県岡山市中区東川原161-1-204	大田 勉(株式会社アーバンシステム一級建築士事務所)	米山 敏夫(YONEYAMA 1級建築士事務所)	岡山の木の家
294	岡山県建築工事業協会	岡山県倉敷市沖新町90-11	中桐 潔(倉敷木材株式会社住宅事業部)	遠藤 芳美(岡山県建築工事業協会)	地域木造優良(ちぎゅう)住宅国産材モデル「岡山の家」
295	まにわ型住宅推進協議会	岡山県真庭市下市瀬1075-3	山下 和夫(真庭システム協議会)	田中 康廣(岡山県建築士会真庭支部)	まにわ型住宅「温もりとなつかしさのある家」
296	晴れの国から〜家づくりネットワーク	岡山県玉野市井田3-20-28	松成 健治(株式会社松建グループ)	南部 吉彦(株式会社ヤマホン)	晴れる家〜 hareruya 〜
297	おかやま木の家推進研究会	岡山県岡山市北区石岡町2-1	藤田 佳篤(有限会社ケイ・エフ設計)	藤田 知恵(おかやま木の家推進研究会)	おかやまスタイルの家
298	岡山 住ま〜夢ネットの会	岡山県岡山市東区西大寺新地166-1	湯浅 康則(西部建設株式会社)	小野 康徳(株式会社ウッドイーワールドのざき)	『四季を感じる』瀬戸内の家
299	安芸高田市ブランド住宅事業協同組合	広島県安芸高田市甲田町高田原1896-4	小又 正文(有限会社小又工務店)	井川 誠三(有限会社井川ポンプ店)	広島県北部「檜の香る家」
300	瀬戸内eco住まいる会	広島県福山市南松永町四丁目5-6	加度 周治(株式会社加度商)	松井 一博(竹野木材株式会社)	瀬戸内住まいるハウス
301	ひろしま地域住宅の会	広島県広島市南区大州1丁目10-15	中村 和弘(中村建設株式会社)	三原 聖史(株式会社スガノ)	もみじの家
302	快適住宅コンソーシアム	広島県広島市南区宇品御幸4丁目14番21号	高橋 邦隆(株式会社タカケン)	渡辺 理(株式会社タカケン)	家族とともに変化し住み続ける家
303	広島県工務店協会	広島県広島市南区西露町2-31-601	河井 英勝(橋本建設株式会社)	坂本 さかえ(広島県工務店協会)	風・光・安芸のいえ
304	山口エコ・セ・トラの会	山口県山口市小郡下郷796番5	曾田廣士(株式会社トピア)	久野 剛(株式会社三和)	山口エコ・セ・トラの家
305	九州木の家づくり協同組合	山口県下関市綾羅木新町3丁目7番1号	安成 信次(九州木の家づくり協同組合)	藤永 修平(株式会社安成工務店)	大分県産杉材活用住宅「津江杉の家」
306	九州・山口匠の会 ブランド化事業部	山口県防府市桑山2-11-18	壇 洋一(株式会社ホームランド)	山本 聡(株式会社原工務店)	九州・山口匠の会 「匠の極」-小国杉の家-
307	やまぐち考える家造りの会	山口県岩国市錦見6-13-34	津留崎 康(ヤマエ久野株式会社)	津留崎 康(ヤマエ久野株式会社)	やまぐちみんなで造る家
308	協同組合 徳島県木造住宅協会	徳島県阿南市那賀川町北中島78番地	武市 英博(株式会社城工務店)	松永 佳史(協同組合徳島県木造住宅協会)	『地山地区』あわの家

No	グループ名称	グループ所在地（事務局）	グループ代表者氏名（所属）	グループ事務局担当者氏名（所属）	地域型住宅の名称
309	NPO法人とくしま山・すまい・まちネット（略称：山すまいネット）	徳島県徳島市南二軒屋町2丁目3-3	林 茂樹（株式会社林建築事務所）	林 茂樹（株式会社林建築事務所）	山とまちをつなぐ家
310	安心長持ち徳島住宅の会	徳島県徳島市東沖洲2丁目16番3	青木 宏次（株式会社 青木建設）	鳥 哲也（三友物産株式会社）	安心長持ち徳島住宅
311	フレッセ長持ち住宅供給協議会	徳島県徳島市南矢三町3丁目3-29	尾方 巧（フレッセ（全徳島建設労働組合））	日下 友樹（フレッセ（全徳島建設労働組合））	フレッセ長持ち住宅
312	省エネルギー住宅推進協議会 四国支部	香川県高松市牟礼町年礼2109-3	吉田 健二（吉田建設株式会社）	吉田 健二（吉田建設株式会社）	四国採暖採涼設計の家
313	瀬戸内気候型住宅フォーラム	香川県高松市亀井町8番地12	大西 泰弘（有限会社田園都市設計）	大西 泰弘（有限会社田園都市設計）	瀬戸内気候型住宅
314	ハウズネット四国	香川県三豊市仁尾町仁尾幸43-8	世俣 秀紀（株式会社ライフスタイル）	坪田 貢秋（喜田木材株式会社）	讃木（さぬき）らいふ
315	「工務店学校」四国・温熱環境研究会	愛媛県松山市南吉田町375-3	白石 隆（白石木材商工株式会社）	森田 元（四国エアフォーム株式会社）	KGSパッシブハウス
316	燃費がいい家研究会	愛媛県松山市高岡町437番地	高岡 文紀（有限会社アーキテクト工房Pure）	浜田 誠吾（伊予木材株式会社 松山支店）	愛媛CO（エコ）な家
317	南予ビルダーズグループ（NBG）	愛媛県宇和島市桐形町3-6-8	二宮 正行（株式会社二宮工務店）	毛利 啓子（株式会社二宮工務店）	南予のながいき住宅
318	「五寸角の家」普及推進協議会	愛媛県宇和島市三間町増田389	與那原 浩（「木組みの家 宇和島」研究会（與那原浩建築設計室内））	二宮 政文（社団法人愛媛県木材協会宇和島支部（大木坑木有限会社宇和島支店内））	「五寸角の家」
319	ゆにっと四国優良木造住宅推進協議会	高知県高知市大川筋1丁目6番21号	立道 和男（一般社団法人 高知県中小建築業協会）	立道 和男（一般社団法人高知県中小建築業協会）	「ひめ・さぬき・とさ・あわの家」
320	高知SMC長期優良住宅普及協議会	高知県高知市長浜崎台1丁目20-17	下元 高男（有限会社 下元住研）	濱田 真弓（協同組合高知SMC）	土佐・SATOYAMA（里山）の家
321	土佐の木の家づくり協議会	高知県高岡郡佐川町丙5524	日浦 郷一（仁淀川森林組合）	藤原 富子（土佐の木の家づくり協議会事務局）	土佐材活用住宅「土佐の木の家」
322	緑のどっとーと会	福岡県福岡市早良区梅林6-5-16	俵 輝夫（有限会社タワラ）	渡部 訓充（有限会社タワラ）	緑の家
323	ヤマエよか家つくる会	福岡県福岡市東区箱崎ふ頭4-5-12	手塚 勝己（ヤマエ久野株式会社 木材住資福岡支店）	浅井 龍二（ヤマエ久野株式会社）	なかなかよか家
324	耳納杉産直ネットワーク	福岡県福岡市東区社領1-2-9	岩佐 賢一（岩佐製材所）	松武 陽子（福岡中小建設業協同組合）	耳納杉産直住宅
325	フォレストバーンジャパン	福岡県福岡市中央区今泉1-18-25 季羅宮-中2F	片山 淳一郎（株式会社ランバーテック）	桑原 公（株式会社プロトハウス事務局）	フォレストバーン
326	北部九州 い〜暮らしネットワーク	福岡県北九州市八幡西区築地町19-15	西川 登（スローライフ設計）	吉田 信一郎（株式会社デンヒチ）	美・九州の森と川を守る家
327	福岡県産直住宅推進協議会	福岡県福岡市東区社領1-2-9	印口 繁（有限会社印口繁工務店）	小林 司（福岡中小建設業協同組合）	ふくおか産直住宅
328	福岡県健康住宅促進協議会	福岡県北九州市八幡西区下畑町13番7号	村上 茂真（株式会社ZOME）	村上 茂真（株式会社ZOME）	福岡県安心と笑顔のある家
329	木のマイホーム促進会	福岡県福岡市博多区住吉2-4-7-913	下原 潤（GtoS）	下原 潤（GtoS）	木のマイホーム〜九州美林の杉・笑顔の家〜
330	一般社団法人 福岡県木造住宅協会	福岡県福岡市東区箱崎ふ頭四丁目3番4号	大里 博之（一般社団法人 福岡県木造住宅協会）	鬼木 崇（一般社団法人福岡県木造住宅協会）	北部九州の木の家
331	樹の家創る築優会	福岡県久留米市東町27-13	熊谷 善行（有限会社熊谷建設）	保志場 孝一（坂本産業株式会社）	台風地震に強い九州樹の家
332	南九州あんしんの家づくりグループ	福岡県みやま市山川町真弓22番地の2	岩永 昭（九州ハウジング株式会社）	船津 智也（九州ハウジング株式会社）	南九州あんしんの家
333	九州住宅研究会	福岡県福岡市西区愛宕2-11-34-603	古下 隆夫（株式会社みらいふ）	時政 康司（九州住宅研究会）	福岡県 八女スギ活用住宅「真・木づくりの家」
334	さがの木の家研究会	佐賀県唐津市和多田南先石1-29	井本 和磨（株式会社井本ホーム）	福井 紳一郎（福井木材株式会社）	さがの木の家
335	佐賀県建設産業協会	佐賀県唐津市菜畑3311-3	中村 哲（株式会社中村建築）	森山 政昭（佐賀県建設産業協会）	佐賀松浦の家
336	九州周遊のよか仲間達	長崎県長崎市古賀町1018-1	高島 正弘（高島建設工業株式会社）	田中 清隆（株式会社TAF）	九遊の家
337	西九州優良木造住宅を創る会	長崎県大村市杭出津2丁目794-2	高瀬 嘉博（高瀬建設株式会社）	本間 慎治（株式会社富建）	「うちんがたん木の家」〜水を操り、風と調和する長崎型長期優良住宅〜
338	故郷を想い、守る会	長崎県長崎市上野町6番27号	河浪 博信（有限会社福井商事ビルド事業部 空感考房CO・CO）	河浪 博信（有限会社福井商事ビルド事業部 空感考房CO・CO）	長崎街道
339	住三良家（すみよか）推進グループ	長崎県大村市満隆町419-1	石橋 重博（株式会社石橋工務店）	堀淵 紀昭（ヤマエ久野株式会社長崎支店）	住三良家
340	長崎すて木な家づくりの会	長崎県諫早市栄田町20番31号	山田 守（有限会社四季工房）	徳永 英治（株式会社クロダ）	長崎のすて木な家
341	雲仙・ながさ木の家づくり会	長崎県島原市新馬場町894-1	内島 範喜（資）内島材木店	内島 範喜（合資会社内島材木店）	ながさ木の家
342	NPO法人 九州の杉・天然乾燥研究会	熊本県熊本市南区近見8丁目9-85	小山 幸治（NPO法人 九州の杉・天然乾燥研究会）	坂根 孝敏（新産住拓株式会社）	環境共生に配慮したくまもと型木造住宅「九州エコシブプロジェクト」『小国エコシブ』
343	くまもと・安心な住まいづくり推進協議会	熊本県熊本市南区江越1丁目29-32	平野 邦彦（有限会社平野設計室）	岸田 浩二（出田実業株式会社）	くまもとの風を感じる家『MOCCOS』（モコス）
344	KS倶楽部	熊本県上益城郡嘉島町2803-4-2F	佐藤 大八（株式会社喜太郎）	黒田 拓（株式会社喜太郎 統括本部）	山の元気「九州スケルトン住宅」
345	小国杉で山とまちがつながる家づくり協議会	熊本県阿蘇郡小国町宮原1802-1	小椋 清市（有限会社小椋住宅）	穴井 喜一郎（小国町森林組合）	小国杉地熱乾燥材活用住宅
346	まうごつよか家をつくる隊	熊本県上益城郡益城町大字古閑97-8	豊田 浩二（株式会社SHIN-EI）	上村 哲生（ヤマエ久野株式会社）	くまモンの家
347	NPO法人 日本マイホームプランナーズ協会「九州エコシブプロジェクト委員会」	熊本県熊本市東区西原2-35-33	岩山 泉（NPO法人 日本マイホームプランナーズ協会）	廣田 慎一郎（NPO法人日本マイホームプランナーズ協会）	九州杉と創る環境共生型住宅「九州エコシブプロジェクト」『小国エコシブ』
348	北九州カーボンニュートラル住宅研究会	大分県大分市西新地1-3-5サンビル1階	舟木 和博（新日本ホームズ株式会社）	三浦 逸朗（ミウラクワパートナーシップ有限公司）	小国カーボンニュートラル材活用住宅
349	大分県 木の家づくりネットワーク	大分県大分市大字千歳429-6	芳山 憲祐（株式会社大分住宅研究室）	竹尾 憲和（有限会社竹尾建築事務所）	豊の国住宅
350	豊の国優良住宅推進協議会	大分県大分市向原東2丁目1-28	坂井 泰久（株式会社坂井建設）	小石 彰（有限会社中山建材店）	大分地産優良住宅
351	日田地域型住宅ブランド「天領木の会」	大分県日田市石井3-777	荒川 政勝（株式会社天領木）	瀬戸 基彦（株式会社日田十条）	日田杉活用住宅「天領木の家」
352	相棒倶楽部	宮崎県都城市早鈴町1866番地10	持永 宏一（持永木材株式会社）	待木 和博（持永木材株式会社）	みなみのいえ
353	耳川スギで住まいを創る会	宮崎県日向市大字日知屋5514-18	甲斐 若佐（耳川広域森林組合）	駒田 勤（東九州プレカット事業協同組合）	耳川杉の匠人

No	グループ名称	グループ所在地(事務局)	グループ代表者氏名(所属)	グループ事務局担当者氏名(所属)	地域型住宅の名称
354	宮崎の「ゆたかさ」を活かした家づくり協議会	宮崎県宮崎市別府町3-1宮崎日赤会館2階	松下 宏(社団法人宮崎建築士会)	竹下 忠利(公益社団法人宮崎県森林林業協会)	自然が息づくみやざきスギの家
355	(社)宮崎県建築業協会内 地域型住宅「ひむかの家」供給協議会	宮崎県宮崎市瀬頭2丁目4番12号	新町 吉男(有限会社新町工務店)	津曲 佳代子(社団法人宮崎県建築業協会)	「ひむかの家」
356	諸塚村産直住宅ネットワーク	宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代2683	松田 美利(耳川広域森林組合加工部)	矢房 孝広(諸塚村役場)	FSC環境共生の家づくり
357	宮崎ファースの家を造る会	宮崎県都城市横浜市町265-5	清水 賢一郎(清栄建設)	清水 賢一郎(清栄建設)	宮崎ファースの家
358	かごしま長期優良住宅普及協議会	鹿児島県鹿児島市荒田2丁目28番19号	深野木 信(株式会社深野木組)	富田 洋生(NPOかごしま快適住まいネットワーク)	桜島克灰長優良住宅「ヴォルケーノ」
359	かごしま家づくりの会	鹿児島県鹿児島市西別府町2995-5	竹下 浩二(株式会社新建設)	堂園 広治(株式会社中澤)	かごしま家づくりの会
360	薩摩 木の家つくる会	鹿児島県鹿児島市東開町3-8	有菌 米也(株式会社有菌)	米倉 司(ヤマエ工務株式会社)	薩摩 木の家
361	鹿児島県優良住宅協会	鹿児島県始良市西餅田924・50	有村 吉孝(株式会社住まいず)	宮地 久生(株式会社高嶺木材)	かごしま「地材地建の家」
362	沖縄県木造住宅協同組合	沖縄県那覇市字銘苅322番地の5	比嘉 武(株式会社 T&T)	大田梨加、村山創(株式会社T&T)	沖縄型パッシブ住宅
363	沖縄県木造住宅品質向上研究会	沖縄県宜野湾市上原2丁目5番6号	長堂 昌太郎(有限会社長堂材木店)	長堂 昌太郎(有限会社長堂材木店)	Comhome 沖縄

※グループ名称及びグループ所在地等は採択時の内容となっています。

地域型住宅ブランド化事業・平成24年度第2回採択グループ

No	グループ名称	グループ所在地(事務局)	グループ代表者氏名(所属)	グループ事務局担当者氏名(所属)	地域型住宅の名称
1	オホーツクの家づくり協議会	北海道北見市山下町4-2-8	高橋 広明(株式会社高橋工務店)	竹口 祐司(株式会社竹口組)	地域型長期優良住宅「オホーツクの家」
2	くしろ・ねむろ「木づな」の家協議会	北海道釧路郡釧路町桂4-15	長谷川 渉(株式会社長谷川建築設計事務所)	石川 加太(丸善木材株式会社)	くしろ・ねむろ「木づな」の家
3	北の四季彩	北海道札幌市中央区北1条西10-1-17	藤崎 廣和(シノザキ建築事務所株式会社)	斎藤 賢(株式会社ヤマチコーポレーション)	北の四季彩「連」
4	道産子の樹づなの会	北海道紋別市幸町1-1-15	岩崎 雅人(株式会社イワサキ)	井上 吉人(北栄建設産業株式会社)	蝦夷の絆の家
5	北方型住宅北の木の家推進の会	北海道上川郡東川町西町11丁目1-3	川村 純一(株式会社カフムラ)	吉川 進(株式会社オークランド)	道産材活用型「北方型住宅」
6	驚異の職人集団シクロー住宅研究会	岩手県九戸郡軽米町大字軽米16-37-35	金洵 誠(有限会社誠建ホーム)	平 正純(株式会社ブルケン東北 軽米営業所)	寒い郷の快適住宅
7	住田型地域住宅生産者グループ	岩手県気仙郡住田町世田米字白向61-1	佐々木 一彦(住田住宅産業株式会社)	中野 和人(住田住宅産業株式会社)	木肌のぬくもりを伝える家
8	イワベネクスト会	岩手県盛岡市青山1-18-8	玉山 星生(株式会社太子建設)	網取 克也(株式会社イワベニ)	neos(ネオス)
9	いえもりの会北東北	岩手県久慈市夏井町大崎15-1-1	橋本 好司(株式会社橋長)	太田 辰男(有限会社マルヒ製材)	活木活木(いきいき)住宅
10	『チェルアルコの家研究会』	岩手県花巻市桜木町2丁目10番地1	照井 正樹(藤正建設株式会社)	嶋 利幸(株式会社嶋勘商店)	『チェルアルコの家』
11	東日本家づくりの会	岩手県花巻市矢沢第10地割1番地1	渡邊 佳子(株式会社SETサポート)	菊地 伸彦(株式会社SETサポート)	あたたか幸せの家
12	北いわて快適住まいづくりの会	岩手県二戸市堀野字長地75-4	田頭 純(株式会社デンドウ住宅)	齊藤 敏正(株式会社菅文)	快適北いわての家
13	いわて木組み組	岩手県盛岡市みたけ4-5-22	渡辺 敏男(有限会社盛岡設計同人)	打野 秋男(ウチノ建設株式会社)	復興住宅木組みの家
14	次世代の会	宮城県多賀城市城南1-15-6	菊池 三夫(株式会社キクチ)	菊池 修也(株式会社キクチ)	次世代へつなぐ家
15	仙南建築匠会	宮城県亶理郡亶理町逢隈田沢字早川66-1	鈴木 隆(株式会社鈴木建設)	高橋 浩二(仙南ベニヤ株式会社リメイクアーキテクト)	仙南匠の会
16	気仙沼地域住宅生産者ネットワーク	宮城県気仙沼市古町1-4-10	熊谷 敬一郎(株式会社クマケ建設)	村上 暁子(株式会社クマケ建設)	気仙沼地域型復興住宅
17	宮城住創研究会	宮城県宮城郡利府町青葉台2丁目2-41	高橋 一夫(大東ハウジング株式会社)	氏家 敏成(有限会社フォレスト21)	宮城快適住宅
18	東北家守りネットワーク	宮城県東松島市大塚字南林下3	花坂 功三郎(株式会社花坂ハウス工業)	花坂 雅之(株式会社花坂ハウス工業)	地域優良住宅「木継な(絆)の家」
19	みやぎ家創りの会	宮城県仙台市宮城野区扇町5-9-12	阿部 力(株式会社produce・D)	曾根 満夫(株式会社仙建)	わたし違かぞくの家
20	秋田北浦山林再生を考える会	秋田県仙北市角館町水ノ目沢79-1	仲野谷 勝洋(有限会社仲野谷工務所)	黒澤 昇(株式会社黒澤製材所)	秋田北浦杉の家
21	やまがたの家・未来研究プロジェクト	山形県西村山郡河北町谷地字月山堂605番地	荒木 光廣(株式会社荒木建材店)	奥野 歳幸(株式会社荒木建材店)	やまがた蔵王エコプレミアの家
22	山形雪国の家を創る会	山形県山形市嶋北1-23-12	寺島 利和(株式会社家々ホーム)	本間 清二(株式会社家々ホーム)	山形雪国の家
23	住み継ぐ家づくりネットワークふくしま	福島県郡山市富田町字諏訪西50	吉成 新一(有限会社吉成建築)	坪井 道子(株式会社ツボイ)	福家 [FUKU-IE]
24	FCM(有限責任事業組合エフシーエム建築計画総合研究所)	福島県郡山市神明町17-23	三瓶 久仁雄(株式会社東日本マネジメント)	阿部 智史(エーユーエム構造設計株式会社)	CMという仕組みでつなぐ住宅づくり
25	ジャープネットビルダー連合福島	福島県本宮市本宮字戸崎7-1	吉田 光徳(光建設株式会社)	吉田 光徳(光建設株式会社)	地域活性住宅「我が家」
26	福島優良住宅建設協会	福島県郡山市香久池1-8-6	渡部 伸(株式会社悠二十一)	吉田 司(郡山サッシセンター株式会社)	幸福の家
27	ふくしま中央建設共同企業体	福島県郡山市安積町日出山2-21-1	大原 定雄(株式会社大原工務店)	大原 昇(株式会社大原工務店)	希望(のぞみ)の家
28	復興住宅まもりすまいネットワーク	福島県いわき市平下平窪字諸荷前25-3	草野 坦(福島県建築業組合連合会)	小森 良一(株式会社小森工務店)	木と土の家

No	グループ名称	グループ所在地（事務局）	グループ代表者氏名（所属）	グループ事務局担当者氏名（所属）	地域型住宅の名称
29	ミトモク緑のネットワーク	茨城県水戸市千波町1884	鈴木 静児（鈴木材木店）	山川 浩二（株式会社ミトモク）	八溝材で造る「e-家」
30	茨城ねりん会	茨城県つくばみらい市狸穴1386-9	森 大輔（株式会社モリハウジング）	本間 信明（有限会社本間工務店）	茨城ねりんの家
31	上毛（かみつけ）の会	群馬県吾妻郡東吾妻町岩井1036-3	新井 博孝（株式会社新井建設）	寺嶋 孝（寺嶋開発株式会社）	尾瀬の家
32	丸太組構法普及促進協議会	埼玉県所沢市西所沢1-16-31	松下 勝久（株式会社フェニックスホーム）	山本 陽介（株式会社フェニックスホーム）	アゼクラ-azekura-
33	“Dann” style partners	埼玉県川口市大字安行慈林709-2	船津 淳吉（船津地産株式会社）	清水 雅彦（船津地産株式会社）	eco家（うち）
34	関東住まいるハートの会	千葉県八街市八街は6-70	李家 博子（株式会社家工房）	岡持 雅春（株式会社ハウス・デポ関東）	関東住まいるハートの家
35	東総災害に強い家づくりの会	千葉県旭市口908	木内 健一（株式会社丸八工務店）	小関 秀央（株式会社石川商会住宅機材部）	東総安心住宅
36	暮らし心地創造会	千葉県千葉市緑区誉田1丁目316番地1	阿久津 文和（株式会社フレスコ）	田中 健司（株式会社フレスコ）	家族の笑顔を感じる家
37	東京守りの家普及会	東京都府中市紅葉丘3-41-20	飯島 今朝男（株式会社アイケーホーム）	北村 喜徳（有限会社アズ建設）	復興支援と防災の家
38	東京・神奈川『喜（き）』の家グループ	東京都江東区東陽3-23-22 東陽ANビル2F	大久保 清（株式会社大久保工業）	阿部 圭司（第一産商株式会社）	東京・神奈川 都市型木の家
39	多摩・産直すまいづくりの会	東京都板橋区南常盤台1-38-11	高橋 偉之（特定非営利活動法人設計協同フォーラム）	千代崎 一夫（住まいとまちづくり工房）	多摩・産直の家
40	S・I推進研究会	神奈川県横浜市緑区三保町2594-8	星野 一廣（株式会社エス・アイ・ビジネスソリューション）	八田 徹也（株式会社エス・アイ・ビジネスソリューション）	地震に強い無垢の家「S・I住宅東海」
41	「武州」いい家研究会	東京都東大和市中央1-1-5	笹本 修（株式会社ささと建設）	沖野 謙（株式会社タカキ）	～風構明備～サムハウス
42	埼玉県住まいる協議会コバトンの家グループ	東京都新宿区西新宿26-1 新宿住友ビル34階	酒井 裕三（株式会社OKUTA）	伊藤 伸志（株式会社エポシステム）	コバトンの家
43	首都圏住まいるを創る会	東京都小平市喜平町1-10-7	松下 岳土（小松建設株式会社）	沼田 稔（株式会社コバヤシ）	首都圏ココロ・つながる家
44	関東 家守りネットワーク	神奈川県秦野市鈴張町1-34	榊島 辰彦（株式会社コラム建設）	玉井 武史（株式会社コラム建設）	地域優良住宅「絆を育む家」
45	設計事務所と工務店のコラボで創る「新しいいえづくり応援団」	神奈川県横浜市中区不老長3-12-2F	上原 伸一（有限会社上原建築設計事務所）	磯部 崇（社団法人神奈川県建築士事務所協会）	かながわe家（カナガワイーイ）
46	首都圏あんしん耐震住宅の会	神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央4-36-1	水品 廣記（有限会社水品建工）	安口 栄昌（テクノワークス株式会社）	神奈川県産材を有効活用した“あんしん”安全な住まい
47	越後の住まいを守る会	新潟県新潟市中央区鳥屋野137-1	阿部 浩二（株式会社阿部材木店）	大野 昌（吉久株式会社 新潟営業所）	越後の住まい
48	あずまだち研究会	富山県富山市婦中町西本郷436-62	垣内 芳浩（株式会社富山合板）	平田 由紀恵（株式会社富山合板）	あずまだちの家
49	北陸の素適な家協議会	富山県高岡市福岡町赤丸628-1	稲谷 嘉則（吉久建材株式会社）	宮田 栄作（ホクリク住材株式会社）	北陸で住まう素適な家
50	通気断熱の家 富山会	富山県中新川郡上市町横越字正印道2	永森 忠志（永森建設工業株式会社）	渋谷 幸司（株式会社田島木材）	富山でつくる通気断熱の家
51	世界農業遺産「里海里山」が育む住まいの会	石川県珠洲市若山町上正力8-75	大伏 勇進（樫の木工舎）	善家 勝巳（樫の木工舎）	notoな家
52	富士北麓の家プロジェクト	山梨県富士吉田市上吉田1712	小山田 雄彦（富士ハウス工業株式会社）	ト部 良太郎（山梨木材市場株式会社）	富士北麓の家
53	材木屋と頑固一徹職人が造る家の会	山梨県南都留郡忍野村内野4750	宮下 俊吉（株式会社ビ・ボン）	米山 一広（株式会社ヤマセンター）	そよかぜの家「富士」
54	信州・榊（TASUKI）の家普及協議会	長野県佐久市野沢94-1	矢野 健太郎（株式会社竹花組）	庄司 厚（株式会社オークサ・マテックス）	信州・榊（TASUKI）の家
55	かもの森を育てる会	岐阜県加茂郡白川町三川1539番地	杉山 計弘（東濃ひのき製品流通協同組合）	渡辺 信吾（東濃ひのき製品流通協同組合）	森を育む家
56	恵那市産直住宅組合とその仲間たち	岐阜県恵那市飯地町2897	館林 輝義（株式会社あつたか森の国から）	野村 一志（株式会社あつたか森の国から）	「恵那那の家」 復興支援・低炭素型
57	（一社）志太建築士会 P, eco	静岡県藤枝市藤枝4-5-14	佐野 芳正（佐野設計工房一級建築士事務所）	中澤 渉（株式会社中澤住宅工房）	志太パッシブエコハウス
58	遠州建築士による住まいの会	静岡県掛川市下垂木2445	花嶋 久治（ハナジマ設計一級建築士事務所）	佐野 透（株式会社尾崎工務店）	遠州建築士による住まい
59	耐震長寿命住宅研究会	静岡県浜松市浜北区上島457-10	斎藤 陸郎（株式会社ウッドファステクノロジー）	斎藤 幹一郎（株式会社ウッドファステクノロジー）	テラ構造・杉の家
60	ふじの国 快適な住まいづくりグループ	静岡県富士市中之郷648-1	白井 琢磨（株式会社中村組）	高木 誠一（株式会社ノダ 一級建築士事務所）	静岡県産材 ふじの国 木の家
61	志太木材協同組合「顔の見える家づくりの会」	静岡県藤枝市緑町1-8-16	増田 三千男（増田製材所）	中村 浩章（志太木材協同組合 内「顔の見える家づくりの会」）	志太産直・顔の見える家
62	東海・長期優良住宅友の会	愛知県長久手市岩作長鶴50-№2（CBCハウジング/住まいの公園内）	吉田 耕人（株式会社N-town）	川名 真治（株式会社愛知建設）	長持ち快適東海の家
63	BHB会（ブランド化を考える部会）	愛知県名古屋市中区正木1-1-4	吉田 達弘（株式会社ヤマガタヤ）	赤坂 光俊（株式会社ヤマガタヤ）	地域材を活用した「低炭素の家」
64	愛知ハートフルハウスの会	愛知県東海市富木島町池下10番地3	東 英則（株式会社名東木材）	木田 賢二（株式会社名東木材）	尾張・三河住み継げる安心の家
65	東海優良住宅をつくる会	愛知県豊橋市下地町字柳目28	原田 精一（ホーム・クリエイション株式会社）	石原 教行（イシハラ株式会社）	地域ブランド住宅「東海で育む木の家」
66	近畿すまい守りネットワーク	三重県伊賀市猿野1238	森 繁樹（森大建地産）	森 秀樹（森大建地産）	地域優良住宅「収納上手な家」
67	これからの住まいづくり	滋賀県大津市別保2-9-48	大橋 廣勝（大輪建設株式会社）	池本 宏文（大輪建設株式会社）	みずうみの家
68	滋賀らしい環境こだわり住宅、つくり手ネットワーク	滋賀県大津市滋賀里4-11-3	川村 克己（川村工務店）	岩波 正（三和総合設計株式会社）	滋賀ほんまもんの家
69	新住協関西支部	京都府京都市下京区大宮通四條下ル四條大宮町21 新二虎ビル	宮井 泰造（有限会社宮井建築設計事務所）	宮井 泰造（有限会社宮井建築設計事務所）	関西木づくりの住まい
70	京緑会	京都府京都市南区西九条御幸町3-3	佐名田 一郎（株式会社アイビ建築）	國松 隆夫（株式会社クレマ）	火に強い木の家京都
71	おおさか木の家づくり隊	大阪府大阪市大正区千島3-18-9	中村 俊夫（株式会社保全サービス）	山本 忠（山忠木材株式会社）	おおさか地産地生の家
72	高知産住まいづくり協議会	大阪府大阪市大正区千島3丁目19番20号	頃安 伸明（株式会社頃安木材）	竹中 徳仁（株式会社頃安木材）	高知産 木造りの家
73	KANSAIほっと住まいるネットワーク	大阪府大阪市西区南堀江2-2-6	佐藤 勇男（株式会社じょぶ）	寺倉 雅史（マルコマ株式会社）	震災に耐え次世代に引継ぐ家

No	グループ名称	グループ所在地(事務局)	グループ代表者氏名(所属)	グループ事務局担当者氏名(所属)	地域型住宅の名称
74	近畿エコガラス普及促進地域協議会	大阪府大阪市天王寺区大道5-5-2	山下 義一(近畿エコガラス普及促進地域協議会)	山下 隆之(山下硝子建材株式会社)	近畿エコブランド住宅~紀州木の家~
75	窓みらい 低炭素住宅研究会	大阪府和泉市テクノステージ1-3-9	平山 博邦(和泉トーヨー住器株式会社)	市川 昌彦(和泉トーヨー住器株式会社)	窓みらい 低炭素住宅
76	省エネ・低炭素な生活を追求するグループ	大阪府東大阪市御厨6-2-31	稲葉 能宏(株式会社イナバ)	生津 貞雄(株式会社イナバ)	低炭素を考えた近畿・節約の家
77	ヤマトタテルの会	大阪府吹田市古江台3-18-10	村本 喜義(株式会社ムラモト)	三澤 康彦(有限会社エムズ建築設計事務所)	杉三層パネルを使った地域村民家
78	木と風の家を創る会	大阪府大阪市天王寺区南河堀町10-14	辨木 晃(株式会社セイコー住研)	山内 亮太(コバヤシ産業株式会社)	木と風の家
79	ひとときネット プラス	大阪府堺市西区鳳北町3-140	阪口 勝行(阪口製材所)	奥野 浩徳(奥野浩徳設計工房)	吉野STYLE
80	和らぎの家・兵庫推進協議会	兵庫県揖保郡太子町福地719-1	鮫島 拓一(株式会社ハウス・デポ関西)	上田 昭典(株式会社ハウス・デポ関西)	和らぎの家・兵庫
81	上方町家の会	兵庫県神戸市灘区岩屋中町1-2-9	川口 重行(株式会社ソーラーコム)	戎 健太郎(株式会社戎工務店)	100%国産材の100年住み継ぐ家
82	阪奈地域住宅ユニオン	兵庫県西宮市鳴尾町1-14-2	秋田 圭治(株式会社秋田宅建不動産)	矢嶋 高彦(株式会社上八)	減災の家
83	はりまe家ネット	兵庫県姫路市広畑区早瀬町2-26-2	石原 弘一(コーラルハウジング株式会社)	宮田 攝子(コーラルハウジング株式会社)	兵庫県産材スギ活用家 "SUMIKA"
84	やまと優良住宅を創る会[奈良ブランド推進グループ]	奈良県橿原市曾我町32-2	中平 義晴(株式会社ヤマト)	細工屋 忠佳(株式会社丸産業)	ならの木のいえ
85	びおハウス出雲の家プロジェクト協議会	島根県出雲市上塩治町890-1	狩野 秀嗣(有限会社ウツディカリノ)	花田 恵一(協同組合出雲の木の家)	びおハウス出雲の家
86	県央地域型住宅供給協議会	島根県大田市大田町大田イ443番地5	田原 辰男(株式会社コラム建築設計事務所)	松浦 潤(大田ベニヤ商会設計監理部)	しまねの木活用住宅「かいてきないえ」
87	「しまねの森の家」プロジェクト	島根県松江市北田町3-5-3	藤原 徹(株式会社藤原木材産業)	富金原 名雅子(社団法人島根県住まいづくり協会)	しまねの森からつながる循環型住宅「しまねの森の家」
88	みまさか住まいづくり研究会	岡山県津山市戸島634-14	山根 善治(有限会社山根工務店)	小椋 淑宏(株式会社土居建材店)	みまさかエコハウス
89	HOTネット・E(家)の会	岡山県岡山市中区海吉1840-5	森下 雅人(株式会社北屋建設)	井上 隆志(株式会社マルティックス山陽)	晴れの国・岡山の家
90	岡山やさしい家つくり倶楽部	岡山県倉敷市真備町上二万774	城市 一成(株式会社木の城いちばん)	浅野 裕三(株式会社浅野材木店)	はれのくに岡山安心住宅
91	夕風住宅研究会	広島県廿日市市木村港南4-3	小野 晃佑(NPO法人広島耐震マイスター倶楽部)	工藤 慎司(株式会社小野産業)	瀬戸の夕風も快適に暮らせる家
92	びんご住宅研究会	広島県福山市南本庄二丁目12番27号	沖 裕人(株式会社オキ)	小林 政博(光和物産株式会社)	エコセトラの家
93	快適な備後の家をつくる会	広島県福山市神辺町字東中条1120-1	大畑 徳晃(大畑建設株式会社)	尾崎 忠相(三島建材株式会社)	福山地域活性化家 BINGO
94	山口木配り・喜組みの会	山口県岩国市関戸1038-1	今井 隆(今井木材株式会社)	今井 美栄子(今井木材株式会社)	山口木配り・喜組みの家
95	「かいふの木の家」匠の会	徳島県海部郡海陽町吉野字小松9-5	横尾 政明(有限会社ココオ建築工房)	久岡 佳代(海部森林組合)	かいふの木の家
96	協同組合 耐震・省エネルギー・エコロジー住宅を創る工務店ネットワークかがわ	香川県丸亀市垂水町3145-1	津山 哲郎(津山建材株式会社)	魚谷(株式会社大丸工業)	さぬきエコハウス link GAINAISM
97	四国健康住宅を考える会	愛媛県松山市西垣生町1740-5	鶴居 正規(愛媛プレカット株式会社)	鶴居 正規(愛媛プレカット株式会社)	家族の絆と未来を育む家
98	ふくおか長期優良住宅推進グループ	福岡県福岡市早良区梅林6-10-51-2	市岡 太郎(株式会社市岡)	森 秀仁(株式会社住)	福岡県産材活用住宅『福の家』
99	小国町と手をつなごうプロジェクト	福岡県宗像市徳重546-1	岩見 優(株式会社キタモク)	高橋 秀一(株式会社キタモク 宗像)	小国杉めくもり快適住宅
100	クリプトメリア・ヤポニカ倶楽部	福岡県福岡市博多区東那珂2-14-6	芳谷 昭男(株式会社アキ建設)	芳谷 秀夫(株式会社アキ建設)	杉を守る"すぎもり"の家
101	デザインリフォーム福岡	福岡県北九州市小倉北区真鶴1-12-13	田中 明(株式会社サン建築工房)	福谷 広志(株式会社不動産プラザ)	ふくおか木香の家
102	よか家つくり会	佐賀県小城市三日月町久米1350	久我 尊(くが工務店)	古賀 正大(株式会社古賀木材センター)	ほんに!よか家
103	ネクストビルダーズネットワーク	佐賀県唐津市浦6410	林 翼(株式会社フレックス唐津・住まいづくり研究所)	山口 祥平(株式会社フレックス唐津)	森のすみか・100の家
104	肥前快適家づくりの会	長崎県佐世保市三川内本町201番地15	久我 了(親永産業株式会社)	内原 つや子(親永産業株式会社)	肥前快適の家
105	優良住宅ネットワーク長崎	長崎県西彼杵郡時津町浜田郷728-1	林田 孝男(林田設計企画)	末次 康成(有限会社末次材木店)	家族だらん長崎の家
106	長崎県中央木の家推進協議会	長崎県大村市杭出津2-794-2	富永 政巳(株式会社富永工務店)	三島 照義(株式会社富建)	県央快適な木の家
107	佐世保優良木造住宅を創る会	長崎県佐世保市広田3-21-10	内田 浩(株式会社佐世保地所)	弥永 浩(株式会社富建)	西九州快適な木の家
108	長崎優良木造住宅を創る会	長崎県西彼杵郡時津町浦郷542	柿田 経介(有限会社カキタ建設)	濱 清康(株式会社富建)	南長崎の木の家
109	熊本エコ住宅を考える会	熊本県熊本市東区鹿嶋瀬町393番地	松本 智志(株式会社智建)	山本 和久(善徳丸建材株式会社)	山から里まで「活気」を与える木の家
110	宮崎長期優良住宅建築促進協議会	宮崎県都城市早鈴町5085番地	黒木 由典(宮崎県森林組合連合会)	柳田 力男(都城森林組合)	快適☆宮崎スギの家
111	長期優良住宅南九州の家協議会	鹿児島県鹿児島市真砂町12-1	高橋 圭悟(株式会社NSレジデンス)	高橋 圭悟(株式会社NSレジデンス)	長期優良住宅「南九州の家」
112	ダーウィンの会	鹿児島県鹿児島市東開町3-75	長野 明人(株式会社木脇)	長野 明人(株式会社木脇)	かごしまよか家
113	【本物の木のいえ】研究会	鹿児島県霧島市国分下井844番地	有村 康弘(有限会社アリムラウドワーク)	横田 秀喜(株式会社工務店支援機構風土里舎)	本物の木のいえ
114	霧島住まいの協議会	鹿児島県霧島市国分広瀬4-7-6	竹下 修(有限会社リアルナンニチ)	米田 裕一(株式会社米田)	霧島杉利用住宅『霧島の家』
115	かごしまハイテクウッド協会	鹿児島県鹿児島市東開町10番地4	梶川 幸夫(鹿児島県木材商業協同組合)	石川 健二(鹿児島県木材商業協同組合)	認証かごしま材の家

※グループ名称及びグループ所在地等は採択時の内容となっています。

編集：坂本編集事務所
デザイン・制作：アド・ハウス
印刷：神谷印刷株式会社

全国木造住宅生産体制推進協議会

【一般社団法人 木を活かす建築推進協議会内】

〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19アドレスビル5F

TEL 03-3560-2882 FAX 03-3560-2878

発行：2013年3月

発行人:一般社団法人 木を活かす建築推進協議会

住所:〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19アドレスビル5F